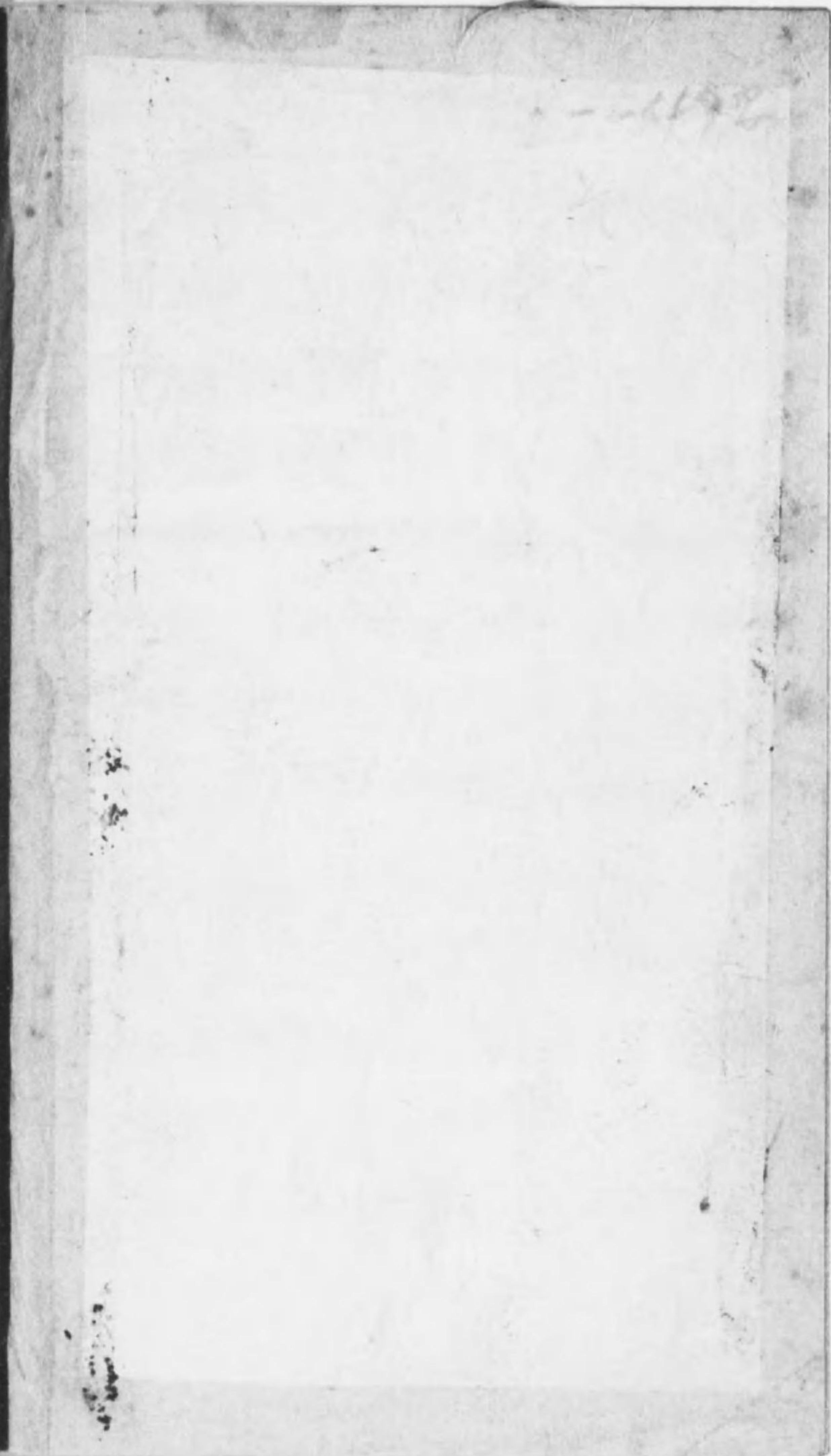
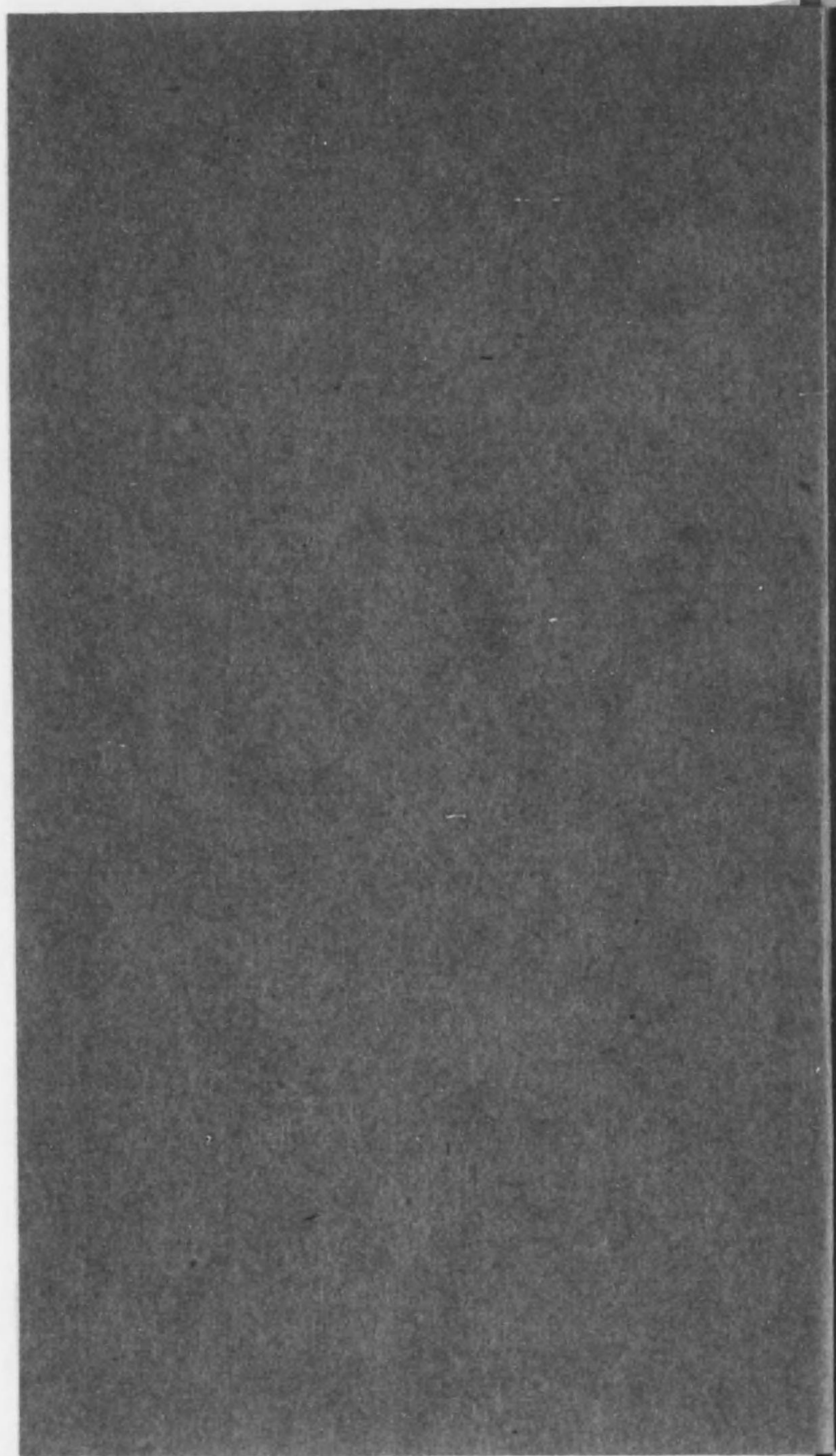


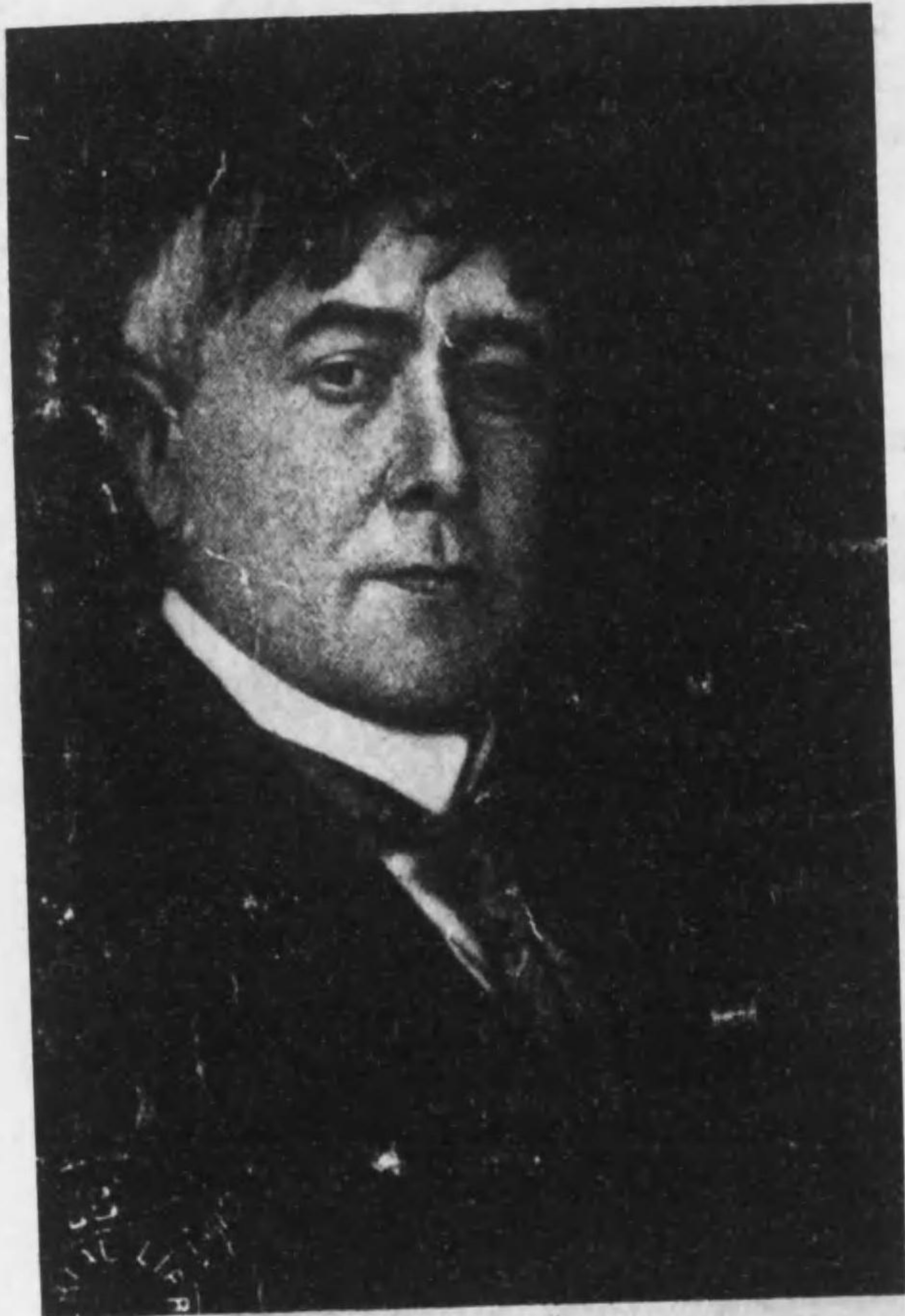
始



952

MA27a





Maurice Maeterlinck.
from a photograph by E. G. Heppie.

952
Ma27a

メーテルリンク

青い鳥



飯田敏雄 譯註

656-79

- 1 -

序

Maeterlinck 氏の劇及び思想の傾向

“Princess Maleine” といふ五幕物の劇を一八八九年に書いて、當時の批評家から Belgian Shakespeare と驚嘆された Maurice Maeterlinck 氏は、其後 “Pelléas et Mélisande” (Pelleas and Melisanda), “Mouana Vanna” 等の作によつて歐洲現代劇作家中第一流の、殊にその作意と劇的効果が従來のどんな劇にも見られないものであるといふ點に於いて獨特の地位にある作家と認められるに至つたが、更に一九〇九年この “L'Oiseau Bleu” (The Blue Bird) を出してかは殆ど世界的の作家となつてしまつた。世界的といふ意味は、勿論この作が優れたものであるといふ事からも言ひ得ることであるが、一には歐洲各國に於てこの劇の名が知られ、それが翻譯され、實演され、日本の兒童の間にも「青い鳥」の物語が喧傳されてゐる事實からも言ひ得られる事である。どうして此作が斯く世界的になつたかといふ理由に就いては、私は此處では何も言はないことにして、唯讀者の讀後の印象と鑑賞とに任せたいと思ふ。私は唯 Maeterlinck 氏の劇がどういふ傾向のものであるか、どういふ作意によつて書かれたものであるか、又彼れが思想家としてどういふ立場にある人であるかを簡単に述べて、この劇を讀む人の用意に備へたいと思ふのである。

Maurice Maeterlinck は一八六二年八月ベルギー Flanders の Ghent (ガン市) に一公證人の子として生れた。Ghent といふ市は今日可成り繁華な商業市として知られてゐるが、この

詩人は幼い頃からこの町の昔ながらの沈静な風物を愛してゐた。即ち黒い妙な眼を光らせてゐるやうな物見樓や、沈滞した水面に白鳥の泳いでゐる黒すんだ運河や、中世紀風の城門や、壁に隠れた僧院や、寛濶な鬨んだ衣服を着、襷紐のある帽子を被つた尼の姿などが深く彼れの心をつかへたらしい。彼れが一八八九年に出した“Serres Chaudes” (Hot-houses) といふ詩集や“*The Blue Bird*”以前の彼れの多くの劇を見れば、叙上の故郷から受けた感銘が如何に強かつたかは容易に肯はれることである。彼れは幼い頃は Jesuit 派の或る學校で教育を受けたと言はれてゐる。併しこの學校の氣風を彼れは非常に嫌つた。それから一八八五年 Ghent の大學に入學して法律を勉強し、二十四歳の時には Ghent の町に辯護士として現はれた。併し彼れは學生生活の間に既に Ruysbroeck だの、Jakob Boehme だの、Swedenborg だのといふ昔の神秘家の著書を耽讀し、研究してゐた。これが彼れの今日までの思想の基調をなしてゐることは確かである。併し同時に彼れは其頃から神學の方にも大に趣味を持つてゐた、この事も彼れの思想の上に大に力を與へてゐることを否む事は出来ない。だが、彼れの天分は遂に詩人として發露した。彼れは辯護士を一年程やつたばかりで、一八八六年友人の詩人 Grégoire Roy と一緒にパリに出て、當時の象徴派の詩人等の間に知遇を求めた。その結果は彼れの處女詩集“*Serres Chaudes*” (Hot-houses) となつて現はれた。彼れが詩人としてどんな立場にある人か、その詩がどんなものであるか、これをこの短い序文の間で述べるには、餘りに特別な研究に屬することであつて、私に別に一文を草する餘裕を與へて貰はなければならぬ。

“*Serres Chaudes*” を出した同じ年に彼れは又劇の方でも處女

作“*Princess Maleine*”を出した。之が既に彼れを世界的大劇作者として知らしむる第一歩であつた。當時の批評家はこの作を見て彼れを Belgian Shakespeare と呼んだ。眞實その天分に對してこの名稱は過言ではなからう。併し彼れがこの作に於いて試みた所は Shakespeare の行方とは大した異ひのものである。これが悲劇たる點に於いては“*Hamlet*”や“*Macbeth*”と共通な所もあらうが、其場面が生ずる効果は非常に異つたものである。而してその特色はそれ以後の彼れの劇に共通のものであるから、今それ等の作名を年次的に紹介した上で、その事を簡単に述べて見たいと思ふ。

Les Aveugles (The Sightless), *L'Intruse* (The Intruder) 1890, *Les Sept Princesses* (The Seven Princesses) 1891, *Pelléas et Mélisande* (Pelleas and Melisanda) 1892, *Alladine et Palomides* (Alladine and Palomides), *Intérieur* (Interior), *La Mort de Tintagiles* (The Death of Tintagiles) 1894, *Aglavaine et Selysette* (Aglavaine and Selysette) 1896, *Monna Vanna* (1902), *Joyzelle* (1903).

これ等の劇が形式上に有する特色は、“*Monna Vanna*”と一時の現代物と思はれるものを除いて凡て時代が何時とも定められてゐない事、場面が何國の何處とも分らぬ事、而して多く古い城、洞窟、森林、宮殿等神秘的な空氣の漂うてゐる場所を取つてゐる事、又人物の對話が極めて短く暗示的である事等である。而して彼れは之等の形式によつて何を示さうとしたか、其處に彼れ獨特の作意があり、思想の表現があるのである。即ち彼れはこの短いトギレトギレの對話の中に、從來の劇に見られなかつた人間の靈の閃き、その葛藤を表はさうとし、瑣細な出來事の後ろに恐るべき運命の力の潜んでゐることを示さうとした

のである。換言すれば彼れの劇の目的は、人間の情熱の争闘によつて人を動かさうとするのでなく、或る見えざる運命に對する人間の無力さを感じしめ、人間の生活には外に表はれた生活以外に目に見えない靈の生活があることを知らさうとするにある。而してこの初期の作は何れも暗い運命觀に囚はれたもので何れも恐ろしい運命の力に對して人間の努力の無に終ることを描いてゐるが、それ等の作の後ろに隠れてゐる思想は彼が一八九六年に出した“Le Trésor des Humbles” (The Treasure of the Humble) といふ論文集によく窺ふことが出来る。併し彼れのこの暗い運命觀は後になつて變つて來た。一八九九年に出した“La Sagesse et la Destinée” (The Wisdom and Destiny) といふ論文集に於いては、今迄暗い恐ろしい運命の前に屈服し戦いてゐた彼れは、この不可抗的な運命に對して人間は常に幸福でゐられる、それは智慧と愛を持つことによつてであるといふ思想を強い信念の下に唱へ出した。悲觀的詩人は萬象を睿智と愛の光を以て觀する哲人と變つた。而して劇の方でも後期の作には確かこの思想の閃きを認めることが出来る。“Aglavaine et Selysette” や “Joyzelle” 等を見れば明に彼れの思想がさういふ方面に轉化しつゝあることが分る。尙此處に一つ附加して置かなければならぬ事は、彼れが常に女性の靈の純潔を稱へてゐることである、此の意味に於いて彼れは女性崇拜家である。この傾向は前後を通じて彼れのどの作にも表はれてゐて、「青い鳥」より後に出た“Mary Magdalene” 等にも見ることが出来る。さて然らば最後に“L'Oiseau Bleu” (The Blue Bird) はどんな作意と思想との下に生れたものであらうか。

“The Blue Bird” に就いて

“The Blue Bird” は一九〇九年の作で Maeterlinck の劇中比較的新しいものであり、形式もそれ以前の作と異つて童話劇、寓喩劇である。然もこの作の基調を爲してゐる思想はやはり先に述べた後年の“*The Wisdom and Destiny*” 等に胚胎してゐる幸福觀である。樵夫の子供の Tytyl と Mytyl とが妖女の頼みを受けて青い鳥を探しに出る。彼等は「光」を案内者とし、「麵麩」や「砂糖」や「火」や「水」や「犬」や「猫」を連れて「記憶の國」や「夜の宮殿」や「未來の國」等に行つて、種々な困難と戦つてその鳥を捕へて來るが、其處を出れば鳥は色が變つたり死んだりしてしまふ。遂に長夜の夢が覺めて見れば、青い鳥とは結局自分の家の鳥籠にゐるのがそれであつたといふ筋のものである。この青い鳥は即ち幸福の象徴である。人は幸福を遠い所に求めて右往左往してゐるが、安んぞ知らん、幸福は自分の身邊にあるものをといふ寓意である。

この劇はその年一九〇八年にモスコウの藝術座で初めて演ぜられ、翌年十二月にはロンドンの Haymarket Theatre で Herbert Trench 氏が舞臺にかけ、これが翌年六月まで續けられ、更に其年のクリスマスに再演された程好評を博した。それ以後の事は言ふも愚である。私はこの作の興へる興味と劇的効果に就いては此處に冗しない、その方は讀者がこの書物を英語の勉強に用ひられる旁鑑賞されることを偏に希望する者である。

“The Blue Bird” 以後の著述

以上私はこの“*The Blue Bird*” を讀む上の手引にと思つて

主として Maeterlinck 氏の劇とその基調を爲してゐる思想とに就いて述べた。併し Maeterlinck 氏には他の幾面かゝある。詩人として、又神秘思想の研究家としての事は先に一言した通りであるが、“La Vie des Abeilles” (The Life of the Bee) 1901, “L’Intelligence des Fleurs” (The Intelligence of Flowers) 1907 等に於いては自然界の観察者としての、又瞑想的哲人としての彼れの一画が窺はれる。併しそれ等に就いては此處に言及する餘裕がない。唯 “The Blue Bird” 以後彼れの思想がどんな方に向つてゐるかは是非一言して筆を止めたいと思ふ。彼れは其後一九一〇年に “Mary Magdalene” といふ劇を出し、一九一四年には “The Blue Bird” の續篇に當るものを書いたといふことであるが、譯者は遺憾ながらこの作はまだ読んでゐない。併し之等の劇に流れてゐる彼れの思想は依然彼の “Wisdom and Destiny” に表はれた思想と變らないものと言はれてゐる。尙ほ一九一二年頃 “La Mort” (The Death) といふ書物が出た、この書に於いては彼れの樂天觀は頂上に達し、「死は生の終極ではなくして吾々の知らない生の一形式」だと唱へてゐる。之に引續いて “The Unknown Guest” といふ著が一九一四年に出た、此の書に於ても彼れの研究は死後の生活、心靈の現象等の方に傾いて來たが、唯數年前氏の内面生活の伴侶であり氏の劇の Heroine をも演じて名聲高かつた Leblanc 夫人と或る事情によつて別れてからの氏の近業は餘り聞かれてゐないかと思ふ。

本書の譯註に就いて

本書の Text には A. Teixeira de Mattos 氏の英譯を用ゐた。作は六幕十二場から成つたものであるが、その中第三幕第

二場の The Forest の場面と第四幕の The Land of Happiness とは後になつて加へたもので最初書卸された時には五幕物であつたといふことである。而してこの譯註書は紙數の都合上六幕物の全部を収めることは六ヶしいので、以上擧げた一幕一場を省くことにした。併しそれで作者が書卸しの時のものと同じものとなつたのであるから、筋に於いて何等連續しない所や無理な所はなく、それによつて讀者の興味を削ぐ虞れはない筈である。私は省略の結果が斯く都合好く行つたことを甚だ喜ばしく思つてゐる。尙ほ翻譯に際しては、本書の目的が英語の正當なる解釋にあるのであるから、一切原文の佛文は参考しないことにして、英譯通りに従つた、従つて英譯が原文と幾分異つてゐる所があつてもそれを比較することは全然避けて、唯英語の讀物として譯註を加へたことを承知して戴きたい。

飯 田 敏 雄

SCENES

ACT I. —The Wood-cutter's Cottage.

ACT II., Scene 1—At the Fairy's.

Scene 2—The Land of Memory.

ACT III., —The Palace of Night.

ACT IV., Scene 1—Before the Curtain.

Scene 2—The Graveyard.

Scene 3—The Kingdom of the Future.

ACT V., Scene 1—The Leaving-taking.

Scene 2—The Awakening.

CHARACTERS

Tyltyl
Mytyl
Light
The Fairy Berylune
Neighbour Berlingot
Daddy Tyl
Mummy Tyl
Gaffer Tyl
Granny Tyl
Ty'tyl's Brothers
and Sisters } *Dead*
Time
Night
Neighbour Berlingot's
Little Daughter
Tylô, the Dog
Tylette, the Cat
Bread
Sugar
Fire
Water
Milk
Stars, Sickness, Shades, etc.

Daddy, Mummy, Granny はそれぞれ Father, Mother, Grandmother の俗用語或は子供の使ふ呼稱で、とうちゃん、かあちゃん、ばあちゃんに當る。

人 物

ティルティル
 ミティル
 光
 妖女ベリリユーン
 隣のパルランゴ(をばさん)
 とうちゃんのティル
 かあちゃんのティル
 お祖父さんのティル } *死んだ*
 お祖母さんのティル } *人々*
 ティルティルの弟妹達
 時
 夜
 隣のパルランゴの小さい娘
 犬、ティロー
 猫、ティレット
 麵麩
 砂糖
 火
 水
 乳
 其他星、病氣、影等

Gaffer は田舎親爺、若くは名前に付けて「...爺さん」といふ語。本文中子供の呼稱には Grandad(おいちゃん) が使つてある。凡て之等は本文科白の指名には簡にする爲父、母、祖父、祖母と用ひた。

THE BLUE BIRD

The Blue Bird
ACT I

The Wood-cutter's Cottage

The stage represents the interior of a wood-cutter's cottage, simple and rustic in appearance, but in no way poverty-stricken. A recessed fireplace containing the dying embers of a wood-fire. Kitchen utensils, a cupboard, a bread-pan, a grandfather's clock, a spinning-wheel, a water-tap, etc. On a table, a lighted lamp. At the foot of the cupboard, on either side, a Dog and a Cat lie sleeping, rolled up, each with his nose in his tail. Between them stands a large blue-and-white sugar-loaf. On the wall hangs a round cage

in appearance 外観は、見たところ。○

in no way=not in any respect (manner) どう見ても少しも……でない。○ **in no wise** とも云ふ。

poverty-stricken=poor, 貧困な。

dying 消えかゝつた。

青い鳥

第一幕

樵夫の小舎

舞臺は見たところ質素で田舎めいてはゐるが、少しも貧困ではない。樵夫の小舎の中を見せてゐる。薪の燃えさしのある引込んだ暖爐。勝手道具、戸棚、麵麴入鉢、木の箱に入つた振り時計、糸車、水栓など。卓子の上にはランプに燈火が点いてゐる。戸棚の下の所に、兩側に、犬と猫がそれぞれ尾に鼻を突込んで、丸くなつて眠つてゐる。犬と猫の間には大きな青白の砂糖の塊が置かれてゐる。壁には雉子鳩の入つた丸い鳥

utensils 主として勝手道具。

grandfather's clock 高い木製の箱に入つた振子の付いた時計。

on either side は both sides の一つ一つの側を指した形で、結局「兩側に」の意である。

rolled up 體をくるりと巻いて。

THE BLUE BIRD

containing a turtle-dove. At the back, two windows, with closed inside shutters. Under one of the windows, a stool. On the left is the front door, with a big latch to it. On the right, another door. A ladder leads up to a loft. On the right also are two little children's cots, at the head of which are two chairs, with clothes carefully folded on them. When the curtain rises, Tyltyl and Mytyl are sound asleep in their cots. Mummy Tyl tucks them in, leans over them, watches them for a moment as they sleep and beckons to Daddy Tyl, who thrusts his head through the half-open door. Mummy Tyl lays a finger on her lips, to impose silence upon him, and then goes out to the right, on tiptoe, after first putting out the lamp. The scene remains in darkness for a moment. Then a light, gradually in-

with closed inside shutters, shutter(錠戸)には硝子戸の outside (外側)から締めるものと inside(内側)から締めるものとあつて、これは後者の方でそれが閉つてゐる意。

with a big latch to it それに大きな錠がかゝつて。

leads up to...に通ずる。

THE BLUE BIRD

籠が掛つてゐる。背面に二つの窓があつて、内から締めるやうになつた錠戸が閉ざされてゐる。一つの窓の下には床几が一つ。左側には入口の戸があつて、大きな錠^{かけがね}が掛つてゐる。右側にも戸が一つ。梯子があつて天井裏の物置に通ずるやうになつてゐる。右手には又二つの小さい子供の寢床があつて、その枕許に二つの椅子があり、それには丁寧に畳まれた着物が載せられてゐる。幕が上ると、ティルティルとミティルが寢床の中でぐつすり寝入つてゐる。かあちゃんのティルが二人を蒲團にくるんでやつて、上に凭れ掛り、二人が眠つてゐるので暫くちつと眺めて居り、それからとうちやんのティルを庵く、とうちやんは半分開けられた戸から首を差出す。かあちゃんのティルは唇に指を當てゝ、とうちやんに黙つてゐなさいと命令ける、それから先づランプを消してから、爪立して右手の方に出て行く。舞臺は少時暗闇のまゝになる。その中

children's cots, cots だけでも子供の寢床で、主に蒲床である。

are sound asleep の sound は副詞である。sound sleep(熟睡)とある時は形容詞。

tucks them in, tuck a child up in bed など、使つて、子供に蒲團を掛けてやる。

beckons to 庵く。

lay a finger on one's lips, 唇に指を當てるは「黙つて」「静かに」といふ合圖。

on tiptoe 爪立ちして。抜き足して。

after first putting out the lamp の first は副詞で「先づ」の意。put out は燈火を消す。

THE BLUE BIRD

creasing in intensily, fitters in through the shutters. The lamp on the table lights again of itself, but its light is of a different colour than when Mummy Tyl extinguished it. The two Children appear to wake and sit up in bed.

Tyltyl. Mytyl?

Mytyl. Tytyl?

Tyltyl. Are you asleep?

Mytyl. Are you? . . .

Tyltyl. No; how can I be asleep when I'm talking to you?

Mytyl. I say, is this Christmas Day? . . .

Tyltyl. Not yet; not till to-morrow. But Father Christmas won't bring us anything this year. . . .

Mytyl. Why not?

of itself ひとりでに。例：— I awoke of myself. 私はひとりでに眼を覚ました。

is of a different colour の of は後の抽象名詞 colour と合して形容詞の役をする、They are of an age「彼等は同年輩だ」等も同じ。

— Are you? . . . は Are you asleep? を約めた形で「あなたは」といふ問返し。

how can I be asleep? どうして眠つてゐるわけがあらう、眠つて

THE BLUE BIRD

に光が次第に強さを増して来て鑑戸から洩れて差し込む。卓子の上のランプが復ひとりでに点く、併しその光はかあちやんのテイルが消した時とは異つた色をしてゐる。二人の子供は眼を覺まして、寢床に起き上る様子。

テイルテイル。 ミテイルかい?

ミテイル。 テイルテイル兄さん?

テイルテイル。 お前眠つてるの?

ミテイル。 兄さんは……?

テイルテイル。 いや。お前に話してゐるのに眠つてるなんてことあるもんか。

ミテイル。 あら、今日はクリスマスなの?……

テイルテイル。 まだだよ。明日まではさうちやないよ。だけど、クリスマスのお爺さんは今年は僕等に何も持つて来てくれないだらうよ。……

ミテイル。 どうして持つて来てくれないの?

などはゐない。

I say 此處では驚きを表はす語で「あら」「まあ」など。

Father Christmas は Santa Claus の事。

won't=will not.

Why not? 前が Negative の文であるから not を入れて問ひ返したので「どうして持つて来ないの?」。

I heard mummy say の say は heard の後にあるので Infinitive の to を省いた形。

THE BLUE BIRD

Tyltyl. I heard mummy say that she couldn't go to town to tell him. . . . But he will come next year. . . .

Mytyl. Is next year far off? . . .

Tyltyl. A good long while. . . . But he will come to the rich children to-night. . . .

Mytyl. Really? . . .

Tyltyl. Hullo! Mummy's forgotten to put out the lamp! . . . I've an idea! . . .

Mytyl. What? . . .

Tyltyl. Let's get up. . . .

Mytyl. But we mustn't. . . .

Tyltyl. Why, there's no one about. . . . Do you see the shutters? . . .

Mytyl. Oh, how bright they are! . . .

Tyltyl. It's the lights of the party.

Mytyl. What party? . . .

Tyltyl. The rich children opposite. It's the Christmas-tree. Let's open the shutters. . .

far off=remote, ずっと先き(距離にも時にも云ふ)。

a good long while の good は pretty(かなり)の意。a good many . . . など使はれたのに同じ。

Mummy's forgotten=Mummy has forgotten.

I've an idea! 私に思ひ付きがある、うまいことがある。

THE BLUE BIRD

ティルティル。お母さんが町にさう云ひに行けなかつたつて言つてるのを聞いたよ。……だけど來年は來るんだらう。

ミティル。來年はずつと先き?……

ティルティル。まだずつと後さ。……だけど今夜お金持ちの子供の所には來るんだらう。

ミティル。ほんとに?……

ティルティル。あれ!……かあちゃんランプを消すのを忘れてらあ!……さうだ、うまいことがある。……

ミティル。なあに?……

ティルティル。起きようよ。……

ミティル。だけれどまだ可けないわ……。……

ティルティル。おや、誰もゐないぞ。……お前にあの扉が見えるかい?……

ミティル。まあ、何て明るいでせう!……

ティルティル。あれはお祝の燈火だよ。

ミティル。何のお祝ひ?……

ティルティル。向うのお金持ちの子供のさ。あれがクリスマス樹だ。扉を開けよう……。……

I've=I have. *there's*=there is.

about 副詞で、「周圍に」。

the party 此處ではクリスマスの團圓。

opposite 向うの。

THE BLUE BIRD

Mytyl. Can we? . . .

Tyltyl. Of course; there's no one to stop us. . . . Do you hear the music? . . . Let us get up. . . .

(The two Children get up, run to one of the windows, climb on to the stool and throw back the shutters. A bright light fills the room. The Children look out greedily.)

Tyltyl. We can see everything! . . .

Mytyl. (*who can hardly find room on the stool*)
I can't. . . .

Tyltyl. It's snowing! . . . There's two carriages, with six horses each! . . .

Mytyl. There are twelve little boys getting out! . . .

Tyltyl. How silly you are! . . . They're little girls. . . .

Mytyl. They've got knickerbockers. . . .

Tyltyl. What do you know? . . . Don't push so! . . .

look out 窓から覗く。

THE BLUE BIRD

ミティル。開けられて? .

ティルティル。開けられるつて。誰も止める者はありません。
……あの音楽が聞えるかい? ……さあ起きようよ……

(二人の子供達は起上つて、窓の一つに走つて行き、床几に上り錠戸を押開ける。眩い光が室一ぱいになる。子供達は夢中で窓から覗く。)

ティルティル。すつかり見えるね! ……

ミティル。(床几に足をのせる餘地が殆どないので)私見えな
いわ。……

ティルティル。雪が降つてるぞ! ……六頭立の馬車が二つある! ……

ミティル。小さい男の兒が十二人出て来るわ! ……

ティルティル。馬鹿だなあ! ……ありや女の兒だよ……

ミティル。でも半ズボンを穿いてるわ。……

ティルティル。知りもしないで……そんなに押すなよ。……

greedily = eagerly, keenly.

can hardly find room 殆ど餘地が見付からない。

with six horses each 各の馬車が六頭立ち。

getting out 馬車を出て来る。

They're = They are.

They've = They have.

knickerbockers 半ズボン。

What do you know? 何をお前が知つてるものか、何も知つては
るない。

THE BLUE BIRD

Mytyl. I never touched you.

Tyltyl (*who is taking up the whole stool*)

You're taking up all the room. . . .

Mytyl. Why, I have no room at all! . . .

Tyltyl. Do be quiet! I see the tree! . . .

Mytyl. What tree? . . .

Tyltyl. Why, the Christmas-tree! . . . You're looking at the wall! . . .

Mytyl. I'm looking at the wall because I've got no room. . . .

Tyltyl. (*giving her a miserly little place on the stool*)

There! . . . Will that do? . . . Now you're better off than I! . . . I say, what lots and lots of lights! . . .

Mytyl. What are those people doing who are making such a noise? . . .

Tyltyl. They're the musicians.

Mytyl. Are they angry? . . .

take up=occupy 占領する。

Do be quiet は Be quiet を強めた言方。

Why, 問投詞で「あら」「まあ」等に當る。

I've got=I have got で have got は單に have と同じ。

miserly little place は「けちな僅かな場所」で邦語では意味を取つて「けちけちと僅かな場所を」と譯して可。

Will that do? do は「間に合ふ」の意。例：— Either will do. ど

THE BLUE BIRD

ミティル。私兄さんにちつとも觸りやしなかつたわ。

ティルティル。(床几全体を占領してゐながら)。お前がすつかり場所を取つてゐるんだもの……

ミティル。まあ、私にもちつとも場所はあるやしないわ。……

ティルティル。静かにおしよ。樹が見えるぜ! ……

ミティル。何の樹が? ……

ティルティル。そりや、クリスマス樹さ! ……お前は壁を見てるんだ! ……

ミティル。私にちつとも場所がないから、壁を見てゐるのよ!

ティルティル。(けちけちと床几の上に僅かな場所を分けてやりながら) それ! ……それで好いか? ……今度はお前の方が僕よりすつと具合が好いぞ! ……あら、何て澤山な燈火だらう! ……

ミティル。あんな騒ぎをしてあの人達は何をしてるの? ……

ティルティル。あれは音楽をやる人達だよ。

ミティル。あの人達は怒つてるの? ……

ちらでも好い。

better off, well off の比較級で、「工面が好い」「うまくやつてる」など。

I say 前出。

lots and lots, a lot of; lots of... で「澤山の」であるが、更にそれを強めた言方。

who は those people を指す。

THE BLUE BIRD

- Tyltyl.* No ; but it's hard work.
Mytyl. Another carriage with white horses ! . . .
Tyltyl. Be quiet ! . . . And look ! . . .
Mytyl. What are those gold things there,
 hanging from the branches ?
Tyltyl. Why, toys, to be sure ! . . . Swords,
 guns, soldiers, cannons. . . .
Mytyl. And dolls ; say, are there any dolls ? . . .
Tyltyl. Dolls ? . . . That's too silly ; there's
 no fun in dolls. . . .
Mytyl. And what's that all round the table ? . . .
Tyltyl. Cakes and fruit and tarts. . . .
Mytyl. I had some once when I was little. . . .
Tyltyl. So did I ; it's nicer than bread, but
 they don't give you enough. . . .
Mytyl. They've got plenty over there. . . .
 The whole table's full. . . . Are they going
 to eat them ? . . .

hard work. 一生懸命の仕事。work hard (一生懸命にする), hard worker (勉強家) 等使ふ。
say. 命令法で、此處では女の子の言葉として「ちよいと」などに當る。
That's too silly 餘り馬鹿げてゐる、人を馬鹿にしてゐる。
there's no fun in dolls. 人形などに面白いことは少しもない。
all round the table 卓子の周圍にずらりとある、で前の that を形容してゐる。

THE BLUE BIRD

- ティルティル。* さうぢやないさ。だけど一生懸命なんだ。
ミティル。 白い馬の別の馬車が来たわ。……
ティルティル。 静かにおしよ！…… それで覽！……
ミティル。 あの枝から下つてゐる金のものは何？
ティルティル。 ありや、玩具さ、きつと！ 劍や鐵砲や兵隊や
 大砲や……。
ミティル。 それから人形も。ちよいと、人形はあつて？
ティルティル。 人形？……人馬鹿にしてらあ、人形なんかち
 つとも面白いことありやしない。……
ミティル。 それから卓子の周圍にあるのは何？……
ティルティル。 御菓子だの果物だのお饅頭だのだよ。……
ミティル。 私小さい時に食べたことがあつてよ。……
ティルティル。 僕だつてさ。麵麩より^{おいし}美味いぜ、だけど澤山な
 んか貰へやしない。……
ミティル。 あつちでは皆澤山貰つてゐよ。……卓子に一ぱい
 ……みんな食べるんでせうか？

tarts 果物などを入れた饅頭様の菓子。
some は上の cakes and fruit, etc. を指す。
So did I. did は前の had に代へた語で、語が此の順序に置かれた
 時には「私も……した」の意になる。例：— So am I (私もさうです)。
over there 遠方を指して「向ふの」「あちらの」。
table's full=table is full.
what else 他に何を(と)。

THE BLUE BIRD

Tyltyl. Of course; what else would they do
with them? . . .

Mytyl. Why don't they eat them at once? . . .

Tyltyl. Because they're not hungry. . . .

Mytyl. (*stupefied with astonishment*)

Not hungry? . . . Why not? . . .

Tyltyl. Well, they eat whenever they want
to. . . .

Mytyl. (*incredulously*) Every day? . . .

Tyltyl. They say so. . . .

Mytyl. Will they eat them all? . . . Will
they give any away? . . .

Tyltyl. To whom? . . .

Mytyl. To us. . . .

Tyltyl. They don't know us. . . .

Mytyl. Suppose we asked them. . . .

Tyltyl. We mustn't.

Mytyl. Why not? . . .

Tyltyl. Because it's no right.

do with..... 處置する。例：— I don't know what to do with it (そ
れをどう處置してよいやら分らぬ)。

stupefied 氣が茫となつて、呆れて。

they want to...to eat と言ひかけて止めた形。

THE BLUE BIRD

ティルティル。 當り前さ。それでなくてどうするものか?

ミティル。 何故直ぐに食べないんでせう?

ティルティル。 お腹が空いてゐないからだよ。.....

ミティル。 (驚き呆れて) お腹が空いてゐないんだつて? ど
うしてそんな事が?

ティルティル。 そりや、あの人達は食べたい時に何時でも食べ
れるのさ.....

ミティル。 (奇しいといふ様子で) 毎日?

ティルティル。 さうだつてさ.....

ミティル。 あの人達はあれをみんな食べるんでせうか? 分
けてくれないでせうか?

ティルティル。 誰に?

ミティル。 私達によ.....

ティルティル。 向うは僕達を知らないよ.....

ミティル。 お頼みしたら.....。

ティルティル。 そんな事出来ないよ。

ミティル。 どうして出来ないの?

ティルティル。 そんな事よくないからさ。

They say so の they は世間の人を云ふ。

give...away 贈物をする、施す等の用法。

suppose=if で接續詞と同じ用法。

THE BLUE BIRD

Mytyl. (*clapping her hands*)

Oh, how pretty they are! . . .

Tyltyl. (*rapturously*) And how they're laughing
and laughing! . . .

Mytyl. And the little ones dancing! . . .

Tyltyl. Yes, yes; let's dance too! . . . (*They
stamp their feet for joy on the stool.*)

Mytyl. Oh, what fun! . . .

Tyltyl. They're getting the cakes! . . . They
can touch them! . . . They're eating, they're
eating! . . .

Mytyl. The tiny ones, too! . . . They've got
two, three, four apiece! . . .

Tyltyl. (*drunk with delight*) Oh, how
lovely! . . . Oh, how lovely, how lovely! . . .

Mytyl. (*counting imaginary cakes*) I've got
twelve! . . .

Tyltyl. And I four times twelve! . . . But
I'll give you some. . . .

rapturously 嬉しさに有頂天になつて、夢我夢中になつて。

let's=let us. stamp their feet 足拍子を踏む。

can touch them の *can* は *may* と同意で.....しても好い。

apiece=each, severally で、各自。

THE BLUE BIRD

ミティル。(手を拍きながら)まあ、あの人達綺麗だわね!

ティルティル。(夢中になつて)そしてあれあんなに笑つて!

ミティル。小さい子が踊つてゐるわよ!.....

ティルティル。さう、さう。僕達も踊らうよ!.....(二人は床
几の上で喜んで足拍子を踏む)

ミティル。ほんとに面白いわね!.....

ティルティル。あの人達はお菓子を貰つてゐるよ!.....もう
お菓子に手を付けても好いんだね!.....やあ、食べてる、
食べてる!.....

ミティル。小ちやい子供達もよ!.....みんな二つ、三つ、四
つづゝ貰つてよ!.....

ティルティル。(嬉しさに酔うたやうになつて)あゝ、好いなあ
好いなあ!.....

ミティル。(菓子を自分も貰つたつもりになつて数へながら)
私は十二貰つてよ!.....

ティルティル。僕は十二の四倍も貰つたぜ!.....だけどお前
に少し上げよう。.....

*drunk with...*に酔うて。

imaginary cakes 心にだけ思つてゐる菓子で、実際に貰つて居らぬ
故斯く言ふ。

four times twelve 十二の四倍。

I'll=I will.

THE BLUE BIRD

(A knock at the door of the cottage.)

Tyltyl. (suddenly quieted and frightened)

What's that? . . .

Mytyl. (scared) It's Daddy! . . .

(As they hesitate before opening the door, the big latch is seen to rise of itself, with a grating noise; the door half opens to admit a little old woman dressed in green with a red hood on her head. She is humpbacked and lame and near-sighted; her nose and chin meet; and she walks bent on a stick. She is obviously a fairy.)

The Fairy. Have you the grass here that sings or the bird that is blue? . . .

Tyltyl. We have some grass, but it can't sing. . . .

Mytyl. Tyltyl has a bird.

Tyltyl. But I can't give it away. . . .

The Fairy. Why not?

Tyltyl. Because it's mine.

scared 脅かされて、怖れて。
of itself 前出。
grating noise ギーツと軌る音。
the door.....opens to admit 戸が開いて.....を入れる、則ち戸が開いて.....が入る。

THE BLUE BIRD

(小舎の戸を叩く音がする)

ティルティル。(急に聲を止めびつくりして)何だらう?

ミティル。(怖くなつて)とうちやんだわ!.....

(まだ戸を開けずに二人がぐづぐづしてゐる中に大きな錠がギーッと音がしてひとりでに上るのが見える。戸が半分開いて頭に赤い頭巾を被り緑色の衣服を着た一人の小さなお婆さんが入つて来る。彼女は尙儂で跛で近眼である。鼻の先が下つて腮と衝かつてゐる、そして前屈みに杖にすがつて歩く。見ただけで彼女は妖女だといふ事が分る。)

妖女。此處に歌を歌ふ草か、青い鳥があるかの?.....

ティルティル。草はあるけれど、歌は歌へないよ。.....

ミティル。ティルティル兄さんは鳥は持つてゐよ。

ティルティル。だけどあれは遣れないよ。.....

妖女。何故ね?.....

ティルティル。だつて僕のだもの。

her nose and chin meet 鼻の先が下に釣の如く曲つて腮と付いてゐる。
is obviously.....見ただけで明に.....であることが分る。
give.....away 前出。

THE BLUE BIRD

The Fairy. That's a reason, no doubt. Where is the bird? . . .

Tyltyl. (*pointing to the cage*) In the cage. . .

The Fairy. (*putting on her glasses to examine the bird*)

I don't want it; it's not blue enough. You will have to go and find me the one I want.

Tyltyl. But I don't know where it is. . .

The Fairy. No more do I. That's why you must look for it. I can do without the grass that sings, at a pinch; but I must absolutely have the blue bird. It's for my little girl, who is very ill.

Tyltyl. What's the matter with her? . . .

The Fairy. We don't quite know; she wants to be happy. . . .

Tyltyl. Really? . . .

The Fairy. Do you know who I am? . . .

That's a reason, no doubt. 確かにそれは一の理由だ。

put on.....glasses 眼鏡を掛ける。

not blue enough まだ十分に青くなつてゐない。

have to...=must.

No more do I.=I do not know any more than you know=I know

THE BLUE BIRD

妖女。 そりやさうだらう。その鳥は何處にゐるかの？

ティルティル。(籠を指しながら) あの籠の中に……

妖女。(眼鏡をかけてその鳥を檢べる。) これなら要らない。

そりやまだすつかり青くない。お前方は行つて私の欲しいのを見付けてくれなけりやなるまい。

ティルティル。 だけど僕何處に居るか知らないもの……。

妖女。 そりや私だつて知らないよ。だからお前方がそれを捜してくれなけりや困る。仕方なければ歌を歌ふ草は無くても済むが、青い鳥だけは何でもかんでも無けりやいけないんだよ。私の小さい娘のに要るんだから、娘は大へん具合が悪いんでね。

ティルティル。 娘さんはどうしたの？……

妖女。 よくは分らないがね、^{しあはせ}幸福になりたいんだよ。……

ティルティル。 ほんとに？……

妖女。 お前私が誰だか知つておゐでかね？……

as little as you know. お前も知らぬだらうが私も同様知らぬ。

That's why...=That is the reason why...,それだから……。

look for... 探す。

do without.....は.....なしで済ます。なしでやつて行く。例:— One cannot do without water. 人は水無しではやつて行けぬ。

at a pinch. せつば詰つて、仕方なければ。

absolutely 絶對的に、何でもかでも。

THE BLUE BIRD

Tyltyl. You're rather like our neighbour,
Madame Berlingot. . . .

The Fairy. (*growing suddenly angry*) Not
a bit! . . . There's not the least likeness! . . .
This is intolerable! . . . I am the Fairy
Bérylune. . . .

Tyltyl. Oh! Very well. . . .

The Fairy. You will have to start at once.

Tyltyl. Are you coming with us?

The Fairy. I can't, because I put on the
soup this morning and it always boils over
if I leave it for more than hour. . . . (*Point-*
ing successively to the ceiling, the chimney
and the window) Will you go out this way,
or that way, or that way? . . .

Tyltyl. (*pointing timidly to the door*) I
would rather go out that way . . .

The Fairy. (*growing suddenly angry again*)
That's quite impossissible; and it's a shocking
habit! . . . (*Pointing to the window*) We'll

rather=rather than otherwise. どつちかと云へばまあ、幾らか。
Not a bit! 少しだつて……でない。
not the least likeness=no likeness 似たところが少しもない。
This is intolerable! これは堪へられない事だの意味で、「とんで
もない事」位に當る。
put on the soup スープを(火に)かけて煮立たす。
boils over 煮え湯れる。

THE BLUE BIRD

ティルティル。 お隣りのベルランゴ小母さんに似てゐるやうだ
がな……

妖女。 (急に怒り出して)、そんな事があるものかね! ……
ちつとも似てなんぞゐないよ。……とんでもない! 私は
妖女のベリリューンだよ。……

ティルティル。 あゝ。さうさう。……

妖女。 お前方は直ぐ行つてくれなければなるまいよ。

ティルティル。 お婆さんも一緒に来る?

妖女。 私は行けないよ、今朝スープをかけて来たもの、そし
て一時間餘りも放棄^{うつつ}つて置けば何時も煮え湯れてしまふん
だからの……(續けざまに天井と煙突と窓を指しながら)お
前方は此方から出るかの、それとも彼方^{あつち}からか、彼方^{あつち}から
かの? ……

ティルティル。 (怖々入口を指しながら)彼方^{あつち}から出て行きたい
んだかなあ……。

妖女。 (急に復怒り出して)そんな事は駄目だよ。それが厭な
癖だ! ……(窓を指して)此方^{あつち}から出ることにしよう……

successively 續けざまに、順々に。

I would rather……多く後に than…を伴うて、「……する位なら…
…した方が好い」等用ひられる。此處でも「他から出る位ならあつちか
ら出たいのだが」。

a shocking habit の shocking は affecting with indignation, disgust,
or horror の意で、「癢に障るやうな」「嫌な」。

THE BLUE BIRD

go out this way . Well? . What are you waiting for? . . . Get dressed at once. . . . (*The Children do as they are told and dress quickly.*) I'll help Mytyl. . . .

Tyltyl. We have no shoes. . . .

The Fairy. That doesn't matter! I will give you a little magic hat. Where are your father and mother? . . .

Tyltyl. (*pointing to the door on the right*) They're asleep in there. . .

The Fairy. And your grandpapa and grand-mamma? .

Tyltyl. They're dead. . . .

The Fairy. And your little brothers and sisters. . . . Have you any? . . .

Tyltyl. Oh, yes; three little brothers. . . .

Mytyl. And four little sisters. . . .

The Fairy. Where are they?

Tyltyl. They are dead, too. . . .

The Fairy. Would you like to see them again? . . .

get dressed=be dressed 着物を着更へて出かける支度をせよ。

THE BLUE BIRD

いゝかの?何を待つてゐるのだい?直ぐに着物を着更へてさ (子供達は言はれた通りにして手早く着物を着更へる)ミティルは私がしてあげよう

ティルティル。 僕達は靴が無いや。

妖女。 そんな事構やしないよ。 私が小さな魔法帽子を上げるよ。 お父さんやお母さんは何處にゐる?

ティルティル。 (右手の戸を指して)彼處で寝てゐるよ。

妖女。 そしてお祖父さんやお祖母さんは?

ティルティル。 もう死んだのだよ。

妖女。 それから弟達や妹達は弟や妹はあるのかね?

ティルティル。 あゝ、あつたよ、弟が三人

ミティル。 それから妹が四人

妖女。 みんな何處に居るの?

ティルティル。 やつぱり皆死んでしまつたのだよ。

妖女。 お前方は弟や妹に會ひたいかの?

help 此處では着物を着更へるのに手を貸してやる。

in 副詞で「家の内に」の意。

Would you like to...? したいだらう?

THE BLUE BIRD

Tyltyl. Oh, yes! . . . At once! . . . Show them to us! . . .

The Fairy. I haven't got them in my pocket. . . . But this is very lucky; you will see them when you go through the Land of Memory. . . . It's on the way to the Blue Bird, just on the left, past the third turning. . . . What were you doing when I knocked? . . .

Tyltyl. We were playing at eating cakes?

. . .

The Fairy. Have you any cakes? . . . Where are they? . . .

Tyltyl. In the house of the rich children. . . . Come and look, it's so lovely. (*He drags the Fairy to the window.*)

The Fairy. (*at the window*) But it's the others who are eating them! . . .

Tyltyl. Yes; but we can see them eat. . . .

The Fairy. Aren't you cross with them?

. . .

this is very lucky (今自分の思つてゐること爲てゐることを指して) 好い事がある。

THE BLUE BIRD

ティルティル。 そりや會ひたいさ! . . . 直ぐに! . . . 會はせておくれよ!

妖女。 今生憎衣囊^{いけつそ}に入れて来てゐないが . . . が、好い事がある、お前方は記憶の國を通つて行く時にみんなに會へるだらうよ . . . 其處は青い鳥の所へ行く途中だよ、三つ目の角を曲つて丁度左手の所さ . . . だが、私が戸を叩いた時お前方は何をしておゐてだつた?

ティルティル。 お菓子の食べごつこをしてゐたのだつたかな?

妖女。 お前お菓子を持つてゐるのかの? . . . 何處にあるね?

ティルティル。 お金持ちの子供達の家^{うち}に . . . 来てご覽よ、そりやすてきだよ。(彼は妖女を窓際に引つぱつて行く)。

妖女。(窓際で) だが、お菓子を食べてゐるのは他家の子供達だよ! . . .

ティルティル。 さうさ、だけどみんな食べてゐるのは見えるよ . . .

妖女。 お前あの子達に腹が立たないかの?

on the way to . . . への途中。

were playing at . . . 「 . . . 遊びをしてゐた」「 . . . だつこをしてゐた」。

lovely = delightful, very pleasing. 俗語で、非常に愉快な気持ちを表はし「そりやすてき」など。

cross 形容詞で「氣に食はぬ」「腹が立つ」の意。

Tyltyl. What for? . . .

The Fairy. For eating all the cakes. . . . I think it's very wrong of them not to give you some. . . .

Tyltyl. Not at all; they're rich. . . . I say, isn't it beautiful over there? . . .

The Fairy. It's no more beautiful there than here.

Tyltyl. Ugh! . . . It's darker here and smaller and there are no cakes. . . .

The Fairy. It's exactly the same, only you can't see. . . .

Tyltyl. Yes, I can; and I have very good eyes. I can see the time on the church clock and daddy can't. . . .

The Fairy. (*suddenly angry*) I tell you can't see! . . . How do you see me? . . . What do I look like? . . . (*An awkward silence from Tyltyl.*) Well, answer me, will you? I want to know if you can see! . . . Am I pretty or ugly? . . . (*The silence*

It's very wrong of them not to give you some の it は not to give.....なる Infinitive Phrase を指し、of them は意味上の主格を示

ティルティル。 どうして?

妖女。 お菓子をすつかり食べてしまふもの……あの子達がお前方に少しくれないのは大へん悪いことだらう……

ティルティル。 そんな事ありやしない。その人達は金持ちだよ……ねえ、彼方の方綺麗ぢやない? ……

妖女。 此處と比べてちつとも綺麗なことはないよ。

ティルティル。 あゝ嫌だ! 此處の方がずっと暗くて、ずっと小さくて、お菓子なんかありやしない……

妖女。 全く同じことだよ、唯お前に見えないばかりさ……

ティルティル。 なあに、僕見えるよ、僕の目は非常に好いんだ。僕にはお寺の時計の時間が見えるよ、とうちやんには見えないんだよ……

妖女。 (急に怒つて)お前には見えないと云ふのに! ……私がどんなに見えるかの? ……私がどんな風に見える? ……(ティルティルは具合悪さうに黙つてしまふ)、さあ言へるかの? お前に見えるかどうか知りたいもんだ! ……私は美しいかの、醜いかの? ……(初め黙つてゐたのが次第に不

し、句全体が they are wrong の意味になる。
over there 前出。

It's no more beautiful there than here = It is as little beautiful as here. 此處も美しくはないが彼方だつて同様美しくない。前参照。

Ugh! 嫌悪恐れの情を表はす間投詞。

the time (時計の)時間。

what.....like どんな風に。

awkward silence どうしてよいか困つて黙つてしまふ状。

THE BLUE BIRD

grows more and more uncomfortable.) Won't you answer? . . . Am I young or old? . . . Are my cheeks pink or yellow? . . . Perhaps you'll say I have a hump? . . .

Tyltyl. (*in a conciliatory tone*) No, no; it's not a big one. . . .

The Fairy. Oh, yes, to look at you, any one would think it enormous. . . . Have I a hook nose and have I lost one of my eyes? . . .

Tyltyl. Oh, no, I don't say that. . . . Who put it out? . . .

The Fairy. (*growing more and more irritated.*) But it's not out! . . . You wretched, impudent boy! . . . It's much finer than the other; it's bigger and brighter and blue as the sky. . . . And my hair, do you see that? . . . It's fair as the corn in the fields, it's like virgin gold! . . . And I've such heaps and heaps of it that it

Won't you = Will you not.

hump 尙儂の瘤。

THE BLUE BIRD

安になつて来る) 返事をしたくないのかの? . . . 私は若い
かの、年老つてゐるかの? . . . 私の頬は桃色かの、黄色い
かの? . . . 多分私の背中に瘤があるとお言ひだらう?

ティルティル。(機嫌を取るやうな調子で) うゝん、そりや大き
かないよ

妖女。いゝや、お前の顔付を見ても、誰だつてそれは大きいと
思ふだらうよ 私の鼻は先が曲つてゐるかの、そして私
の眼は片方が潰れてゐるかの?

ティルティル。うゝん、僕そんな事言やしないよ でも誰が
それを潰したの?

妖女。(益々氣を苛立てゝ) 何が潰れてなぞゐやしない! . . .
. . . . この悪たれの、恥知らずめ! 此方の方が片方よりず
つと綺麗なんだ、此方の方がずつと大きくて光つてゐて、
空のやうに蒼いんだ。 それからこの髪の毛も お前
に見えるかい? まるで畑の穀物のやうに黄色いんだ、
交り氣ない金のやうだよ! そして房々と多過ぎて頭が

to look at you お前の顔付を見れば。

enormous すばらしく大きい。

put out (眼の場合には)潰す。

it's not out = it is not put out.

impudent 厚かましい、恥知らずな。

virgin gold = pure gold で、交り氣のない金。

weighs my head down. . . . It escapes on every side. . . . Do you see it on my hands? (*She holds out two lean wisps of grey hair.*)

Tyltyl. Yes, I see a little. . . .

The Fairy (*indignantly*) A little! . . . Sheaves! Armfuls! Clusters! Waves of gold! . . . I know there are people who say that they don't see any; but you're not one of those wicked, blind people, I should hope? . . .

Tyltyl. Oh, no; I can see all that isn't hidden. . . .

The Fairy. But you ought to see the rest with as little doubt! . . . Human beings are very odd! . . . Since the death of the fairies, they see nothing at all and they never suspect it. . . . Luckily, I always carry with me all that is wanted to give new light to

heaps and heaps 毛が房々と山のやうに積み重なつてゐる状。
weighs.....down 重く上から懸つて押し下げる。
escape=find way out で、何處へでも出ようと思ふ方へ擴がつて行く。
hold out 差し出す。
lean 細いひよろひよろした。
I see a little 少しは見える。I see little とあれば「餘り見えない」。
Armfuls 腕に幾抱へもの量。(an armful of.....,と手に一抱へ。)
I should hope?だと思ふが、位の意。I should think と用ふ。
Oh, no; 此處の no は前の you're not one of those wicked.....に對

上らない位だよ.....これは何方へでも擴がつて行くよ.....
 ほら、私の手の上にあるのが見えるだらう? (彼女はひよろひよろな二束の白髪を出して見せる)。

ティルティル。 あゝ、少し見えるやうだ.....

妖女。(怒つた様子で) 少しだつて!.....幾束もあるぢやないか! 手に幾抱へもある位ぢやないか! 房々として! 黄金の波だ!.....そりや世間にはちつとも見えないと言ふ人があるよ、けれどもお前はそんな悪い、目の見えない人達の仲間ぢやあるまいと思ふが.....

ティルティル。 ああ、隠れてゐないのはすっかり見えるよ.....

妖女。けれども他のだつてやつぱりさうして見るのが當り前だよ!.....人間つてほんとに變なものだ!.....妖女といふものがゐなくなつてからは、人間は何にも見えないでゐて、それを變だとも思はないんだ.....幸ひ、私は曇つた眼に新しい光を授けるに入用なものは何でも始終持つて歩いてる

する答で、自分はさういふ人間ではないと否定を示す答である、邦語では斯ういふ場合却つて「えゝ」といふ答へをする。

you ought to see the rest それだけではない他のも見るのが當然だ。

with as little doubt. little は常に否定を含んだ語であるから、「やはり疑はないで」as は後に as the former case (前の場合と同様)の如き語を捕つて考へる。

odd 變つてゐる。

they never suspect it の it は see nothing at all を指し、自分に見えないといふ事を少しも奇しいと思はぬ。

carry with me 身に付けて持ち歩いてゐる。

THE BLUE BIRD

dimmed eyes. . . . What am I taking out of my bag? . . .

Tyltyl. Oh, what a dear little green hat! . . . What's that shining in the cockade? . . .

The Fairy. That's the big diamond that makes people see. . . .

Tyltyl. Really? . . .

The Fairy. Yes; when you've got the hat on your head, you turn the diamond a little; from right to left, for instance, like this; do you see? . . . Then it presses a bump which nobody knows of and which opens your eyes. . . .

Tyltyl. Doesn't it hurt? . . .

The Fairy. On the contrary, it's enchanted. . . . You at once see even the inside of things; the soul of bread, of wine, of pepper, for instance. . . .

cockade 帽子に付けて役名、所屬等と表はす徽章。

makes.....see 眼を見えさせる。

when you've got the hat on your head お前が其帽子を被つてしまふと。you've got は現在完了の形で、「.....してしまふ」と結果を表はす。

THE BLUE BIRD

んだ.....私のこの袋から何を出さうかね?.....

ティルティル。 やあ、こりや可愛らしい小ちやな青い帽子だ!

.....その徽章のところに光つてゐるのは何?.....

妖女。 人の眼を見えるやうにする大きなダイヤモンドさ.....

ティルティル。 ほんとに?.....

妖女。 あゝ、その帽子を被つてしまつたら、そのダイヤモンド

を少し廻してご覧、まあ、斯ういふ風に右から左に、ね?

.....さうするとそれが頭の一番高い所を押し付ける、そんな事は誰も知らないけれど、それでお前の眼が開くのだよ.....

ティルティル。 怪我しやしない?.....

妖女。 何のそんな事が、魔法が掛つてゐるんだもの。.....お

前はいろいろな物の中まで直に見えるやうになる、例へて

云やあ、麵麩やお酒や胡椒の精なんか.....

you turn は「廻してご覧」といふ命令法。 會話では命令法に屢 **you** を用ふ。

for instance, like this 例へば此の様に、まあこんな風に。

bump=prominence on skull 頭蓋骨の高い所。

which nobody knows of の **which** は上の事を指して「そんな事は誰も知らないが。」

On the contrary 反對に、何のそんな事が。

the soul は物の精で、此處では **of** の關係で **wine** をも **pepper** をも受ける。

dimmed eyes 曇つて物のよく見へない眼。

THE BLUE BIRD

Mytyl. Can you see the soul of sugar, too?

...

The Fairy. (*suddenly cross*) Of course you can! . . . I hate unnecessary questions. . . . The soul of sugar is no more interesting than the soul of pepper. . . . There, I give you all I have to help you in your search for the Blue Bird. I know that the flying carpet or the ring which makes its wearer invisible would be more useful to you. . . . But I have lost the key of the cupboard in which I locked them. . . . Oh, I was almost forgetting! . . . (*Pointing to the diamond*) When you hold it like this, do you see? . . . One little turn more and you behold the past. . . . Another little turn and you behold the future. . . . It's curious and practical and it's quite noiseless. . . .

Tyltyl. Daddy will take it from me. . . .

The Fairy. He won't see it; no one can see it as long as it's on your head. . . Will

no more interesting than..... 前に幾つも出た形であるから其例参照。「.....が面白くないと同様面白くない」

THE BLUE BIRD

ミティル。 お砂糖の精でも見えて? ..

妖女。 (急に氣むづかしくなつて)、見えるともさ.....要らない事を聞くのは私や大嫌ひだよ。.....砂糖の精なんか胡椒の精と同じやうにちつとも面白いことありやしない。.....それ、お前方が青い鳥を捜す力になるやうに私の持つてるものはみんな上げるよ。私は空を飛ぶ敷物だの、それを嵌めてゐると身を匿せる指環だのは、もつと役に立つものだといふことは知つてゐる。.....けれど私はさういふ物を藏つて置いた戸棚の鍵を無くしてしまつた。あゝ、私はも少しで忘れるところだつた!.....(例のダイヤモンドを指して) さあ斯ういふ風にそれを持つと、ね?.....もう少し廻すと過去が見える。.....又少し廻すと、未來が見える。不思議で、實際に役に立つて、昔も何もしないんだよ.....

ティルティル。 とうちやんが取上げてしまふだらう。.....

妖女。 お父さんなんか見やしないよ、お前がそれを被つてる間は誰にも見えやしない。.....やつてご覽か?.....(彼

to help you お前方の力になるやうに。

makes its wearer invisible それを身に着けてゐる者を他の人から見えなくさせる、即ち姿を匿させる。I was almost forgetting 殆ど忘れかけてゐた、も少しで忘れるところであつた。

One little turn more and you..... = If you turn it a little more, you.....

Another little turn は又其の上に少し廻す。

practical 實用的、實際に役立つ。

as long as..... してゐる間は、限りは。

THE BLUE BIRD

you try it? . . . (She puts the little green hat on Tytyl's head.) Now, turn the diamond. . . . One turn and then. . . .

(Tytyl has no sooner turned the diamond than a sudden and wonderful change comes over everything. The old Fairy alters then and there into a princess of marvellous beauty; the flints of which the cottage walls are built light up, turn blue as sapphires, become transparent and gleam and sparkle like the most precious stones. The humble furniture takes life and becomes resplendent; the deal table assumes as grave and noble an air as a table made of marble; the face of the clock winks its eye and smiles genially, while the door that contains the pendulum opens and releases the

Tytyl has no sooner turned the diamond than a sudden...
 . . . = As soon as Tytyl turns the diamond, a sudden.....
comes over..... 變化などが起る。 例:— A change came over the sky. 空模様が変わった。
then and there= on the spot 立ちどころに、即座に。
a princess of marvellous beauty = a marvellously beautiful princess.

THE BLUE BIRD

女はその小さな緑色の帽子をティルティルの頭に被せる。)さあ、ダイヤモンドを廻してご覧.....一度廻してそれから... (ティルティルがダイヤモンドを廻すが早いか急に驚くべき変化が凡てのものに起る。年取つた妖女は立ち所に素晴らしい美しい王女に變る。小舎の壁の燧石が明るく光つて青玉のやうな青い色になり、最上の寶石のやうに透明になつてキラキラと輝く。粗末な家具が生き生きとして眩く輝いて来る。松板の卓子が大理石で出来た卓子のやうに莊重な高貴な趣を帯びて来る。時計の面は瞬きをしてにこやかに笑ふ。と思ふと振り子の入つてゐる時計の戸が開いて多勢の「時間」を出してやる、「時間」達は互に手を取り合つて楽しさうに笑ひながら

light up バツと明るくなる。
gleam and sparkle 光り輝いてピカピカする。
precious stone 寶石。the most が付けば「最上等の」
takes life 生氣を帯びる、生き生きとして来る。
resplendent = dazzlingly bright 眩い程に光つて。
deal 松板。
assumes as grave and noble an air 莊重な高尙な風(様子)を帯びる。an が形容詞の後にあるは前に as といふ副詞がある爲め。
genially = jovially にこにこと。
release 囚へてゐた者を解放してやる。
holding one another by the hand 互に手を取合つて。捕へる場所を by といふ前置詞で表はすのが英語の通則である。 例:— He caught me by the sleeve. (彼は私の袖を捕へた)。

Hours, which, holding one another by the hand and laughing merrily, begin to dance to the sound of delicious music.)

Tyltyl. (displaying a legitimate bewilderment and pointing to the Hours) Who are all those pretty ladies? . . .

The Fairy. Don't be afraid; they are the hours of your life and they are glad to be free and visible for a moment. . . .

Tyltyl. And why are the walls so bright? . Are they made of sugar or of precious stones? . . .

The Fairy. All stones are alike, all stones are precious; but man sees only a few of them. . . .

(While they are speaking, the scene of enchantment continues and is completed. The souls of the Quarter-loaves, in the form of little men in

to the sound of..... の音に合わせて。

legitimate bewilderment. legitimate は法に適つてゐる、正当なで、その場合に相當な狼狽さ。

微妙な音樂の音に調子を合せて踊り出す。)

ティルティル。(其の場合相當な狼狽の色を表はし、「時間」を指しながら)あの綺麗な女の人達はみんな誰れ?

妖女。こはがらないで好いよ。あれは皆お前の一生の時間で、みんな自由な身になつて一寸の間でも人に見えるやうになつたのを喜んでゐるのだよ……

ティルティル。あの壁はどうしてあんなに光つてゐるの?……あれはお砂糖で出来てるの、寶石で出来てるの?……

妖女。どんな石だつて似たものだよ、どんな石だつて寶石のやうなものだよ、けれど人間にはその中の少しが見えるだけなのだ。……

(二人が話してゐる間にこの魔法の場面が続いてすつかり出来上る、「四斤麵飽」の精は麵飽の皮色をした肉糺絆を着た小男の姿で、慌だしく体中粉まみれになつて麵飽焼鍋の中か

visible 人の目に見える。

alike どれもこれも似寄つた。

man sees only a few of them 人はその中の少しばかりを見るだけ。

the scene of enchantment = the enchanted scene 魔術に掛つてゐる場面。

Quartern (loaf) = four pound loaf. 四斤一塊の麵飽。

in the form of..... の姿で。

crust-coloured tights, flurried and all powdered with flour, scramble out of the bread-pan and frisk round the table, where they are caught up by Fire, who, springing from the hearth in yellow and vermillion tights, writhes with laughter as he chases the loaves.)

Tyltyl. Who are those ugly little men? . . .

The Fairy. Oh, they're nothing; they are merely the souls of the Quartern-loaves, who are taking advantage of the reign of truth to leave the pan in which they were too tightly packed. . . .

Tyltyl. And the big red fellow, with the nasty smell? . . .

The Fairy. Hush! . . . Don't speak too loud; that's Fire! . . . He's dangerous.

(This dialogue does not interrupt the enchantment. The Dog and the Cat,

tights 蹄子等の着る肉糰絆肉股引。常に複數に用ひられる。

flurried 慌だしく。

ら這ひ出て来て、卓子の周圍を跳び廻る、すると其處で「火」に捕まる、「火」は黄朱色の肉糰絆を着て竈から飛び出して来て、麵麩の塊を追ひ掛けながら大笑ひに笑つて轉げ廻る。

ティルティル。あの見つともない小ちやい人は誰れ? . . .

妖女。 あゝ、あれは何でもないものだよ。あれは唯「四斤麵麩」の精さ、眞實の世の中になつたのを好い事にして今まで餘り窮屈に詰め込まれてゐた鍋から出て來たのさ。 . . .

ティルティル。それからあの嫌な臭ひのする大きな赤い男は?

妖女。 しいツ! 餘り大きな聲をお出してない、あれは「火」だよ。 . . . あれは危いよ。

(この對話の間も尙魔法の場面が続く。戸棚の下に丸くなつ

powdered with flour 麵麩の粉まみれになつて。

writhes 體をぬたくる。

nothing 何でもなきもの、取るに足らぬもの。

taking advantage of を利用して、 を好い事にして。

the reign of truth 眞理といふものゝ治めてゐる世の中。

leave 去る。

This dialogue does not interrupt the enchantment. この對話がその魔法の場面を中斷しない、即ちこの對話の間も魔法にかゝつた場面が尙ほ續いてゐる。

lying rolled up at the foot of the cupboard, utter a loud and simultaneous cry and disappear down a trap; and in their places rise two persons, one of whom has the face of a bull-dog, the other that of a tom-cat. Forthwith, the little man with the bull-dog face, whom we will henceforward call the Dog, rushes upon Tyltyl, kisses him violently and overwhelms him with noisy and impetuous caresses; while the little man with the face of a tom-cat, whom we will simply call the Cat, combs his hair, washes his hands and strokes his whiskers before going up to Mytyl.)

The Dog. (yelling, jumping about, knocking up against everything, unbearable.) My little

simultaneous は形容詞であるが、邦語では「同時に」と副詞のやうに譯さないと具合が悪い。

a trap 縁の揚蓋。

in their places その代りに。their places と用ゐたのは dog と cat と

てゐた犬と猫は大きな聲を同時に上げ、縁の揚蓋の下に隠れる。そして其代りに二人の人物が出て来る、一人はブルドッグの顔をして居り、も一人は牡猫の顔をしてゐる。間もなくブルドッグの顔をした小男——これからこの男を「犬」と呼ぶことにする——がティルティルに跳び掛つて行つて、激しく彼れにキスをし、騒がしく猛烈に抱き付いたりして彼れを壓伏してしまふ。その中に牡猫の顔をした小男——これからこの男を唯「猫」と呼ぶことにする——は髪を梳つたり、手を洗つたり鬚を撫でたりしてからミティルの所に進んで行く。) 犬。(我慢出来ないやうに吠えたり、跳び廻つたり、色々な物に衝かつたりしなから)坊ちゃん!……お早う、お早う、

両方の場合であるから。例：— I will make a speech in his place. 私が彼の代りになつて演説しよう。

a tom-cat 牡猫。tom は動物の牡に用ふ。

Forthwith=immediately, without delay.

henceforward=from this time forward これから(今から)先。

rushes upon... .. 飛び掛る。

overwhelms him 彼れを壓伏して手も足も出さないやうにする。

with noisy and impetuous caresses 騒がしく猛烈に抱き付いて。caress は愛撫したりキスしたりすること。

whiskers 頬鬚であるが、特に猫の鬚をも云ふ。

before going up to.....の所まで行く前に、行かぬ中といふ使ひ方であるが、前の句との關係を考へて前の句から譯し、「それから..の所に行く」とする方が適當である。

knocking up against.....衝かる。

unbearable は the Dog を形容した形容詞であるが我慢出来ずにと副詞的に譯した方がよい。

god! . . . Good-morning, good-morning, my dear little god! . . . At last, at last we can talk! . . . I had so much to tell you! . . . Bark and wag my tail as I might, you never understood! . . . But now! . . . Good-morning, good-morning! . . . I love you! . . . Shall I do some of my tricks? . . . Shall I beg? . . . Would you like to see me walk on my front paws or dance on my hind-legs? . . .

Tyltyl. (to the Fairy) Who is this gentleman with the dog's head? . . .

The Fairy. Don't you see? It's the soul of *Tylô*, whom you have set free. . . .

The Cat. (going up to *Mytyl* and putting out his hand to her, with much ceremony and circumspection.) Good-morning, Miss. . . . How well you look this morning! . . .

Mytyl. Good-morning, sir. . . . (To the Fairy) Who is it? . . .

My little God! Tyltyl に向つて呼んだので坊っちゃん位の意。
Bark and wag my tail as I might=However I might bark and wag my tail
tricks 手品、奇術等にも云ひ、犬の曲藝などにも云ふ。

い、坊ちゃん! とうとうこれで私達は話することが出来るんです! そりやいろいろお話したいことがあつたんです! どんなに私は吠えもしたり尾を振つたりしても坊ちゃんに分りませんでした! けれど今度は! お早う、お早う! 私は坊ちゃんが大好きです! 何か藝をやつて見ませうか? お頂戴ませうか? 私が前足で歩いたり後足で踊るのを見て下さいますか?

ティルティル。 (妖女に)この犬の頭をした人は誰れ?

妖女。 分らないかの? お前が放してやつた *ティロー* の精だよ

猫。 (ミティルの所に行つて如何にも禮儀正しく、慎んで片手を差出しながら) お早うございます、お嬢さん 今朝は大そう御機嫌で座います!

ミティル。 お早うございます (妖女に)誰なの?

Would you like to see me walk 私が で歩くのを見たいか、見て下さるか。walk は Infinitive(不定法)であるが see の後にあるので to を省いた形。

on my front paws 前足立ちで。

on my hind-legs も同じ用法。斯かる on は支へてゐる所を表はす用法で、fall on one's knees(跪く)なども同様である。

set free 解いてやる、放してやる。

with much ceremony 禮儀を厚くして。

circumspection = cautiousness 用心深きこと、慎み深きこと。

How well you look! 御機嫌好さうに見えます、大そう御機嫌の様で、など。

The Fairy. Why, don't you see? It's the soul of *Tylette* offering you his hand. . . Kiss him. . . .

The Dog (jostling the Cat) Me, too! . I've kissed the little god! . . . I've kissed the little girl! . . . I've kissed everybody! . . . Oh, grand! . . . What fun we shall have! . . . I'm going to frighten *Tylette*! Bow, wow, wow!

The Cat. Sir, I don't know you. . . .

The Fairy. (*threatening the Dog with her stick*) Keep still, will you, or else you'll go back into silence until the end of time. . . .

(*Meanwhile, the enchantment has pursued its course: the spinning-wheel has begun to turn madly in its corner and to spin brilliant rays of light; the tap, in another corner, begins to*

offering...his hand. 好意を求めて手を差出して。

What fun we shall have! (これから)面白いことがありさうだ。
What fun to see...! (面白いなあ)など、使はれる語である。

Keep still, will you, 「静かにおし」と云ふ命令を *will you?* で幾分弱めた言ひ方、「静かにしないかね」など。

or else それでなければ、さうしないと。

妖女。 おや、分らないかの? ティレットの精が握手を求めてゐるのだよ。……キスをしておやり。

犬。(無理に「猫」を押し遣りながら)私にもどうぞ!……私は坊つちやんにキスをした!嬢ちゃんにもキスをした!……誰にも彼にもキスをした!……偉いもんだ!……面白いことがあるさうだ!……ティレットを驚かしてやろう!ワン、ワン、ワン!……

猫。 おや、あなたは知りませんが……

妖女。(杖で「犬」を脅しながら)静かにしないかね、でない
と又何時までも元のやうに口が利けなくなると……

(その間魔法の場面はずつと續いてゐる。糸車は隅の所で狂氣のやうに廻り出し、キラキラする光の糸を紡ぎ出す。

you'll=you will.

go back into silence 復元の口の利けない状態に戻る。

until the end of time 時といふものゝ最後まで、時のあらん限り何時までも。

has pursued its course その進路を續けて來てゐる。ずつと續いて來てゐる。

in its corner それのあるその隅の所で。

spin brilliant rays. *rays* は光線であるが此處では *spin* (紡ぐ)といふ語の Object(目的語)であるから織物の糸のやうに考へて見る。

THE BLUE BIRD

sing in a very high voice and, turning into a luminous fountain, floods the sink with sheets of pearls and emeralds, through which darts the soul of Water, like a young girl, streaming, dishevelled and tearful, who immediately begins to fight with Fire.)

Tyltyl. And who is that wet lady? . . .

The Fairy. Don't be afraid, it's Water just come from the tap. . . .

(The milk-jug upsets, falls from the table and smashes on the floor; and from the spilt milk there rises a tall, white, bashful figure who seems to be afraid of everything.)

Tyltyl. And the frightened lady in her night gown? . . .

The Fairy. That's Milk; she has broken her jug. . . .

(The sugar-loaf, at the foot of the

turning into. ...に變化して。

THE BLUE BIRD

水の栓は、別の隅で、非常に高い聲で歌ひ出す、そして光つた泉に變つて、流場一ばいに眞珠や緑石の池になる、その中から水の精が若い娘のやうに體から水を滴らせ、髪を振り亂し、眼に涙を溜めて走り出て来る、彼女は直に「火」と喧嘩を始める。

ティルティル。 であの水に濡れた女の人誰れ?

妖女。 怖がらないで好い、今栓から出て来た「水」だよ。

(乳入れが顛覆へつて卓子から落ち、床の上で粉々に壊れる。するとその濁れた乳から丈の高い、色の白い、羞かしさうにした姿の者が出て来る。この人はどんなものでも恐れてゐる様に見える。)

ティルティル。 あの寝衣を着てびつくりしてゐる女の人?

妖女。 乳だよ、今その入物を壊したのだよ。..... (戸開の

floods the sink with sheets of pearls and emeralds. sink は流し場、sheets は水面で、全體の意味は、水が流し場に溢れて眞珠や緑玉の池を作ること。with 以下は floods を modify する。

darts = emits suddenly, starts rapidly. 射るが如くに飛び出る。

dishevelled 髪振り亂して。

smashes 粉々に碎ける。

bashful 羞かしさうにした。

night-gown 寝衣。

THE BLUE BIRD

cupboard, grows taller and wider and splits its paper wrapper, whence issues a mawkish and hypocritical being, dressed in a long coat half blue and half white, who goes up to Mytyl with a sanctimonious smile.)

Mytyl. (greatly alarmed) What does he want? .

The Fairy. Why, he is the soul of Sugar!

..

Mytyl. (reassured) Has he any barley-sugar?

...

The Fairy. His pockets are full of it and each of his fingers is a sugar-stick. . . .

(The lamp falls from the table and, at the same moment, its flame springs up again and turns into a luminous maid of incomparable beauty. She is dressed in long transparent and dazzling veils and stands motionless

whence=from where 關係副詞。

issues=springs.

THE BLUE BIRD

下にあつた砂糖の塊が次第に丈高く幅も廣くなつて、包紙を裂く。すると其處から何となく嫌な偽善者らしい者が半分は青く半分は白の長い上衣を着て飛び出して来る、この男は神聖らしい微笑を浮べてミティルの所に寄つて行く。

ミティル。(非常に驚いて)この人何しに来るの?.....

妖女。そりやお前、「砂糖」の精だよ!.....

ミティル。(安心して)この人飴を持つてゝ?

妖女。衣囊に一ぱい入つてゐるよ、そしてその一本一本の指はみんな砂糖の棒なのだよ.....

(ランプが卓子の上から落ちる、と思ふと炎が復パツと上つて、それが比べ物ないやうな美しい光り輝いた少女に變る。彼女は長い、透き通つた、眩いやうな薄紗を着てゐて

mawkish=of faint sickly flavour, loathsome, disgusting. 胸のむかむかするやうな気持ちを起さず、何となく嫌な。

hypocritical 偽善的な、偽善者らしい。

sanctimonious=making a show of sanctity or piety 神聖らしい見掛けをした。

what does he want? 何を求めるのか?は何しに来るのでせう?

why, 問投詞「そりやお前」位の意。

barley-sugar 扭ちた砂糖菓子で、飴扭ちなどが相當であらう。

sugar-stick 砂糖を棒のやうに固めたもの。

turns into.....前出。

of incomparable beauty=incomparably beautiful 比べるものなく美しい。

in a sort of ecstasy.)

Tyltyl. It's the Queen! . . .

Mytyl. It's the Blessed Virgin! . . .

The Fairy. No, my children; it's Light. . .

(Meanwhile, the saucepans on the shelves spin round like tops; the linen-press throws open its folding-doors and unrolls a magnificent display of moon-coloured and sun-coloured stuffs, with which mingles a no less splendid array of rags and tatters that come down the ladder from the loft. But, suddenly, three loud knocks are heard on the door at the right.)

Tyltyl. *(alarmed)* That's daddy! . . . He's heard us! . . .

The Fairy. Turn the diamond! . . . From left to right! . . .

(Tyltyl turns the diamond quickly.)

in a sort of ecstasy = in a manner of ecstasy 何處かうつとりした様子で。ecstasy は嬉しさに心を奪はれて恍惚たる状態。

the Blessed Virgin (Virgin Mary) 聖母マリヤ。

saucepan 圓筒形の柄の付いた鍋。

spin round クルクル廻る。

うつとりした様子でチッと身動きもせず立つ。

ティルティル。女王だぜ! . . .

ミティル。聖母様だわ! . . .

妖女。さうちやないよ、これ、そりや「光」だよ。

(その中に幾つかの棚の上の幾つもの鍋が獨樂のやうにクルクル廻り出す。反物戸棚が折戸を開けて、月の色や日の色をした織物を五彩まばゆく廣げる、それと交つて、これと同様すばらしく綺麗な襦袢の列が屋根裏から梯子を下りて来る。けれど突然右手の戸を三度音高く叩く音が聞える。)

ティルティル。*(驚いて)* とうちやんだ! . . . 僕達の聲を聞いたんだ! . . .

妖女。ダイヤモンドをお廻し! . . . 左から右に! . . .

(ティルティルはダイヤモンドを早く廻す。)

そんなに早く廻しちや可けない! . . . しまった! . . .

う間に合はない! . . . あんまり無茶に廻し過ぎた、みんな

linen-press. press は本棚、衣裳棚、などで矢張り扉が付いてゐる。こゝでは反物のリネン(麻の種類)を蔵ひ置く棚である。

folding doors 畳めるやうになつた扉、折戸。

unrolls a magnificent display of . . . unroll は巻いてあるものなどを展げる事で、display はこれ見よがしに見せびらかすこと、make a display of . . . (. . . を見せびらかす) など、使ふ、即ち此處の意味は . . . を五彩まばゆく展げる。

stuff 毛織物(絹、木綿等には用ひぬ)。

with which mingles . . . それと . . . が交る、であるが、便宜上、それと交つて . . . がと譯す。

a no less splendid array of . . . これも同様にすばらしく美しい . . . の列。

no less splendid (than those stuffs) = quite as splendid (as those stuffs) として見れば解る。例: — He was no less courageous than his father. 彼もその父と同様に(劣らず)勇氣に富んでゐた。

rags and tatters 何れも襤褸。

He's heard us! = He has heard us!

Not so quick! . . . Heavens! It's too late!
 . . . You turned it too briskly; they will not
 have time to resume their places and we
 shall have a lot of annoyance. . . .

*(The Fairy becomes an old woman again,
 the walls of the cottage lose their
 splendour. The Hours go back into
 the clock, the spinning-wheel stops, etc.
 But, in the general hurry and con-
 fusion, while Fire runs madly round
 the room, looking for the chimney, one
 of the loaves of bread, who has been
 unable to squeeze into the pan, burst
 into sobs and utters roars of fright.)*

The Fairy. What's the matter? . . .

Bread. *(in tears)* There's no room in the
 pan! . . .

The Fairy. *(stooping over the pan)* Yes, there
 is; yes, there is. . . . *(Pushing the other
 loaves, which have resumed their original
 places.)* Come, quick, make room there. . . .

Heavens! 「そりや大變」「しまつた」等絶叫をあらはす。 Good
 Heavens! とも使ふ。

元の場所におさまる暇がなからうよ、こりや困つたことに
 ならうよ……

(妖女は復元の老婆になり、小舎の壁は美しい光を無くし
 てしまふ。「時間」は時計の中に戻り、糸車も廻るのを止め
 てしまつたりする。併し凡てのものが慌てふためいてゐる
 中で、「火」は暖爐を探して室中狂氣のやうに駆けずり廻る
 と、一塊の麵麩は鍋に押し入ることが出来ないので、メソ
 メソ泣き出すと思ふと驚いたやうな大聲を上げる。)

妖女。どうしたといふのだえ?……

麵麩。(泣きながら)お鍋の中に入るところがないのです!……

妖女。(鍋を覗き込むやうにして)なに、あるよ、あるよ……

(元の所におさまつてゐた他の塊を押し遣りながら)さ

あ、早く、其處をお明け……

It's too late! (遅すぎて)もう間に合はない。
 they will not have time…… ……する暇がなからう。
 a lot of annoyance 厄介な事が澤山。
 go back into…… 戻つて行つて……におさまる。
 in the general hurry and confusion 昔の者が慌てたり混乱を極
 めてゐる中に。
 looking for…… ……を探して。
 squeeze into…… ……に押し入る。
 burst into sobs 嘔り泣きし出す、メソメソ泣き出す。
 room 餘地。
 stooping over…… ……の上に前屈みになつて覗く。
 have resumed their original places 復その元の場に戻つた。
 make room there 「席を譲れ、其處を明けよ」など。

THE BLUE BIRD

(The knocking at the door is renewed.)

Bread. (utterly scared, vainly struggling to enter the pan) I can't get in! . . . He'll eat me first! . . .

The Dog. (frisking round Tyltyl) My little god! . . . I am still here! . . . I can still talk! . . . I can still kiss you! . . . Once more! Once more! Once more! . . .

The Fairy. What, you too? . . . Are you there still? . . .

The Dog. What luck! . . . I was too late to return to silence; the trap closed too quickly. . . .

The Cat. So did mine. . . . What is going to happen? . . . Is there any danger? . . .

The Fairy. Well, I'm bound to tell you the truth: all those who accompany the two children will die at the end of the journey.

. . .

The Cat. (to the Dog) Come, let us get back into the trap. . . .

vainly struggling to enter.....苦しんで入らうとするが駄目で。

THE BLUE BIRD

(復戸を叩く音がする。)

麵包。 (驚いてしまつて、苦しんで鍋に入らうとするが駄目なので) 私は入れません!.....真先に食べられてしまひさうです!.....

犬。 (ティルティルの周囲を跳び廻りながら) 坊ちゃん!.....私はまだ此處にゐますよ!.....私はまだお話が出来ます!.....まだキスが出来ます!.....もう一遍!!もう一遍!もう一遍!

妖女。 何だ、お前もかえ?.....お前もまだゐるのかえ?.....

犬。 有難い!.....復口が利けなくなるにはもう間に合はなかつたんだ、揚蓋が餘り早く閉ぢちやつて.....

猫。私の方もさうでした、.....これからどうなるでせう?.....危いことはないですかね?.....

妖女。 はて、眞實の事を言つて聞かせにやなるまいが、この二人の子供のお供をする者はこの旅が済むと死んでしまふだらうよ.....

猫。 (犬に)さあ、揚蓋の中に戻りませうよ.....

what luck! まあよかつた、有難いなど。

too late to return to silence もう遅すぎて元の口の利けない状態に歸りたくも歸れない。

So did mine. (前の言葉に調子を合せて)私の方もさう。

I'm bound to tell.....=I must tell.....言ふ義務がある、言はねばならぬ。

at the end ofの終りになつて、.....が済むと。

THE BLUE BIRD

The Dog. No, no! I won't! . . . I want to go with the little god! . . . I want to talk to him all the time! . . .

The Cat. Idiot! . . .

(*More knocking at the door*)

Bread. (*shedding bitter tears*) I don't want to die at the end of the journey! . . . I want to get back at once into my pan! . . .

Fire. (*who has done nothing but run madly round the room, hissing with anguish*) I can't find my chimney! . . .

Water. (*vainly trying to get into the tap*) I can't get into the tap! . . .

Sugar. (*hovering round his paper wrapper*) I've burst my packing-paper! . . .

Milk. (*lymphatically and bashfully*) Somebody's broken my little jug! . . .

The Fairy. Goodness me, what fools they

I won't=I will not.

bitter tears 切ない涙。

has done nothing but run madly round 狂気のやうに走り廻る外何ともしなかつた、唯狂気のやうに走り廻つてだけゐた。

hissing シューシューいふ聲を出して。

hovering うろろして。

lymphatically, lymph (淋巴液) から出た語で、lymphatic tempera-

THE BLUE BIRD

犬。 いや、いや! . . . 私は嫌だよ! . . . 私は坊つちやんに付いて行きたいんだ! . . . 始終坊つちやんに話がしたいんだ! . . .

猫。 馬鹿! . . .

(また戸を叩く音)

麵麩。 (切ない涙を流して) 私は旅が済んで死ぬのは嫌だ! . . . 私は直ぐに鍋に戻りたいなあ! . . .

火。 (怒つてシュッシュ言ひながら、唯室の中を狂気のやうに駆け廻つてばかりゐたが) どうも暖爐が見付からない! . . .

水。 (栓の中に戻らうとして見るが駄目なので)栓の中に入れてやしない! . . .

砂糖。 (包紙の周圍をうろろしながら)私は包紙を破つてしまった! . . .

乳。 (弱々しさうに又羞しさうに) 誰だか私の小さい入物を壊してしまつたわ!

ment (腺病質) などと用ひられる。即ち腺病的らしい、顔色蒼白で弱々しい様子を云ふ。

bashfully 前出。

Somebody's broken=Somebody has broken.

Goodness me, Goodness は God に代へた語で、露骨に God と言ふのを憚つて此語を以て代用する。Goodness gracious me とも云ひ、「はてまあ」等の意。

THE BLUE BIRD

are! . . . Fools and cowards too! . . . So you would rather go on living in your ugly boxes, in your traps and taps, than accompany the children in search of the birds? . . .

All. (*excepting the Dog and Light*) Yes, yes! Now, at once! . . . My tap! . . . My pan! . . . My chimney! . . . My trap! . . .

The Fairy. (*to Light, who is dreamily gazing at the wreckage of her lamp*) And you, Light, what do you say?

Light. I will go with the children. . . .

The Dog. (*yelling with delight*) I too! . . . I too! . . .

The Fairy. That's right. . . . Besides, it's too late to go back; you have no choice now, you must all start with us. . . . But you, Fire, don't come near anybody; you, Dog, don't tease the Cat; and you, Water, hold yourself up and try not to run all over the place. . . .

you would rather.....than..... .するよりは寧ろ.....したいの
だらう。 する位ならいつそ .する方が好いのだらう。
go on living in ずっとの中で暮し通す。例:— He goes
on reading (彼は本を読み通し。)

THE BLUE BIRD

妖女。 まあまあ、みんな何ていふ馬鹿者だ!.....馬鹿者で又
卑怯者だ!.....それぢやあお前達は子供達のお供をして青
い鳥を探しに行くよりはあの見苦しい箱や揚蓋や栓の中で
やつぱり生きてみたいのだらう?.....

一同 (但し「犬」と「光」は別で) えいえい! さあ、直ぐ
に!.....私の栓を!.....私の鍋を!.....私の暖爐を!.....私
の揚蓋を!.....

妖女。 (ランプの破片を夢見心地でチッと見てゐる「光」に) こ
れ、光、お前はどうかの?

光。 私はお子さん達と一緒にいきます.....

犬。 (喜んで叫びながら)、私もです!.....私もです!.....

妖女。 それで好い。.....それにもう遅過ぎて歸れやしない。
もう歸るの歸らないのつて言へないのだ、お前達は皆私
等と一緒に掛けなけりや可けない。.....だが、これ、「火」
や、誰の傍にも寄るんぢやないぞ。これ、「犬」や、「猫」をい
ぢめるんぢやないぞ。それから、これ、「水」や、しつかり
して、何處へでも流れ出さないやうにしるよ.....

gazing at.....をチツと眺めて。

the wreckage of her lamp ランプの破片。

too late to.....前出。

you have no choice = you cannot choose. 何のかのと勝手は言へぬ。

tease いぢめる。

hold yourself up 身をしつかり支へて、しつかりして。

run all over the place (水の場合は)そこら中に流れ出る。

THE BLUE BIRD

(A violent knocking is again heard at the door on the right.)

Tyltyl. (listening) There's daddy again! . . .
He's getting up this time; I can hear him walking. . . .

The Fairy. Let us go out by the window.
. . . You shall all come to my house, where I will dress the Animals and the Things properly. . . . (To Bread) You, Bread, take the cage in which to put the Blue Bird. It will be in your charge. . . . Quick, quick, let us waste no time. . . .

(The window suddenly lengthens downwards, like a door. They all go out; after which the window resumes its primitive shape and closes quite innocently. The room has become dark again and the two cots are steeped in shadow. The door on the right opens ajar and in the aperture appear the heads of Daddy and Mummy Tyl.)

by the window 窓から。

THE BLUE BIRD

(右手の戸を復激しく叩く音が聞える)

ティルティル。(聞き耳立てて)とうちやんだ、また!……此度

ふ起きたんだ、歩いてる音が聞えるよ!……

妖女。私達は窓から出よう……みんな私の家までおいで、家

へ行つたら「獣達」や「物達」にちゃんと支度をして上げるか

ら……(麵麴に)これ「麵麴」や、青い鳥を入れる籠を持つて

おいで……これはお前が預かるんだよ。……早くさ、早く

さ、ぐずぐずしないでさ。……

(窓が急に下の方に長く開いて来て戸のやうになる。一同出て行く、その後から窓は復初めの形になつて、何知らぬ顔に閉ぢる。室は復暗くなつて、二つの寢床は暗い蔭に浸つてしまふ。右手の戸が細目に開いて、その隙間からとうちやんのティルとかあちやんのティルの頭が現はれる。)

You shall all come お前達みんなおいで。第二人称の shall 故、命令を表はす。

dress……properly 丁度好いやうに(ちゃんと)支度をする。

It will be in your charge, charge は預かること、委託の意で、つまり「それはお前に預ける。」

primitive=original, primary 元の、初めの。

innocently 何知らぬ風に。

are steeped in shadow 蔭に浸つてしまふ、暗くなつて見えなくなる。

ajar=slightly open 細目に開いて。

THE BLUE BIRD

Daddy Tyl. It was nothing. . . . It's the cricket
chirping. . .

Mummy Tyl. Can you see them? . . .

Daddy Tyl. I can. . . . They are sleeping
quite quietly. . . .

Mummy Tyl. I can hear their breathing. . . .
(*The door closes again*)

CURTAIN

THE BLUE BIRD

とうちやんのテイル。何でもなかつたんだ。……蟋蟀が鳴いて
ゐる……

かあちやんのテイル。子供達は見えて?……

父。ああ……すやすや眠つてるよ……

母。呼吸が聞えますね……

(戸が復閉ぢる)

幕。

ACT II

Scene 1.—At the Fairy's

A magnificent entrance-hall in the palace of the Fairy Berylune. Columns of gleaming marble with gold and silver capitals, staircases, porticoes, balustrades, etc.

Enter from the back, on the right, sumptuously clad, the Cat, Sugar, and Fire. They come from a room which emits rays of light; it is the Fairy's wardrobe. The cat has donned the classic costume of Puss-in-boots; Sugar, a silk dress, half white and half pale-blue; and Fire wears a number of many-coloured aigrettes and a long vermilion mantle lined with gold. They cross the whole length of the hall to the front of the stage, where the Cat draws them up under a portico on the right.

The Cat. This way. I know every inch of this palace. It was left to the Fairy

capitals 柱の天井に接した部分の飾など付けた所。

第二幕

第一場 妖女の宮殿で。

妖女ベリリューンの宮殿の壯麗な玄関の廣間。金銀の柱頭でキラキラ輝いた大理石の圓柱や階段や外に柱の立並んだ廊や欄干など。

右手の背面から華美に着飾つた「猫」と「砂糖」と「火」とが入つて来る。彼等は光のバツと射す室から出て来る、それは妖女の衣裳部屋である。「猫」は「長靴を穿いた猫」に出て来る古典的な衣裳を着け、「砂糖」は半分白で半分蒼白の絹の衣服、「火」は種々雑多な色の帽子飾を付け金の裏地の長い朱色のマントを着てゐる。彼等は玄関の廣間を通つて舞臺の正面にやつて来る、すると其處で「猫」が彼等を右手の柱の立並んだ廊の下に整列させる。

猫。どうぞ此方へ。私はこの宮殿の中は隅から隅まで知つて居るのです。私は昔「青髯」から妖女ベリリューンの手

porticoes 外側に柱の立並んだ廊下。

sumptuously 贅澤に、華美に。

Puss-in-boots イタリーの Straparola の童話に出て来る忠義な猫。

aigrettes 帽子の飾毛。

lined with..... で裏地を付けた。

draws...up 整列さす。

This way (どうぞ)此方へ。

every inch of... ...の隅々まで。

THE BLUE BIRD

Bérylune by Bluebeard. . . . Let us make the most of our last minute of liberty, while the children and Light pay their visit to the Fairy's little daughter. . . . I have brought you here in order to discuss the position in which we are placed. . . . Are we all here?

. . .

Sugar. I see the Dog coming out of the Fairy's wardrobe. . . .

Fire. What on earth has he got on? . . .

The Cat. He has put on the livery of one of the footmen of Cinderella's coach. . . . It was just the thing for him. . . . He has the soul of a flunkey. . . . But let us hide behind the balustrade. . . . It's strange how I mistrust him. . . . He had better not hear what I have to say to you. . . .

Bluebeard フランスの Charles Perrault (シャルル、ペロー)の童話にある有名な「青髭」といふ鬼で暴君である。幾人も妻を取代へては飽きると殺してしまつたが、最後に妻にした女の兄弟に殺されてしまつたといふ。

make the most of..... 出来るだけ利用する、役立てる。例.—You must make the most of your time. (時を出来るだけうまく使はなければならぬ)。

THE BLUE BIRD

渡された者なんです。……私達はこの最後の自由な僅かな時間を大に面白くやりませう、その間に子供等や「光」は妖女の小さい娘の所に行きますよ……私は今の我々の位置を議論しようと思つて、あなた方を此處に連れて來たのです。……これで皆さんお揃ひですか？

砂糖。「犬」が妖女の衣裳部屋から出て來ますぞ。……

火。一體全體あの男は何を着てるんだい？……

猫。シンデレラの馬車の馬丁の一人が着た法被を着てゐるんです。……あの男に相當なものですよ。……元々おべつか者ですからね。……だが私達は欄干の後ろに隠れませう……どういふものか、私は彼奴には信用が置けない。私が皆さんに言はなければならぬ事は、彼奴が聞かない方が好い。……

what on earth... 「一體全體」などと言ふ言方。

got on=put on 着る。

livery 仕着せ、法被といふ如きもの。

Cindellera. 元は同じく Perrault の童話にある女主人公で、初め繼母や姉妹達に迫害されて厨房の仕事ばかりさせられてゐたが、妖精のお蔭で王子の舞踏會に行き、王子に見初められて好運の女になつたといふ。その舞踏會に乗つて行つた馬車を此處で言つてゐるのである。

flunkey 「下僕」の意味から轉じて、おべつか者の意もある。

It's strange how I mistrust him. どうしてか彼れを信用出来ないのがおかしい。即ち、おかしい事だがどうも彼れを信用出来ない。

He had better... ...する方が好い。

Goodness me! 第一幕註参照。

Sugar. It is too late. . . . He has discovered us. . . . Look, here is Water also coming out of the wardrobe. . . . Goodness me, how fine she is! .

(*The Dog and Water join the first group.*)

The Dog. (*frisking about*) There! There! . . . Aren't we fine! . . . Just look at these laces and this embroidery! . . . It's real gold and no mistake! . . .

The Cat. (*to Water*) Is that Catskin's "colour-of-time" dress? . . . I seem to recognise it. . . .

Water. Yes, it's the one that suited me best. . . .

Fire. (*between his teeth*) She's not brought her umbrella. . . .

Water. What's that? . . .

Fire. Nothing, nothing. . . .

Water. I thought you might be speaking of a great red nose I saw the other day. . . .

Catskin 原文には「驢馬の皮」(同じく Perrault の童話の一)とあるが

砂糖。もう間に合はない。……此方を見付けやがった。……

やあ、「水」も衣裳部屋から出て来るところだ。こりや又
何て綺麗にして来たことだ!……

(「犬」と「水」とが仲間入りする。)

犬。(跳び廻りながら)、そら、そら! 綺麗だらう!……まあ
このレースや刺繍を見てくれ!……確かにほんとの金だ
ぜ!……

猫。(「水」に)。そりや「猫の皮」の中の「時の色」の衣裳ぢや
ないかね?……たしかさうだと思ふが、……

水。ええ、これが私に一番似合ふのよ……

火。(齒の間で物を言ふやうに) 彼女は雨傘を持って来ない
な……

水。何ですつて?……

火。何でもないよ、何でもないよ……

水。私は又この間見た大きな赤鼻の事をあなたが言つてゐる
のかと思つて……

英譯には斯くなつてゐる。

THE BLUE BIRD

The Cat. Come, don't let us quarrel; we have more important things to do. . . . We are only waiting for Bread; where is he? . . .

The Dog. He was making an endless fuss about choosing his dress. . . .

Fire. Worth while, isn't it, for a fellow who looks a fool and carries an enormous stomach? . . .

The Dog. At last, he decided in favour of a Turkish robe, adorned with gems, a scimitar and a turban. . . .

The Cat. There he is! . . . He has put on Blue-beard's finest dress. . . .

Enter Bread, in the costume described above. The silk robe is crossed tightly over his huge stomach. In one hand he holds the hilt of a scimitar passed through his sash and in the other the cage intended for the Blue Bird.

making an endless fuss 果しもない騒ぎ立てをする。

Worth while, isn't it, for...? は *Isn't it worth while for...* (...にはやつてやり甲斐のあることではないか)を語勢を強める爲め語を入替へた形。

THE BLUE BIRD

猫。 さあ喧嘩はよさう、もつと大切な事があるんです。……
唯「麵包」の来るのを待つてゐるのだが、あの人は何處に居るんだらう?.....

犬。 あの男は衣裳の見立てで何時までも喧しいことを言つてゐたよ.....

火。 阿呆面をして大きな腹をしてゐる男はそれ位の事してもよさうぢやないか?.....

犬。 とうとう、寶石の飾りの付いたトルコ服や偃月刀や頭巾の方に決めちやつた!.....

猫。 それやつて來ました!.....「青髯」の一番好い衣裳を着込んで.....

(「麵包」が上に言つた通りの着付けで入つて來る。絹の外衣をその大きな腹の上にキツチリと巻き付けてゐる。片方の手には飾帯に差した偃月刀の柄を持ち、もう一つの手には青い鳥を入れる筈の鳥籠を持つてゐる。)

decided in favour of... は裁判などで...の有利な様に判決するといふ使ひ方で、此處では...の方が好いとして決めたこと。

scimitar 偃月刀、曲刀。

turban 印度人、土耳其人等の頭に巻付けてゐる頭巾。

passed through his sash 彼れの飾帯に差して。

in the other (hand he holds) として見る。

intended for... ...するつもり、筈の。

Bread. (*waddling conceitedly*) Well? . . .
What do you think of this?

The Dog. (*frisking round the Loaf*) How nice he looks! What a fool he looks! How nice he looks! How nice he looks! . . .

The Cat. (*to the Loaf*) Are the children dressed? . . .

Bread. Yes, Master Tytyl has put on Hop-o'-my-Thumb's blue jacket and red breeches; and Miss Mytyl has Gretel's frock and Cinderella's slippers. . . . But the great thing was the dressing of Light! . . .

The Cat. Why? . . .

Bread. The Fairy thought her so lovely that she did not want to dress her at all! . . . Thereupon I protested in the name of our dignity as essential and eminently respectable elements; and I ended by declaring that,

conceitedly 自惚れて。

Hop-o'-my-Thumb 水中に棲む魔 (Nix) で、小人の姿をしてゐると云ふ。これは英、佛、獨逸國の物語にそれぞれ名が代つて出てゐるが、作者は矢張り Perrault の物語の中にあるそれだと衣裳の説明の中で言つてゐる。

Gretel ドイツの Grimm の童話に出てゐる樵夫の女の子の名。

麵包。(自惚れてよろよろ歩きながら)ええ?……この風はどうだね?

犬。(「麵包」の周圍を跳び廻りながら)立派だなあ!全く阿呆面だ!立派だなあ!立派だなあ!

猫。(「麵包」に)、子供達は支度したかね?

麵包。あゝ、ティルティル君は「小人」の青い短衣と赤のズボンを着くし、ミティルさんはグリーテルの上衣にシンデレラのスリッパを穿いてさ……だが、すばらしいのは「光」の衣裳さ。……

猫。どうして?……

麵包。妖女は「光」を初めから綺麗だと思つたものだから「光」には着更へをさせたくなかつたんだ!……そこで私は抑も吾々には重要缺ぐべからざる大に尊重すべき要素であるといふ威厳から抗議を申立ててやつた、そして終ひに、さういふ條件の下にあつては彼女と同行することは御免蒙ると

Cindellera's slippers 先に述べたシンデレラが舞踏會に行く時 glass slippers (硝子の上靴)を穿いて行つた(併しこの硝子の上靴といふのは英譯の間違ひで、佛文の原文では毛皮の上靴になつてゐるさうである、然もその誤譯が今日まで通つてゐる)その片方を落したのが手掛りで王子に見付けられたといふその slipper を云ふのである。

the great thing was... すばらしいのは...だつた。

in the name of our dignity 吾々の威厳といふ名義から。斯ういふ name は名義の意で、in God's name(神の名義で、即ち後生だから)、in the King's name(罪人など捕へる時に王の名義を以て、即ち「御用だ」などに使ふ。

elements 此處では人間生活に必要な要素の意。

THE BLUE BIRD

under these conditions, I should refuse to be seen with her. . . .

Fire. They ought to have bought her a lampshade! . . .

The Cat. And what answer did the Fairy make? . . .

The Loaf. She hit me with her stick on my head and stomach. . . .

The Cat. And then? . . .

Bread. I allowed myself to be convinced; but, at the last moment, Light decided on the moonbeam dress at the bottom of the chest with Catskin's treasures. . . .

The Cat. Come, stop chattering, time presses. . . . Our future is at stake. . . . You have heard—the Fairy has just said so—that the end of this journey will, at the same time, mark the end of our lives. . . . It is our business, therefore, to prolong it as much as possible and by every possible means.

I should refuse to be seen with her (彼女と一緒に見られることは断る、とは一緒に行くことは御免蒙る)

They ought to have bought her...=It is strange that they have

THE BLUE BIRD

言ひ切つてやつたんだ。.....

火。 彼女にヤランプの笠でも買つてやりやよかつたんだに!

猫。 で、妖女は何だつて答へたね?.....

麵包。 あの女は杖で私の頭と腹を打ちやがつた。.....

猫。 それから?.....

麵包。 仕方がないから私は言ふことを聞いてやつた。だが最後に「光」は「猫の皮」の寶物を入れた箱の底に藏つてある月光の着物を着ることに決めたわけさ。.....

猫。 さあ、お喋舌は止めませう、時間がありません。我々の未來に關する場合は。.....御承知でせう、——妖女が今言つたばかりですから——この旅が終ると同時に我々の生命も終るといふので。だから出来るだけ、何としてでもこの旅を延すとが私達の仕事です。.....併しもう

not bought her... 彼女に...でも買つてやればよかつたのだのに、どうして買つてやらなかつたのだらう。例:— He ought to have arrived here (彼はもう到着してゐる筈なのに)。

She hit me...on my head (彼女は私の頭を打つた)これは英語で通例の言ひ方で、動作の加へられた場所を前置詞の關係で後から示す。

I allowed myself to be convinced 確かにさうであると思ふやうに自らした、即ち先方の言ふ事をその通りと聞いてやつた。

Catskin's treasures 前参照。

Our future is at stake=Our future is concerned. 吾々の未來に關すること。

by every possible means. means (手段)は常に複數形の語であるが單數扱いにして every といふ單數形の語に應じても差支ない。

... But there is another thing: we must think of the fate of our race and the destiny of our children. . . .

Bread. Hear, hear! . . . The cat is right!

The Cat. Listen to me! . . . All of us here present, Animals, Things and Elements, possess a soul which man does not yet know. That is why we retain a remnant of independence; but, if he finds the Blue Bird, he will know all, he will see all and we shall be completely at his mercy. . . . This is what I have just learned from my old friend, Night, who is also the guardian of the mysteries of Life. . . . It is to our interest, therefore, at all costs to prevent the finding of that bird, even if we have to go so far as to endanger the lives of the children themselves. . . .

The Dog. (*indignantly*) What's the fellow saying? . . . Just say that again, will you,

by this means などとも使ふ。

Elements 地、水、火、風などを云ふ、之等を four elements と云ふ。

a remnant of independence 完全なる獨立とは行かずとも獨立と

一つ事があります、私達の種族の運命や子供等の運命といふことも考へなければなりません。 . . .

麵包。 ヒヤ、ヒヤ、 . . . 「猫」の言ふ通りだ! . . .

猫。 聽いて下さい! 此處に出席の私共は皆、「獸」も「物」も、火や水の方々も、まだ人間の知らぬ靈といふものを持つて居ります。それでこそ私共はこれでも獨立といふものの残片でも尙持つて居るのであります。併し人間が青い鳥を見付けければ、人間は凡ての事を知り、凡ての物が見える様になつて、私共は全く人間の自由自在になつてしまふであります。 . . . 斯ういふ事は今、私の舊友である「夜」から聞いて知つたことであります、「夜」も亦生命の神秘の守り番をして居る者でございます。 . . . でありますから、私共は子供等自身の生命を危くする様な事までしなければならなくなつても尙、何としてでも子供等にあの鳥を見付けさせないやうにすることが私共の爲めになることであります。

いふ事の残片でも。

be at his mercy 彼の命ずるが儘になる、自由自在になる。

at all costs 幾ら掛つても、何としてでも。

even if = even though.

we have to go so far as to endanger the lives 生命を危くすることまでしなければならぬ。 so far as は限度を示す。

What's = what is.

THE BLUE BIRD

to see if I heard right?

Bread. Order! Order! . . . It's not your turn to speak! . . . I'm in the chair at this meeting. . .

Fire. Who made you chairman? . . .

Water. (to *Fire*) Hold your tongue! . . .
What are you interfering with? . . .

Fire. I shall interfere where I choose. . . .
And I want none of your remarks. . . .

Sugar. (conciatorily) Excuse me. . . . Do not let us quarrel. . . . This is a serious moment. . . . We must, above all things, decide what measures to adopt. . . .

Bread. I quite agree with *Sugar* and the *Cat*. . . .

The Dog. This is ridiculous! . . . There is Man and that's all! . . . We have to obey him and do as he tells us! . . . That is the one and only fact! . . . I recognise no

to see if I heard right = to see whether I heard right or not 自分の聞き方が正しいか否か知るやうに。

your turn to speak 君の話す順番。

I'm in the chair 私が議長だ。chair は議長席。

interfere with... 干渉する、邪魔する。

THE BLUE BIRD

犬。(怒を帯びて)、彼奴は何を言つてるんだ? もう一遍言つてくれないか、俺の耳が間違つてゐなかつたかどうか知りたいから。.....

麵包。 静肅に! 静肅に! まだ君の發言する番ぢやない! この會議では私が議長だ.....

火。誰が君を議長にした?

水。(火に) 黙つてゐらしやい! 何を干渉なさるんです?

火。俺は勝手に干渉したければする。..... 何も貴様の注意などは受けなくても好い。.....

砂糖。(仲裁的に)、失禮ですが..... お互に喧嘩は止めませう、..... 今は重大な場合です。..... 私達は何よりも先づ、どんな手段を取るべきかを決めなければなりません。

麵包。 私は飽くまで「砂糖」と「猫」の言ふ事に同意だ。...

犬。 馬鹿にしてる! 人間と云ふものがある、唯それだけの事だ! 我々は人間に服従して人間の命ずる通りになければならないんだ! それだけが事實だ! 俺は

where I choose (to interfere) 干渉したいと思ふ時には。干渉したければ。where は關係副詞で、when と同意。

above all things 何よりも先づ。

measures 手段、方法、常に複數に用ひらる。

the one and only fact それだけで他にない事實、即ちそれだけが事實。

THE BLUE BIRD

one but him! . . . Hurrah for Man! . . .
Man for ever! . . . In life or death, all for
Man! . . . Man is God! . . .

Bread. I quite agree with the Dog.

The Cat. (to the Dog) But at least give your
reasons. . . .

The Dog. There are no reasons! . . . I love
Man and that's enough! . . . If you do
anything against him, I will throttle you
first and I will go and tell him everything.

. . .

Sugar. (intervening sweetly) Excuse me. . . .
Let us not embitter the discussion. . . .
From a certain point of view, you are both
of you right. . . . There is something to be
said on both sides. . . .

Bread. I quite agree with *Sugar*! . . .

The Cat. Are we not, all of us, Water, Fire
and you yourselves, Bread and the Dog,
the victims of a nameless tyranny? . . .

Hurrah for Man! Man for ever! 共に邦語の萬歳に當る。
do anything against him 彼(人間)に逆らふやうな事をする。
throttle 頸を絞める。

THE BLUE BIRD

人間の外何物も認めない! . . . 人間萬歳! . . . 人間萬歳!
生きるのも死ぬのも皆人間の爲めだ! . . . 人間は神様
だ! . . .

麵麩。私は飽くまで「犬」に同意だ。

猫。(犬に)だが、少くともその理由を言ひたまへ。

犬。理由なんかない! . . . 俺は人間を愛する、それだけで充
分だ! . . . お前が人間に反対でもすれば、俺は先づお前の
頸を絞めて、人間の所に行つて何もかも言つてやるぞ。

砂糖。(甘たろい調子で中に入つて)失禮ですが、もうこの
上聞き辛い議論は止さうぢやありませんか。或る点から見
ると、貴方は両方共正しい。 . . . 双方に理窟がありま
す。 . . .

麵麩。私は飽くまで「砂糖」に同意だ! . . .

猫。我々はみんな、「水」も「火」も、それから君方「麵麩」
も「犬」も、實に話にならぬ虐政の犠牲ぢやないですか?

諸君は、あの暴君の出て來ぬ中は、我々が大地の上を自由

embitter the discussion その議論を苦々しくする、即ち、聞き辛い
議論をする。

There is something to be said on both sides. 双方に理窟があ
る、言分がある。much to be said などとも屢使はれる。

nameless 此處では「名狀すべからざる」「話にならぬ」等の意。

Do you remember the time when, before the coming of the despot, we wandered at liberty upon the face of the earth? . . . Fire and Water were the sole masters of the world; and see what they have come to! . . . As for us puny descendants of the great wild animals. . . . Look out! . . . Pretend to be doing nothing! . . . I see the Fairy and Light coming. . . . Light has taken sides with Man; she is our worst enemy. . . . Here they are. . . .

Enter, on the right, the Fairy, in the shape of an old woman, and Light, followed by Tytyl and Mytyl.

The Fairy. Well? . . . What is it? . . . What are you doing in that corner? . . . You look like conspirators. . . . It is time to start. . . . I have decided that Light shall be your leader. . . . You will obey her as you would me and I am giving her my wand. . . . The children will pay a visit to

at liberty 自由に、勝手に。

に歩き廻つてゐた時のあつたことを記憶してゐますか? . . . 「火」や「水」は世界の二人の主でした、それがどんな事になつたか御覽なさい! . . . 我々偉大な野獸の微々たる末裔に至つては . . . それ氣をお付けなさい! . . . 何もしてゐなかつた様な風をするのですぞ! . . . 妖女と「光」がやつて來ます。 . . . 「光」は人間に味方したのだ、彼女は我々の最も憎むべき敵です . . . くれ來ました。 . . .

右手から老婆の姿をした妖女と「光」とがティルティルとミティルを後に連れて登場。

妖女。 おや? . . . どうしたといふのだの? . . . お前方はその隅つこで何をしてゐたのかの? . . . 何だか謀反でも巧んでゐる者のやうだよ。 . . . さア出掛ける時間だよ。 . . . 「光」をお前方の先導にすることに決めたからね . . . お前方は私の言ふ事を聞くやうに彼女の言ふことも聞いておくれだら

what they have come to 彼等が今日どんなことになつてゐるか。
puny undersized, feeble, petty 等であるが此處では最後の意味が當つてゐよう、即ち些々たる、取るに足らぬ。

look out! 氣を付けよ。

Pretend... 振りをする。

has taken sides with... . . . に味方した。

as you would me は would の次に obey を補つて見る。

wand 妖女などの持つ呪禁の棒。

THE BLUE BIRD

their late grandparents this evening. . . .
You will remain behind; that is more
discreet. . . . They will spend the evening
in the bosom of their dead family. . . .
Meanwhile, you will be getting ready all
that is wanted for to-morrow's journey,
which will be a long one. . . . Come, up,
be off and every one to his post! . . .

The Cat. (*hypocritically*) That is just what I
was saying to them, madam. . . . I was
encouraging them to do their duty bravely
and conscientiously; unfortunately, the Dog,
who kept on interrupting me. . . .

The Dog. What's that? . . . Just wait a bit!
. . . .

(*He is about to leap upon the Cat, but
Tyltyl, foreseeing his intention, stops
him with a threatening gesture.*)

Tyltyl. Down, Tylo! . . . Take care; and, if
ever I catch you again. . . .

discreet 分別ある、伶俐な。

in the bosom of... ..の中に混つて、..の胸に抱かれて。

a long one=a long journey.

THE BLUE BIRD

う、私は彼女に私の魔法杖を渡すつもりだよ。 子供達
は今夜亡くなつたお祖父さんお祖母さんの所へ行くだらう
.....そしたらお前方は後に残つてゐるのだ、その方が伶俐
な遣方だよ。.....子供達は今夜一晩亡くなつた家の人達の
胸に抱かれて明すだらう。.....その間お前方は明日の旅の
仕度に掛ればよい、明日の旅は長いからの.....さあ、行つ
て、みんな自分の持場に付くのだよ!.....

猫。(偽善者らしく)丁度今皆にその事を言つたところなの
です。.....私は皆に自分の勤を勇ましく疾しい所なく果す
やうに勵ましてゐたところなのです、唯、生憎、「犬」が
のべつに邪魔をしましてね.....

犬。何だと?.....待て、一寸!.....

(「犬」は「猫」に飛び掛らうとする、が、ティルティルは
「犬」の意を見て取つて、威し付けるやうな身振りで彼を
止める。)

ティルティル。止せ、ティロ!.....氣を付けろよ、若し復や
らうものなら.....

to his post その持場に(着け)。

kept on interrupting me 私の邪魔をし續けた、絶えず私の邪魔を
した。

foreseeing his intention 彼の意向を豫め見て取つて。

if ever I catch you again... 復お前の...するのを見付けるやうな
ことがあれば、復やらうものなら。

The Dog. My little god, you don't know, it was he who. . . .

Tyltyl. (*threatening him*) Be quiet! . . .

The Fairy. Come, that will do . . . Let Bread hand the cage for this evening to Tyltyl. . . . It is just possible that the Blue Bird may be hidden in the Past, at the grand-parents'. . . . In any case, it is a chance which we must not neglect. . . . Well, Bread, the cage? . . .

Bread. (*solemnly*) One moment, if you please, Mrs. Fairy. . . . (*Like an orator making a speech*) I call upon all of you to bear witness that this silver cage, which was entrusted to my care by. . . .

The Fairy. (*interrupting him*) Enough! . . . No speeches! . . . We will go out this way and the children that. . .

Tyltyl. (*rather anxiously*) Are we to go all alone? . . .

that will do それでよい。第一幕註及び次の例参照。

for this evening 今夜(のところ)は、例:— That will do for the present. 當分はそれでよい。

犬。坊ちゃん、御存じないんです、彼奴が……

ティルティル。(威して) 静かにしろつていふのに! ……

妖女。さあ、それで好い。……「麴麴」は今晚はその籠をティルティルにお渡し! 青い鳥が「過去」の國のお祖父さんお祖母さんの所に置れてゐるかも知れないからね。……兎に角、そんな事があつたら見逃しちやあならないよ。……さあ、「麴麴」、籠は? ……

麴麴。(重々しげに) 一寸、失禮ですが奥さん……(演説家が演説するやうに)、私は皆さんに證人になつて戴きたいのですが、私に委託されましたこの銀の籠は……

妖女。(彼の言葉を遮つてもう好い!) ……お黙り! ……此方から出て行かう、それから子供達は彼方から……

ティルティル。(何だか不安さうに) 僕達限りで行くの?

in any case 兎も角。

One moment = Wait a moment. 一寸御待ち下さい。

call upon...to... することを求める。

bear witness = testify, show. 證明する。

was entrusted to my care 私が世話するやうに托された、私が預かつた。その次の **by** はその後 **the fairy** とか **her** とか言ひ掛けて、語を切つたものである。

that = that way.

THE BLUE BIRD

Mytyl. I feel hungry! . . .

Tyltyl. I, too! . . .

The Fairy. (to Bread) Open your Turkish robe and give them a slice of your good stomach. . . .

(*Bread opens his robe, draws his scimitar and cuts two slices out of his stomach and hands them to the Children.*)

Sugar. (approaching the Children) Allow me at the same time to offer you a few sugar-sticks. . . .

(*He breaks off the five fingers of his left hand, one by one, and presents them to the Children.*)

Mytyl. What is he doing? . . . He is breaking all his fingers! . . .

Sugar. (engagingly) Taste them, they are capital. . . . They're made of real barley-sugar. . . .

Mytyl. (tasting one of the fingers) Oh, how good they are! . . . Have you many of

your good stomach お前のそのお腹位の意で、good に格別の意味

THE BLUE BIRD

ミティル。私お腹が空いたわ!

ティルティル。僕もさ!

妖女。(「麵麩」に) お前のトルコ服の前を開けて、そのお腹を一片切つてお遣り

(「麵麩」は上衣の前を開けて偃月刀を引抜き、自分の腹を二片切つて子供達に渡す。)

砂糖。(子供達の傍に寄つて) それでは砂糖棒を少し上げませうか

(彼は左手の五本の指を一本々々折つて、それを子供達に贈る。)

ミティル。彼の人何をしてゐるの? 指をみんな折つて!

砂糖。(愛嬌たつぷりに)、まあ召しあがれ、美味いですぞ。ほんとの飴扭ぢで出来てゐるのですから。

ミティル。(その指を一本しやぶりながら)、まあ美味いわね
はない。

Allow me...to offer「差し上げませう」といふ丁寧な言方に過ぎない。
engagingly 愛嬌振つて。

barley-sugar 第一幕註参照。

them? . . .

Sugar. (*modestly*) Yes; as many as I want.

. . .

Mytyl. Does that hurt you much, when you break them off? . . .

Sugar. Not at all. . . . On the contrary, it's a great advantage; they grow again at once and so I always have new, clean fingers. . . .

The Fairy. Come, children, don't eat too much sugar. . . Don't forget that you are to have supper presently with your grand-papa and grandmamma. . . .

Tyltyl. Are they here? . . .

The Fairy. You shall see them at once. . . .

Tyltyl. How can we see them, when they are dead? . . .

The Fairy. How can they be dead, when they live in your memory? . . . Men do not know this secret, because they know so little; whereas you, thanks to the diamond,

as many as..., ...だけ。

まだ澤山あるの?.....

砂糖。(謙遜したやうに) へえ、自分の欲しいだけは、.....

ミティル。指を折るとするぶん痛いませう?.....

砂糖。いえ少しも.....それどころか、折ると大へん具合がよろしいんです、直ぐに復生えて來ますので、私は何時も新しい、綺麗な指をして居ります。.....

妖女。さあ、子供達、あんまり砂糖をお食べでない。.....喉御飯は直きにお祖父さんお祖母さんの所で食べる事をお忘れでない。.....

ティルティル。お祖父さん達は此處に居るの?.....

妖女。直ぐに會はせてあげるよ。.....

ティルティル。死んでしまつてゐるのに、どうして會へるの?

妖女。あの人達はお前方の記憶の中に生きてゐるのに、どうして死んでゐるものかね?.....人間は餘り物を知らないから、この秘密も知らないんだよ、それだのにお前方は、ダ

when they are dead, when they live... の when は共に...であるのの意。

THE BLUE BIRD

are about to see that the dead who are remembered live as happily as though they were not dead. . . .

Tyltyl. Is Light coming with us?

The Fairy. No, it is more proper that this visit should be confined to the family. . .

I will wait near here, so as not to appear indiscreet. . . . They did not invite me . . .

Tyltyl. Which way are we to go? . . .

The Fairy. Over there . . . You are on the threshold of the Land of Memory. . . . As soon as you have turned the diamond, you will see a big tree with a board on it, which will show you that you are there. . . . But don't forget that you are to be back, both of you, by a quarter to nine. . . . It is extremely important. . . . Now mind and be punctual, for all would be lost if you were late. . . . Good-bye for the present! . . . (*Calling the Cat, the Dog,*

they know so little 物を餘り知らない。whereas それなのに(上の事とは反対に)。

*thanks to... ..*のお蔭で。

*are about to see=*are going to see.

as happily as though they were not dead 死んではゐないやうに幸福に。

THE BLUE BIRD

イヤモンドのお蔭で、死んで居ても思ひ出される人達は、まるで死んではゐないやうに、幸福に生きてゐるといふことが今に分るのだよ。……

ティルティル。「光」は僕達と一緒に来るの?

妖女。いや、今夜訪ねて行くものは家の者^{うち}げけにした方が好いよ。……私はこの邊で待つてゐよう、物が解らないと思はれないやうに。……私は招ばれはしなかつた。……

ティルティル。どつちから行つたら好いの?

妖女。彼方^{あつち}からさ。……お前方は「記憶の國」の入口に来てゐるのだよ。……そのダイヤモンドを廻すと直ぐに、私の掛つてゐる大きな樹が見える、それでお前方は其處に來たことが分るだらうよ。だが九時十五分前までには、二人共歸つて來ることをお忘れでない、……それはほんとうに大切な事なのだからの……では氣を付けて、時間を間違へずの、若し遅くなつたら、それでお終ひだよ。……それでは行つておゐで!……

*should be confined to... ..*限られる、…だけにして置く。此の *should* は *It is proper, It is necessary* 等の *Clause* の後に必ず用ひられるものである。例:— *It is proper that one should obey one's parents.* (親に従ふのは當然の事だ)

so as not... .. しないやうに。

appear indiscreet 無分別に見える、物が解らないやうに見える。

are on the threshold その敷居 所まで來てゐる、入りかけてゐる。

as soon as you have turned... .. を廻してしまふが早い。此處の *have turned* といふ現在完了は「…してしまふ」の意。

by a quarter to nine 九時十五分前までに。

*all would be lost=*all would be over 萬事おしまひだらう、*would* は後の *if you were late* といふ *Subjunctive Past* (接續法過去)に應じた形。
for the present 今(暫時)は、(前出)

THE BLUE BIRD

Light, etc.) This way. . . . And the little ones that way. . . .

(She goes out to the right, with Light, the Animals, etc., while the Children go out to the left.)

CURTAIN

Scene 2.—*The Land of Memory.*

A thick fog, from which stands out, on the right, close to the footlights, the trunk of a large oak, with a board nailed to it. A vague, milky, impenetrable light prevails. Tyltyl and Mytyl are at the foot of the oak.

Tyltyl. Here is the tree! . . .

Mytyl. There's the board! . . .

Tyltyl. I can't read it. . . . Wait, I will climb up on this root. . . . That's it. . . . It says, "Land of Memory."

Mytyl. Is this where it begins? . . .

Tyltyl. Yes, there's an arrow. . . .

Mytyl. Well, where are grandad and granny?

impenetrable 先きまで見透し難き。

THE BLUE BIRD

(「猫」、「犬」、「光」達を呼んで)、此方だよ……それから子供達は彼方からだよ……。

(妖女は「光」と他の動物達を連れて右手から退場、その間に子供等は左手から退場。)

幕

第二場 回想の國

一面に濃霧、其の中から右手、脚燈に近く一つの大きな樅の幹が突出て、それに一枚の木の札が釘で打付けられてゐる。ポーッとした乳白色の先の見透せぬ光が一面に行直つゐる。ティルティルとミティルが樅の木の根元にゐる。

ティルティル。 此處に樹があつてよ!……

ミティル。 彼處に札があつてよ!……

ティルティル。 僕にやあれは讀めない。……お待ち、この根の上に登つて見よう。……さうだ。……「回想の國」と書いてある。

ミティル。 此處からさうなの?……

ティルティル。 あゝ。彼處に矢の印があるもの、……

ミティル。 さう、ちいちゃんとはあちゃんは何處にゐるのでせう?……

prevails=is current. 一體に行直つてゐる。

That's it 何か心に求めてゐるものかがあつて、それにぶつかつた時の語で「それだ」とか「解つた」などの意。

an arrow 方向を示す矢の印。

Tyltyl. Behind the fog. . . . We shall see.

Mytyl. I can see nothing at all! . . . I can't see my feet or my hands. . . . (*Whimpering*) I'm cold! . . . I don't want to travel any more. . . . I want to go home. . . .

Tyltyl. Come, don't keep on crying, just like Water. . . . You ought to be ashamed of yourself. . . . A great big little girl like you. . . . Look, the fog is lifting already. We shall see what's behind it. . . .

(The mist begins to move; it grows thinner and lighter, disperses, evaporates. Soon, in a more and more transparent light, appears, under a leafy vault, a cheerful little peasant's cottage, covered with creepers. The door and windows are open. There are bee-hives under a shed, flower-pots on the window-sills, a cage with a sleeping blackbird. Beside the door is a bench, on which

keep on crying 何時迄でも止めずに泣き続ける。

big little girl は little girl が女の兒で、それに big が付いたものと見れば可笑しくない。

ティルティル。霧の後方にさ。……今に會へるよ。……

ミティル。私には何にも見えないわ! ……自分の足や手が見えるだけだわ……(メソメソ泣きながら)私寒いわ! ……もう先に行くのは嫌よ。……私家に歸りたいわ。……

ティルティル。さあそんなに「水」みたいに、何時までも泣くのはお止しよ。……恥かしいと思ふのが當り前だ……お前のやうな大きな娘が。……ご覽、霧はもう上りかけたよ。……あの後ろにあるものが見えるだらうよ。……

(霧が動き始める。次第に薄くなり、明るくなり、四方に散り、蒸發してしまふ。間もなく益々透通つて來る光の中に、木の葉が圓天井のやうになつた下に、蔓草が一面に絡んだ楽しげな小さな農夫の小舎が現はれる。入口の戸や窓は開いてゐる。物置き小舎の下に蜜蜂の巢があり、窓圍の上には花の鉢があり、轆の眠つてゐる鳥籠もある。入口の傍に腰掛が一つあつて、それにれ老農夫と其妻、即ちテ、

leafy vault 木の葉が茂つて圓天井をなしてゐる狀。

creepers 葛等の蔓草。

shed 物置き小屋。

if they can stir = whether they can stir or not.

THE BLUE BIRD

an old peasant and his wife, Tyltyl's grandfather and grandmother, are seated, both sound asleep.)

Tyltyl. (suddenly recognising them) It's grandad and granny!

Mytyl. (clapping her hands) Yes! Yes! . . . So it is! So it is! . . .

Tyltyl. (still a little distrustful) Take care! . . . We don't know yet if they can stir. • Let's keep behind the tree. . . .

(Granny Tyl opens her eyes, raises her head, stretches herself, give a sigh and looks at Gaffer Tyl, who also wakes slowly from his sleep.)

Granny Tyl. I have a notion that our grandchildren who are still alive are coming to see us to-day. . . .

Gaffer Tyl. They are certainly thinking of us, for I feel anyhow and I have pins and needles in my legs. . . .

Granny Tyl. I think they must be quite near, for I see tears of joy dancing before my

keep behind the tree 樹の蔭に其儘ちつとしてゐる。Keep close

THE BLUE BIRD

ルティルのお祖父さんお祖母さんが、二人共ぐつすり眠込んで掛けてゐる。

ティルティル。(急に二人の姿を認めて)ちいちゃんとはあちやんだ!.....

ミティル。(手を打つて)、さうよ!さうよ!... さうだわ!... さうだわ!.....

ティルティル。(それでも稍不審さうに)、氣をお付け!.....まだ彼人達は動けるのかどうか分らないよ.....樹の蔭にちつと隠れてゐよう。.....

(お祖母さんのティルが眼を開け、頭を擡げ、背^せ伸をし、溜息を吐いてからお祖父さんのティルを見る、お祖父さんもそろそろと眼を覚ます。)

お祖母さんのティル。私はまだ生きてゐる家の孫達が今日私等に會ひに来るやうに思へますがの。

お祖父さんのティル。屹度私等の事を思うてゐるのちや、私はどうしてもそんな氣がするし、足がしびれるもの。.....

祖母。もう直ぐ傍に来てゐるに違ひないと思ひますよ、嬉し

to me (私に離れぬやうについて來よ)等と同じ用法。

stretches herself 伸びをする。

I have a notion that... ...といふ事がわかる、...のやうに思へる。

I feel anyhow のfeelは自動詞で「氣がする」の意。anyhow は副詞で「どうしても」「兎に角」等の意。

pins and needles (足などの)しびれ。

THE BLUE BIRD

eyes. . . .

Gaffer Tyl. No, no, they are a long way off.
. . . . I still feel weak. . . .

Granny Tyl. I tell you they are here; I am quite strong. . . .

Tyltyl and Mytyl. (*rushing up from behind the oak*)

Here we are! . . . Here we are! . . . Gaffer! Granny! It's we! . . . It's we! . . .

Gaffer Tyl. There! . . . You see? . . . What did I tell you? . . . I was sure they would come to-day. . . .

Granny Tyl. Tyltyl! . . . Mytyl! . . . It's you! . . . It's she! . . . (*Trying to run to meet them*) I can't run! . . . I've still got the rheumatics! . . .

Gaffer Tyl. (*hobbing along as fast as he can*)
No more can I. . . . That's because of my wooden leg, which I still wear instead of the one I broke when I fell off the big oak. . . .

what did I tell you? 私が何と言った、即ち私の言った通りだらう。

THE BLUE BIRD

涙が眼の前に踊つてゐるのが見えますもの。

祖父。 いや、いや、まだずつと先にゐるのぢや。 私はまだ元氣が出ぬ

祖母。 確かに此邊に居ますよ、私はもうすっかり確かりして來ました。

ティルティルとミティル。 (櫛の木の蔭から駆け出して行つて)

此處だよ? 此處だよ! おぢいちゃん! おばあちゃん! 僕達だよ! 僕達だよ!

祖父。 あれ! ね? 私が何と言つた? 今日は何度來ると思つて居た。

祖母。 ティルティルや! ミティルや! まあお前だの! あの娘だの! (二人に會はうと走らうとして) 私は走れん! まだリューマチがあるで!

祖父。 (出来るだけ速く跛引き々々歩きながら)、私も走れん、あの大きな櫛の木から落ちた時折つた足の代りにまだこの義足を嵌めのゐるものぢやから。

I've...got=I have.

No more can I=I cannot run any more than you. 私もお前同様走れない。(第一幕註参照)

instead of the one I broke=instead of the leg which I broke. 私が折つたその足の代りに。

THE BLUE BIRD

(The Grandparents and the Children exchange frantic embraces.)

Granny Tyl. How tall and strong you've grown, Tytyl!

Gaffer Tyl. (stroking Mytyl's hair) And Mytyl! . . . Just look at her. . . . What pretty hair, what pretty eyes! . . .

Granny Tyl. Come and kiss me again! . . . Come on to my lap. . . .

Gaffer Tyl. And what about me? . . .

Granny Tyl. No, no. . . . Come to me first. . . . How are Daddy and Mummy Tyl? . . .

Tylyl. Quite well, granny. . . . They were asleep when we went out. . . .

Granny Tyl. (gazing at them and covering them with caresses)

Lord, how pretty they are and how nice and clean! . . . Was it mummy who washed you? . . . And there are no holes in your stockings! . . . I used to darn them once, you know. . . . Why don't you come to see

covering...with caresses キスを浴せかける。

THE BLUE BIRD

(お祖父さんお祖母さんと子供等とは狂気のやうに抱き合ふ。)

祖母。 まあお前は丈も高う丈夫になつたのう、ティルティルや

祖父。 (ミティルの髪の毛を撫でながら)そしてミティルも!...
まあこの娘を見やれ。.....美しい髪の毛ぢやのう、美しい
眼ぢやのう!.....

祖母。 もう一週来てキスしておくれ!.....私の膝に来やれ!

祖父。 そして私にはどうぢや?.....

祖母。 いえ、いえ.....私の方に先きにお出で.....父ちゃんや
母ちゃんはどうしてるの?.....

ティルティル。 達者にしてるよ、ばあちゃん.....僕達の出て来る
時眠つてゐたよ。.....

祖母。 (二人をぢつと眺め、キスを浴せかけながら)まあほん
に美しく、綺麗にさつぱりとして!.....母ちゃんが洗つて
くれたのかの?.....鞆にも孔一つ開いて居らんし!.....前
には私が鞆を繕うてあげたものだが、のう。.....何でもつと

Lord 感嘆を表はす語で「まあ」などに當る。

used to darn...何時も繕うて上げたものであつた。

THE BLUE BIRD

us oftener? . . . It makes us so happy! . . .
It is months and months now that you've
forgotten us and that we have seen no-
body. . . .

Tyltyl. We couldn't, granny; and to-day it's
only because of the Fairy. . . .

Granny Tyl. We are always here, waiting for
a visit from those who are alive. . . . They
come so seldom! . . . The last time you
were here, let me see, when was it? . . .
It was on All-hallows, when the church-bells
were ringing. . . .

Tyltyl. All-hallows? . . . We didn't go out that
day, for we both had very bad colds. . . .

Granny Tyl. No; but you thought of us. . . .

Tyltyl. Yes. . . .

Granny Tyl. Well, every time you think of us,
we wake up and see you again. . . .

Tyltyl. What, is it enough to. . . .

Granny Tyl. But come, you know that. . . .

It is months and months from that... もうあれから何ヶ月かになる。

We couldn't は後に see you を補つて見る。

THE BLUE BIRD

度々私達に會ひに来てくれぬのぢや?.....来てくれると私
等はほんとに嬉しいのぢや!.....もうこれで幾月となくお
前方は私等を忘れてしまつて私等は誰にも會はんのぢや。
ティルティル。 僕達は來れなかつたんだよ、ばあちゃん。そし
て今日は妖女が來させてくれたんだよ。.....

祖母。私等は何時も生きてゐる人達の訪ねてくれるのを待つて
此處にゐるのぢやに。.....みんな滅多に來ぬでう!.....
お前方がこの前に來たのは、はて、何時ぢやつたか?.....
何でも萬聖節の日ぢやつた、お寺の鐘が鳴つてゐたで。...
ティルティル。 萬聖節だつて?.....あの日は僕達は外に出なかつ
たよ、二人共ひどい風邪を引いてゐたもの。.....

祖母。 いや、だが、お前方は私等の事を思つてゐた。.....

ティルティル。 あゝ。...

祖母。 さうとも、お前方が私等の事を、思うてくれる度に、
私等は眼を覺して、復お前方に會へるのぢや。

ティルティル。 何、それで好いの、.....

祖母。 だが、まあ、お前知つてゐようが.....

It's only because of the Fairy (此處に來られたのは)唯妖女の爲
めだ、唯妖女が此處に來させてくれたのだ。

come so seldom 滅多に來ないと否定的の意を有す。

let me see はて、こうつと。

All-hallows 天上の諸聖者の靈を祀る日、萬聖節(十月一日)。

colds 風邪。複數になつてゐるのは We である故。take, catch, have,
a cold と使ふ。

every time..., ...する毎に。

is it enough to は後に think of you を補つて見る。

Tyltyl. No, I didn't know. . . .

Granny Tyl (to Gaffer Tyl) It's astonishing, up there. . . . They don't know yet. . . . Do they never learn anything? . . .

Gaffer Tyl. It's as in our own time. . . . The Living are so stupid when they speak of the Others. . . .

Tyltyl. Do you sleep all the time? . . .

Gaffer Tyl. Yes, we get plenty of sleep, while waiting for a thought of the Living to come and wake us. . . . Ah, it is good to sleep when life is done. . . . But it is pleasant also to wake up from time to time. . . .

Tyltyl. So you are not really dead? . . .

Gaffer Tyl. What do you say? . . . What is he saying? . . . Now he's using words we don't understand. . . . Is it a new word, a new invention? . . .

Tyltyl. The word "dead"? . . .

up there は此場合地上の生きた人々のゐる世界を指す。冥府から見て「彼方」と言つたのである。

our own time 自分等が生きてゐた時分。

the Living, the Others 地上の世界に生きてゐる者と他の世界(下

ティルティル。 いや、僕等知らなかつた……

祖母。(祖父に)、驚いた、彼方では。……皆まだ知りません
とき。……皆何も分つてゐないのですかの？

祖父。我等の時分の通りぢや。……生きてゐる人達が他界の
人達の事を言ふとなるとほんとに馬鹿なものぢや。……

ティルティル。 ぢいちゃんや——ばあちゃん始終眠つて
るの？……

祖父。 あゝ私等はよう眠る、さうやつて生きてゐる人達が思
ひ出して、来て、私等の眼を覺ましてくれるのを待つてゐ
るのぢや。……あゝ、世の中の事を終つたら眠るのは好い
ものぢや。……だが時々眼を覺ますのも楽しいものぢや。……

ティルティル。 それぢやぢいちゃんばあちゃんはほんとに死んだ
のぢやないね？

祖父。 何とな？……この兒は何を言つてゐるのぢや？……はて、
この兒は私等に解らない言葉を使つてゐるぞ、……それは
新しい言葉かの、新發明かの？……

ティルティル。「死んだ」つていふ言葉が？……

界などの)の者で、特に Capital letter を用ひてその意味を表はしてゐる。
waiting for a thought of the Living to come and wake us
生きてゐる人が自分達の事を心に思うてくれればそれで自分等は眼が
覺めるのであるから、生きてゐる人がさうしてくれるのを待つてゐる。
life is done 事實死ぬることであるが **die** とか **is dead** とか云ふ語
は此の國にないので、斯く言つたのである。

from time to time 時折、時々。

what do you say? 以下は Tyltyl に **dead** といふ語を使はれて解
らないでゐる心持ち。

THE BLUE BIRD

Gaffer Tyl. Yes, that was th^e word. . . . What
doe^s it m^ean? . . .

Tyltyl. Why, it means that one's no longer
alive. . . .

Gaffer Tyl. How silly they are, up there! . . .

Tyltyl. Is it nice here? . . .

Gaffer Tyl. Oh, yes; not bad, not bad; and,
if one could just have a smoke. . . .

Tyltyl. Aren't you allowed to smoke? . . .

Gaffer Tyl. Yes, it's allowed; but I've broken
my pipe. . . .

Granny Tyl. Yes, yes, all would be well, if
only you would come and see us oftener. . . .
Do you remember, Tyltyl? . . . The last
time I baked you a lovely apple tart. . . .
You ate such a lot of it that you made
yourself ill. . . .

Tyltyl. But I haven't eaten any apple-tart since
last year. . . . There were no apples this
year. . . .

one's no longer alive=one is no longer alive もう生きてゐない。
if one could just have a smoke 煙草を喫むことは出来ないが
(それが現在の事實) それさへ出来たらと現在の事實の反對を假定した

THE BLUE BIRD

祖父。 あい、その言葉がよ。……聞いていふ事かの?……

ティルティル。 さうか、そりや人がもう生きてゐないといふ事
さ。……

祖父。 みんな馬鹿ぢやなあ! 彼方では……

ティルティル。 ここは好い所?……

祖父。 あい、悪い所でない、悪い所でない。唯煙草一服喫め
ると好いんだが……

ティルティル。 煙草を喫んぢや可けないの?……

祖父。 いや、それは好いのぢや、だが私は煙管を折つてしま
うた。……

祖母。 あい、あい、唯お前方がちよいちよい來て會つて來れ
ば、ほんとに好いんだが。……覚えておゐでか、ティル
ティル?……私がお前に最後に美味い林檎菓子^{おいしい}を焼いて上
げた時のことを。……お前は餘り^{かんま}食べて心持ちが悪うなつ
たがの。……

ティルティル。 けれども僕は去年から林檎菓子は一つも食べて
ゐないよ。……今年は林檎が一つも出来なかつた。

形で、Can を用ひず Could を用ひてゐる。 Subjunctive Past. (接続法
過去) 次の all would...if only you would...の形も同じ。

tart 第一幕初めの註参照。

a lot of...第一幕註参照。

THE BLUE BIRD

Granny Tyl. Don't talk nonsense. . . . Here, we have them always. . . .

Tyltyl. That's different. . . .

Granny Tyl. What? That's different? . . . Why, nothing's different when we're able to kiss each other. . . .

Tyltyl. (*looking first at his Grandmother and then at his Grandfather*) You haven't changed, grandad, not a bit, not a bit. . . . And granny hasn't changed a bit either. . . . But you're better-looking. . . .

Gaffer Tyl. Well, we feel all right. . . . We have stopped growing older. . . . But you, how tall you're growing! . . . Yes, you're shooting up finely. . . . Look, over there, on the door, is the mark of the last time. . . . That was on All-hallows. . . . Now then, stand up straight. . . . (*Tyltyl stands up against the door.*) Four fingers taller! . . . That's immense. . . .! (*Mytyl also stands up against the door.*) And Mytyl, four and a half! . . .

such...that あの様に...したので...と that 以下を結果に見た方が好い。

THE BLUE BIRD

祖母。馬鹿をお言ひでない。此處に何時だつてあるよ。

ティルティル。そりや異ふよ。……

祖母。何が? 異つとるとな? ……何の、斯うしてお互にキスが出来るとに、何も異つて居りはせん。……

ティルティル。(先づ祖母の顔を見、次に祖父の顔を見て)ぢいちゃんちやつとも變らないね、ちつとも。……それからばあちゃんちやつとも變らないよ。それに前より好い顔をしてゐるよ。……

祖父。うむ、私等は大へん具合が好いのぢや。私等はもう年を取らなくなつた。……だが、お前は、大さう丈が高うなつたのう! ……あゝ、ほんによう背丈が伸びた。……ご覽彼處に、戸の上に、この前付けた印しがある。……あれは萬聖節の時ぢやつた。……さあ、眞直に立つてご覽。……(ティルティル立つて戸に凭掛る)小指四つ丈高うなつた! ……こりやえらい! ……(ミティルも立つて戸に凭掛る)それからミティルは、指四つと半分ぢや! ……さてさて、丈許りよ

you made yourself ill = you got ill.

hasn't changed a bit either = has neither changed a bit.. も少しも變つてゐない。

better-looking は well-looking の比較級で、以前より顔が美しい。

shooting up 背丈けが伸びる。

against the door 戸に凭れ掛つて。

THE BLUE BIRD

Aha, ill weeds grow apace! . . . How they've grown, oh, how they've grown! . . .

Tyltyl. (*looking around him with delight.*) Nothing is changed, everything is in its old place! . . . Only everything is prettier! . . . There is the clock with the big hand which I broke the point off. . . .

Gaffer Tyl. And here is the soup-tureen you chipped a corner off. . . .

Tyltyl. And here is the hole which I made in the door, the day I found the gimlet. . . .

Gaffer Tyl. Yes, you've done some damage in your time! . . . And here is the plum-tree in which you were so fond of climbing, when I wasn't looking. . . . It still has its fine red plums. . . .

Tyltyl. But they are finer than ever! . . .

Mytyl. And here is the old blackbird! . . . Does he still sing? . . .

(*The blackbird wakes and begins to sing*)

Ill weeds grow apace! 「悪草は早く伸びる」といふ諺であるが、此處では「背ばかり高くなつて」のつもりで言つたのである。

apace=swiftly, quickly.

THE BLUE BIRD

う伸びるのう! . . . 大きくなつたものぢや、ほんに、大きくなつたものぢや! . . .

ティルティル。(嬉しさうに四邊を見廻して)何も變つてゐないみんな元の通りだ! . . . 唯何でも前より綺麗になつてゐるばかりだ! . . . あの僕が先端を折つた大きな針のある時計もある。 . . .

祖父。お前が隅を缺かしたスープ皿もあるぞ。 . . .

ティルティル。それから僕が錐を見つけた日に戸に開けた孔もある。 . . .

祖父。あと、お前はあの頃よく物を毀したものぢや! . . . それから私が見て居らぬとお前が喜んでよく登つた梅の木もあるぞ。 . . . あれはまだあんなに綺麗な赤い實になる。 . . .

ティルティル。けれどあの實は前よりもつと綺麗だよ! . . .

ミティル。それからあの先にゐた轆がゐるわ! . . . あれはやつぱり歌を歌つて? . . .

(轆は眼を覺まして聲の限り歌ひ出す。)

is in its old place 元の通りになつてゐる。

the point 此處では時計の針の先。

soup-tureen 深目になつたスープ皿。單に tureen と云ふ。
chipped...off 缺き取つた。

at the top of his voice 聲の限り。

at the top of his voice.)

Granny Tyl. You see. . . . As soon as one thinks of him. . . .

Tyltyl. (*observing with amazement that the blackbird is quite blue*). But he's blue! . . . Why, that's the bird, the Blue Bird which I am to take back to the Fairy. . . . And you never told us that you had him here!

. Oh, he's blue, blue, blue as a blue glass marble! . . . (*Entreatingly*) Granddad, granny, will you give him to me? . . .

Gaffer Tyl. Yes, perhaps, perhaps. . . . What do you think, granny? . . .

Granny Tyl. Certainly, certainly. . . . What use is he to us? . . . He does nothing but sleep. . . . We never hear him sing. . . .

Tyltyl. I will put him in my cage. . . . I say, where is my cage? . . . Oh, I know, I left it behind the big tree. . . . (*He runs to the tree, fetches the cage and puts the blackbird into it.*) So, really, you've really given him

I am to take back 私が連れて戻る筈の、私が持つて歸らなけれ

祖母。 それ。 . . . ^{あれ}彼鳥のことを思ふと直ぐあれだよ。 . . .

ティルティル。(鶴が眞青な色をしてゐるのを見て驚いて)

だが、あれは青いぜ! . . . さうだ、あれがあの青い鳥だ、妖女の所に持つて歸らなければならない青い鳥だ。 . . . それなのに此處にこの鳥がゐることを言つてくれないんだもの! . . . ああ、青いよ、青いよ、青い硝子玉のやうに青いよ! . . . (^{ちが}強請るやうに)ぢいちゃん、ばあちゃん、あれ僕にくれる? . . .

祖父。 ああ、多分よからう、多分。 . . . どうだな、^{ばあ}祖母さん? . . .

祖母。 いいとも、いいとも。 . . . ^{かしら}私等には用のないものぢや。 . . . ^{あれ}彼鳥は唯眠つてばかりゐるので。 . . . 歌ふのを聞くことがない。 . . .

ティルティル。 僕は此鳥を籠に入れてやらう。 . . . おい、僕の籠は何處だい? . . . あゝ、さうさう、あの大きな樹の蔭に置いて來ちやつた。 . . . (^{彼は樹の所に走つて行き、籠を取つて来て、鶴をその中に入れる。})ぢや、ほんとに、こればならぬ。

glass marble 硝子玉。 **marble** は大理石、土、硝子などの玉で、子供の玩具である。

does nothing but sleep の **but** は **except**. 眠る外何もせぬ。唯眠るばかり。

THE BLUE BIRD

to me? . . . How pleased the Fairy will be! . . . And Light too! . . .

Gaffer Tyl. Mind you, I won't answer for the bird. . . I'm afraid that he will never get used again to the restless life up there and that he'll come back here by the first wind that blows this way. . . . However, we shall see. . . . Leave him there, for the present, and come and look at the cow.

. . .

Tyltyl. (*noticing the hives*) And how are the bees getting on? . . .

Gaffer Tyl. Oh, pretty well. . . . They are no longer alive, as you call it up there; but they work hard. . . .

Tyltyl. (*going up to the hives*) Oh, Yes! . . . I can smell the honey! . . . How heavy the hives must be! . . . All the flowers are so beautiful! . . . And my little dead sisters, are they here too? . . .

I won't answer for the bird. 私はその鳥のことは請合はぬ。それで好いかどうか知らぬぞ。
got used to...に慣れる。

THE BLUE BIRD

僕にくれたんだね? . . . 妖女がどんなに喜ぶだらう! . . .
それから「光」も! . . .

祖父。これ、その鳥で好いかどうか知らんぞ。 . . . とも^れ其鳥は彼方^{あつち}の忙しい世の中に復慣れるやうにはなるまい、そして此方^{こつち}へ吹く風さへあれば直ぐそれに乗つて此處に戻つて来るぢやらうよ。 . . . だが、まあ少時^{しばらく}それはさうして置け、そして此處に来てこの牛をこ覽。 . . .

ティルティル。(蜜蜂の巣を見附けて)それからこの蜂はどんなにしてゐるの? . . .

祖父。あゝ、達者にしてゐるよ。 . . . お前達^{あつち}が彼方^{あつち}で言ふ言葉では、あれはもう生きてはゐないのぢや。だが、よう働くぞ。 . . .

ティルティル。(巣の所まで行つて)あゝ、さうだね! . . . 僕には蜜の香が解る! . . . 巣はきつと随分重いよ! . . . どの花もみんな綺麗だね! . . . そして家の小さい死んだ妹達も、此處に居るの? . . .

restless 落着きのない、忙しい。
by the first wind that blows this way 此方に吹く風があればその一番初めの風に連れて。
for the present 第一場終りの註参照。
are getting on 遣つて行く。例:—He is getting on very well. 彼は大へんよく遣つてゐる。
as you call it up there お前等が彼方で言ふ言葉で言へば。例:—I saw the beau, as you call him. (僕は君の所謂伊達者に會つた)。

Mytyl. And where are my three little brothers who were buried?

(At these words, seven little Children, of different sizes, like a set of Pan's pipes come out of the cottage, one by one.)

Granny Tyl. Here they are, here they are! . . . As soon as you think of them, as soon as you speak of them, they are there, the darlings! . . .

(Tyltyl and Mytyl run to meet the Children. The hustle and hug one another and dance and whirl about and utter screams of joy.)

Tyltyl. Hullo, Pierrot! . . . *(They clutch each other by the hair.)* Ah, so we're going to fight again, as in the old days. . . . And Robert! . . . I say, Jean, what's become of your top? . . . Madeleine and Pierette and Pauline! . . . And here's Riquette! . . .

Mytyl. Oh, Riquette, Riquette! . . . She's still

Pan's pipes. Pan は希臘神話にある牧場、牧羊、森林の神で、上

ミティル。それからお墓に埋められた三人の弟達は何處に居て? . . .

(此の言葉で、一組のパン笛のやうな、それぞれ體の大きさの異つた七人の小さな子供達が一人々々に小舎から出て来る。)
祖母。それ来たよ、来たよ! . . . お前方がこの子達の事を思ふと直ぐに、この子達の事を話すと直ぐに、斯うして出て来る、可愛いちやないかの! . . .

(ティルティルとミティルは走つて行つて子達に會ふ。彼等は互に押し合つたり抱き合つたり、踊つたり、クルクル廻つたりして、嬉しさうにキヤッキヤ、聲を擧げる。)

ティルティル。やあ、ピエロー! . . . *(二人は髪の毛を掴み合ふ。)* あゝ、これぢや復、元のやうに喧嘩だ。 . . . それからロベールだね! . . . おい、ジュアン、お前の獨樂はどうしたい? . . . マドレーヌにピエレットにポーリンも! . . . それからリクエットも居るな! . . .

ミティル。あゝ、リクエット、リクエット! . . . あの兒はまだ

半身は人間、下半身は山羊の姿になつてゐる。非常に音楽を好む神だといふ。 Pan's pipes は種々の長さの葦の笛を集めて作つた樂器で、Pan の神が發明したものと傳へられてゐる。此處では並んだ子供等の背丈の異つた狀を之に譬へたのである。

the darlings は可愛い者といふ名詞であるが、意味を生かして上の如く譯した。

hustle 押し分ける。

hug 抱き寄せる。

crawling on all fours! .

Granny Tyl. Yes, she has stopped growing.

Tyltyl. (*noticing the little Dog yelping around them*) There's Kiki, whose tail I cut off with Pauline's scissors. . . . He hasn't changed either. . . .

Gaffer Tyl. (*sententiously*) No, nothing changes here. . . .

Tyltyl. And Pauline still has a pimple on her nose. . . .

Granny Tyl. Yes, it won't go away; there's nothing to be done for it. . . .

Tyltyl. Oh, how well they look, how fat and glossy they are! . . . What jolly cheeks they have! . . . They look well fed. . . .

Granny Tyl. They have been much better since they ceased living. . . . There's nothing more to fear, nobody is ever ill, one has no anxiety. . . .

(*The clock inside the cottage strikes eight.*)

on all fours 四つん這ひで。
hasn't changed either 前出。
sententiously 格言でも言ふやうに。
pimple 吹出物、おでき。

這ひ々々してゐるは!

祖母。 あゝ、^{あの}彼女は大きくならないんだよ。

ティルティル。(小さな犬が周圍にキャンキャン吠えてゐるのを見付けて) キキがゐる、僕が尻尾をポーリンの鋏で切つてやつた。 彼犬も變らないなあ。

祖父。(格言めいた言方で) あゝ、此處では何も變らないのぢや。

ティルティル。 そしてポーリンはやつぱり鼻におできがあるね。

祖母。 あゝ、あれは無くならないよ。 どうにも仕様がなないのでう。

ティルティル。 あゝ、みんな丈夫さうだね、肥つてつやつやしてゐる! 氣持の好い頬べたをしてゐるなあ! 美味いものを食べてるやうだ。

祖母。 彼子達は生きてゐなくなつてからずつと丈夫になつたよ。 もう何も氣遣ふことはなし、誰も病氣はせず、心配もないんだよ。

(小舎の中の時計が八時を打つ。)

won't go away 失くならないだらう。
glossy つやつやしてゐる。
look well fed 美味い物を食べてゐるやうに見える。
ceased living 死んだことであるが、死ぬといふ言葉を使はぬ爲め斯く言つたのである。

THE BLUE BIRD

Granny Tyl. (*amazed*) What's that? . . .

Gaffer Tyl. I don't know, I'm sure. . . . It must be the clock. . . .

Granny Tyl. It can't be. . . . It never strikes. . . .

Gaffer Tyl. Because we no longer think of the time. . . . Was any one thinking of the time? . . .

Tyltyl. Yes, I was. . . . What is the time? . . .

Gaffer Tyl. I'm sure I can't tell. . . . I've forgotten how. . . . It struck eight times, so I suppose it's what they call eight o'clock up there.

Tyltyl. Light expects me at a quarter to nine. . . . It's because of the Fairy. . . . It's extremely important. . . . I'm off! . . .

Granny Tyl. Don't leave us like that, just as supper's ready! . . . Quick, quick, let's lay the table outside. . . . I've got some capital cabbage-soup and a beautiful plum-tart. . . .

I've forgotten how の次に *to tell* を補つて見る、時間の言ひ方

THE BLUE BIRD

祖母。(喫驚して)何ぢやあれは?

祖父。ほんに、私にも分らんが。 あれは時計に違ない。 . . .

祖母。そんな筈はありません。 あれは決して打つことは
ありません。

祖父。それは私等が時といふものをもう考へないからぢや。
. 誰か時のことを考へてゐた者がゐたかの?

ティルティル。あゝ、僕考へてたよ。 今何時?

祖父。私にはよくは分らん。 私は時間の見方を忘れてしま
うた。 八つ打つたのでのう、すると彼方で八時と云
ふものぢやらう。

ティルティル。九時十五分前には「光」が僕を待つてゐるのだ。
. それは妖女の爲めなんだ。 非常に大切な事だ。
. さあ僕歸らう!

祖母。そんなにして行かないでも好い、もう晩御飯も出来て
ゐるんだから! さあ、さあ、外に膳立てをしよう 今
日はそりや美味いキャベツのスープと綺麗な梅菓子がある

(即ち見方) を忘れてしまった。

what they call 彼方の人々の云ふ、所謂。

I'm off! 「止める」「去る」の意。

like that そんなに。

lay the table outside (家の) 外に食卓を据ゑる、外に膳立てをする。

capital = first class, excellent 上等な、従つて非常に美味しい。

THE BLUE BIRD

(They get out the table, dishes, plates, etc., and lay for supper outside the door, all helping.)

Tyltyl. Well, as I've got the Blue Bird. . . .
And then it's so long since I tasted cabbage-soup. . . . Ever since I've been travelling . . . They don't have it at the hotels. . .

Granny Tyl. There! . . . That didn't take long! . . . Sit down, children. . . Don't let us lose time, if you're in a hurry. . .

(They have lit the lamp and served the soup. The Grandparents and the Children sit down round the table, jostling and elbowing one another and laughing and screaming with pleasure.)

Tyltyl. *(eating like a glutton)* How good it is! . . . Oh, how good it is! . . . I want some more! More! . . . *(He brandishes his wooden spoon and noisily hits his plate with it.)*

Gaffer Tyl. Come, come, a little more quiet.

all helping 皆で手を貸して。

THE BLUE BIRD

んだよ。……(彼等は一同で食卓や種々な皿や他のものを持ち出して扉の外に晚餐の仕度をする。)

ティルティル。 さあ、僕は青い鳥を貰へたんだから。……それにキャベツのスープなんか長いこと食べてゐないんだ。……あれから旅ばかりしてゐたし。……^{カヂヤ}旅宿なんかではあんなもの食べさせやしない。……

祖母。 それ!……直ぐだつたらう!……お坐り、子供達。……急ぐのなら、早くしないと可けないよ。……

(彼等はランプを^つ点けスープを並べてしまふ。祖父祖母と子供達は食卓を圍んで坐り、互に押し合つたり、肘で突合つたり、嬉しがつて笑つたり、キャツキャツと言つたりする。)

ティルティル。 (大食家のやうに食べながら) 美味いなあ!……ほんとに、美味いなあ!……も少しおくれ!……もつと!……(彼は木の匙を振り廻し、高い音を立て、それで皿を打つ。)

祖父。 さあ、さあ、も少し静かにおし。……お前はやつぱり

Ever since あれから(後)は。 since は副詞。

That didn't take long! 長く掛らなかつた、それ直ぐだつたらう。

lose time ぐづぐづして時を失す。

in a hurry 急いで。

served 食卓に出した。

jostling 肩で押し合つて。

THE BLUE BIRD

... You're just as ill-behaved as ever;
and you'll break your plate. . . .

Tyltyl. (*half-raising himself on his stool*) I
want more, more! . . . (*He seizes the
tureen, drags it toward him and upsets it and
the soup, which trickles over the table and
down over their knees and scalds them. Yells
and screams of pain.*)

Granny Tyl. There! . . . I told you so! . . .

Gaffer Tyl. (*giving Tyltyl a loud box on the
ear*) That's one for you! . . .

Tyltyl. (*staggered for a moment, next puts
his hand to his cheek with an expression
of rapture*) Oh, that's just like the slaps you
used to give me when you were alive! . . .
Grandad, how nice it was and how good it
makes one feel! . . . I must give you a
kiss! . . .

Gaffer Tyl. Very well; there's more where
that came from, if you like them.
(*The clock strikes half-past eight*)

as...as ever やはり、相變らず。
trickles over the table 食卓を流れ落ちる。

THE BLUE BIRD

前のやうに行儀が悪いぞ。そんな事すると皿を毀してしま
ふが。……

ティルティル。(腰掛の上に浮腰になつて)もつとおくれよ、も
つと!……(彼はスープ皿を取つて、それを自分の方に引寄
せ、皿とスープも顛覆してしまふ、スープはボタボタと食
卓から垂れて彼等の膝の上に流れ、膝を湯傷させる。熱い
といふ喚き叫ぶ聲。)

祖母。それ!……言はんことぢやない!……

祖父。(ティルティルの耳をピシヤリと打つて)どうだ!……

ティルティル。(少時よろよろして、それから恍惚とした顔付で
頬に手を當てる。)あゝ、ぢいちゃん生きてゐた時僕を始終
打つた通りだ!……ぢいちゃん、随分ひどく當つたよ、そ
して何だか好い気持ちになるよ!……僕はぢいちゃんにキ
スをしなくちや!……

祖父。よし、よし。お前がよけりや、まだ打つてやるぞ。……
(時計が八時半を打つ。)

down over their knees 落ちて膝一ぱいに擴がる状。

scalds (特に熱湯で)「やけど」さす。

I told you so! さう言つて置いた、言はぬことぢやない!

box 拳で打つこと。

That's one for you! それがお前に遣るものだ、即ち拳で打つて
「どうだ」と言ふ言方。

rapture 第一幕初の註参照。

you used to give=you were wont to give 何時もくれた。

there's more where that came from that は前の box を指し
拳固の出て来たもとはまだそれが幾らもあるといふ事で、即ちまだ幾
らでも打つてやる。

Tyltyl. (*starting up*) Half-past eight . . . (*He flings down his spoon.*) Mytyl, we've only just got time! . . .

Granny Tyl. Oh, I say! . . . Just a few minutes more! . . . Your house isn't on fire! . . . We see you so seldom.

Tyltyl. No, we can't possibly. . . . Light is so kind. . . . And I promised her. . . . Come, Mytyl, come! . . .

Gaffer Tyl. Goodness gracious, how tiresome the Living are with all their business and excitement! . . .

Tyltyl. (*taking his cage and hurriedly kissing everybody all round*) Good-bye, grandad. . . . Good-bye, granny. . . . Good-bye, brothers and sisters, Pierrot, Robert, Pauline, Madeleine, Riquette and you, too, Kiki. . . . I feel we mustn't stay. . . . Don't cry, granny; we will come back often. . . .

Granny Tyl. Come back every day! . . .

we've only just got time! 丁度間にあふ

have...got=have

so seldom 前出。

ティルティル。(驚いて立ち上りながら)八時半だ!.....(彼は匙を投げ出す。)ミティル。丁度間にあふよ!.....

祖母。あゝ、これ.....もう少し好いぢやないかの!.....家が火事だといふのぢやなし!.....お前方には滅多に會へぬのぢやがのう。.....

ティルティル。いゝや、もう可けないだらう。.....「光」は大へん深切なんだよ。.....そして僕約束しちやつた。.....さあ、ミティル、さあ!.....

祖父。はてさて、生きてゐる者は用ぢやの何のと騒ぎ立て、ほんに煩いものぢやのう!.....

ティルティル。(籠を取り、周囲の者皆に慌だしくキスしながら)左様なら、ぢいちゃん。.....左様なら、ばあちゃん。.....左様なら、みんな、ピエローに、ロベールに、ポーリンに、マドレーヌに、リクエツト、それからキキ、お前にも。.....僕達はもう此處に居られないやうだ。.....泣くんぢやないよ、ばあちゃん。復度々来るからね。.....

祖母。毎日お出で!.....

we can't possibly の次に stay here とか have time とかを補つて見る。

Goodness gracious 第一幕終の註参照。

with all their business and excitement 用だの騒ぎ立てたので。

THE BLUE BIRD

Tyltyl. Yes, yes; we will come back as often as we can. . . .

Granny Tyl. It's our only pleasure and it's such a treat for us when your thoughts visit us! . . .

Gaffer Tyl. We have no other amusements. . . .

Tyltyl. Quick, quick! . . . My cage! . . . My bird! . . .

Gaffer Tyl. (*handing him the cage*) Here they are! . . . You know, I don't warrant him; and if he's not the right colour. . . .

Tyltyl. Good-bye! Good-bye! . . .

The Brothers and Sisters Tyl. Good-bye, Tyltyl! . . . Good-bye, Mytyl! . . . Remember the barley-sugar! . . . Good-bye! . . . Come again! . . . Come again! . . .

(They all wave their handkerchiefs while Tyltyl and Mytyl slowly move away. But already, during the last sentences, the fog of the beginning of the scene

treat 御馳走、嬉しいこと、有難いことなど。

THE BLUE BIRD

ティルティル。 あゝ、あゝ、出来るだけ度々来ようよ。……

祖母。 お前方が私等^{わしら}のことを思ひ出してくれると、それが私等の唯一つの樂みで、何より有難いことなのだよ!……

祖父。 他に私等^{わしら}には樂みはないのぢや。……

ティルティル。 早く、早く!……僕の籠を!……僕の鳥を!……

祖父。 (彼に籠を渡しながら) さあもつてお出で!……好いか、私はそれでよいかどうか請合はんぞ。そして其鳥^{わが}がほんとの色でなければ……

ティルティル。 左様なら! 左様なら!……

弟妹達。 左様なら、ティルティル!……左様なら、ミティル!……
……飴扭を忘れないでね!……左様なら、復来てよ!……
復来てよ!……

(一同半巾^{はんけん}を振る、其間にティルティルとミティルは除々に去る。併し最後の言葉の交されてゐる間に、既に暮の初めの時の霧が次第に降り掛けた、そこで最後には一同霧の中に

warrant = answer for 請合ふ、保證する。

he's = he has.

THE BLUE BIRD

has been gradually re-forming, so that, at the end, all has disappeared in the mist and, at the fall of the curtain, Tyltyl and Mytyl are again alone visible under the big oak.)

Tyltyl. It's this way, Mytyl. .

Mytyl. Where is Light? . . .

Tyltyl. I don't know. . . . (*Looking at the bird in the cage.*) But the bird is no longer blue! . . . He has turned black! . . .

Mytyl. Give me your hand, little brother. . . .
I feel so frightened and so cold. . . .

CURTAIN

re-forming 元の通りになつて。

THE BLUE BIRD

隠れてしまつた、そして幕が降りると、ティルティルとミティルだけが再び大きな樫の樹の下にゐるのが見える。

ティルティル。此方だよ、ミティル。……

ミティル。「光」は何處に居るの?……

ティルティル。知らないよ。…… (籠の鳥を見て) だけど鳥はもう青くないよ!……黒い色になつてしまつた!……

ミティル。手を引いて頂戴よ!……見さん。……私何だか怖くて寒いわ。……

幕

turned black 黒い色に變つた、黒くなつた。

ACT III.

The Palace of Night.

A large and wonderful hall of an austere, rigid, metallic and sepulchral magnificence, giving the impression of a Greek temple with columns, architraves, flagstones and ornaments of black marble, gold and ebony. The hall is trapezium-shaped. Basalt steps, occupying almost the entire width, divide it into three successive stages, which rise gradually toward the back. On the right and left, between the columns, are doors sombre bronze. At the back, a monumental door of brass. The palace is lit only by a vague light that seems to emanate mainly from the brilliancy of the marble and the ebony. At the rise of the curtain, Night, in the form of a very old woman, clad in

austere=stern 厳めしい。

rigid=not flexible, stiff, harsh きつい、硬い。

metallic は metal (金属) の性質を帯びてゐるといふ形容詞で、metallic lustre と云へば金属のやうな光を云ひ、metallic sound と云へばカンカンいふやうな音を云ふ事になる。此處ではその外観の印象を

第三幕

「夜」の宮殿

厳めしく、硬く、金属のやうな、墓場のやうに陰氣な莊麗さを持つた大きな喫驚するやうな廣間で、それを見ると何となく圓柱や軒縁や舗石や、黒大理石、黄金、黒檀などの裝飾のある希臘の殿堂を思はせる。廣間は不等四邊形をしてゐる。殆ど廣間の幅全體に亘つてゐる玄武岩の階段は廣間を三つの續いた階段に仕切つてゐて、その階段が次第に奥の方に高くなつてゐる。左右の圓柱と圓柱の間には黒ずんだ青銅の扉がある。脊面には記念碑の如く立つた眞鍮の扉。宮殿は唯ボーとした光に照されてゐるばかり、その光は主として大理石や黒檀の光輝から出て來るやうに思はれる。幕が上ると「夜」は言つたものである。

architraves は columns (圓柱) の上の abacuses (臺板) に付いた梁で、軒縁などに云ふ。

flagstones. flags と云ふ、舗石に用ふる平たい石で、又舗石 (pavement) 其物をも云ふ。此處では後者。

trapezium 各邊不等の四邊形。

monumental は monument (紀念碑) のやうなで、此處では扉が切立つたやうに立つてゐる状。

clad=clothed.

THE BLUE BIRD

long, black garments, is seated on the steps of the second stage, between two children, of whom one, almost naked, like Cupid, is smiling in a deep sleep, while the other is standing up, motionless and veiled from head to foot.

Enter from the right, in the foreground, the Cat.

Night. Who goes there?

The Cat. (*sinking heavily upon the marble steps*) It is I, Mother Night. . . . I am worn out. . . .

Night. What's the matter, child? . . . You look pale and thin and you are splashed with mud to your very whiskers. . . . Have you been fighting on the tiles again, in the snow and rain?

The Cat. It has nothing to do with the tiles! . . . It's our secret that's at stake! . . . It's the beginning of the end! . . . I have managed to escape for a moment to warn

Cupid. ローマの神話に於ける愛の神で、Venus の兒である。常

THE BLUE BIRD

長い黒い衣服を着た非常な老女の姿で二人の子供の間に二つ目の階段の上に座つてゐる。子供の一は愛の神キュービッドのやうに殆んど全裸で深い眠の中に笑つてゐる、もう一人は全身ヴェールを纏うてチッと動かずに立つてゐる。

右手から正面に「猫」登場。

夜。 其處へ行くのは誰ぢや?

猫。 (大理石の階段の上にベタリとなつて)私です、「夜」のお母様。……私はすっかり弱つてしまひました。……

夜。 どうしたのぢや、これ?……お前は眞蒼でひよろひよろした様子で、鬚にまで泥をはねかしてゐるよ。……復雪や雨の中で床石の上で喧嘩してゐたのぢやな?……

猫。 床石なんかどうでも好いのです!……私達の秘密に係ることなんです!……もう最後が近づいて來てゐるんです!

に裸體で弓矢を携へてゐる狀に描かれてゐる。

your very whiskers の very は單に your whiskers を強めた言方。whiskers は第一幕註参照。

has nothing to do with...に用はない、...などどうでも好い。

It's our secret that's at stake! 我々の秘密に係る大事。例: — Your honour is at stake. (君の名譽に係る事だ)。

manage to...どうにか斯うにか...する。

THE BLUE BIRD

you; but I greatly fear that there is nothing to be done. . .

Night. Why? . . . What has happened? . . .

The Cat. I have told you of little Tytyl, the woodcutter's son, and of the magic diamond. . . . Well, he is coming here to demand the Blue Bird of you. . .

Night. He hasn't got it yet. . . .

The Cat. He will have it soon, unless we perform some miracle. . . This is how the matter stands: Light, who is guiding him and betraying us all, for she has placed herself entirely on Man's side, Light has learned that the Blue Bird, the real one, the only one that can live in the light of day, is hidden here, among the blue birds of the dreams that live on the rays of the moon and die as soon as they set eyes on the sun. . . . She knows that she is forbidden to cross the threshold of your palace, but

demand...of you. あなたに...をくれと求める。

hasn't got=has not got.

placed herself...on Man's side 「人間」の方に味方した。

THE BLUE BIRD

私は一寸貴女にお知らせしようと思つてやつと逃げて参りました、併しとてももうどうにもならないかと思ひます。

夜 どうして?.....何事が起つたといふのぢや?.....

猫。あの樵夫の息子のテイルテイルの事をお話ししましたらう、それからあの魔法のダイヤモンドの事も。...え、あの兒が貴女に青い鳥を貰ひにやつて來るところなんです。.....

夜。まだ彼れは取りはしないよ。.....

猫。私達が何か奇蹟でもやらなければ、直きに取りますよ。まあ、斯ういふわけです、あの兒の案内をして私達一同を裏切つてゐる「光」が、——全く彼女は人間の味方になつてゐるものですから——あの「光」が、ほんとの、晝間の光の中で生きてゐられるといふ一羽しかゐない青い鳥が月の光を食べては生きてゐても日に眼を向けると直ぐに死んでしまふ夢の青い鳥の中に交つて、此處に隠れてゐるといふ事を知つたのです。.....彼女は貴女の宮殿の敷居をまたぐことは許されないことを知つてゐます、けれども子供達をよこさうとしてゐます。そして貴女は、「人間に」貴

live on the rays of the moon 月の光を食べて生きてゐる。例:—The Japanese live on rice. 日本人は米を食うて生きてゐる。

as soon as...第一幕註参照。

set eyes on..., ...に目を付ける、目を向ける。

prevent Man from opening the doors 「人間」に戸を開けさせないやうにする。

she is sending the children; and, as you cannot prevent Man from opening the doors of your secrets, I do not know how all this will end. . . . In any case, if, unfortunately, they should lay their hands on the real Blue Bird, there would be nothing for us but to disappear.

Night. Oh dear, oh dear! . . . What times we live in! . . . I never have a moment's peace. . . . I cannot understand Man, these last few years. . . . What is he aiming at? . . . Must he absolutely know everything? . . . Already he has captured a third of my Mysteries, all my Terrors are afraid and dare not leave the house, my Ghosts have taken flight, the greater part of my Sicknesses are ill. . . .

The Cat. I know, Mother Night, I know, the

how all this will end この事がどんな結果になるか、この先どんな事になるか。

In any case 兎に角。

if, . . . , they should lay their hands on . . . 若しひよつと彼等が . . . に手を掛けでもすれば。 should (は if の後に來て「萬一」「ひよつと」の意を有す。

but to disappear = except to disappear. 消えて無くなるより他に

女の秘密の扉を開けさせないやうにすることは出来ないのですから、これが此の先どんな事になるか分かりません。 . . . 兎に角、若し不幸にも、ひよつと子供達が、ほんとの青い鳥に手を掛けでもすれば、私達は消えて失くなる外ないでせうよ。 . . .

夜。 おや、おや! . . . 何といふ世になつたものだらう! . . .

私は一寸も心の安まる暇はありやしない。 . . . 私には、この二三年、「人間」といふものが分らなくなつた。 . . . 何を狙つてゐるのだらう? . . . 「人間」は何處までも何もかも知らなければならぬのかしら? . . . これ迄にもう私の「不思議」の三分の一は取つて行つてしまつた、私の「恐れ」共は皆怖がつて家を出ようとしな、私の「幽霊」共は逃げ出してしまひ、「病氣」共は大方弱つてしまつてゐる。

猫。 さうですよ、「夜」のお母さん、さうですよ、六ヶしい世

Oh dear 前出。

What times we live in! 何といふ世の中に我々はゐることだらう、何といふ世になつたものだらう。 times (は複數形で、「世」、「時世」の意。

a third 三分の一。

dare not leave the house 家を出る勇氣がない、出ようとしな。 dare (は肯定の時には dare to leave the house (思ひ切つて家を出る) と to を付けた Infinitive (不定法) の形に續く。

have taken flight 鳥が飛立つ如く去つてしまつた。 即ち逃げてしまつた。

the greater part 大部分、大方。

times are hard and we are almost alone in our struggle against Man. . . . But I hear them coming. . . . I see only one way: as they are children, we must give them such a fright that they will not dare to persist or to open the great door at the back, behind which they would find the Birds of the Moon. . . . The secrets of the other caverns will be enough to distract their attention and terrify them. . . .

Night. (*Listening to a sound outside*) What do I hear? . . . Are there many of them? . . .

The Cat. It is nothing; it is our friends, Bread and Sugar; Water is not very well and Fire could not come, because he is related to Light. . . . The Dog is the only one who is not on our side; but it is never possible to keep him away. . . .

(*Enter timidly, on the right, in the foreground, Tyltyl, Mytyl, Bread, Sugar and the Dog.*)

The Cat. (*rushing up to Tyltyl*) This way,

the times are hard 世が六ヶしくなつた。
give them such a fright that they will not dare to persist

の中になつたのです、そして殆ど私達だけで「人間」と戦ふのです。……だが、それ子供達がやつてくるのが聞えますよ。……遣方は一つしかありません、みんな子供なんですから、一つ喫驚させてやつて強情を張らせないやうにするか、後ろの大扉を開けさせないやうにしなければ可けません、あの扉の後ろに行つて「月の鳥」を見付けるでせうよ。他の洞窟の秘密は見た、けでも彼兒達はドギマギしてしまつて怖ろしくなるでせう。……

夜。(外の音に聴耳立てながら)あの音は何だらう?……大勢ゐるやうかの?……

猫。……何でもありません。友達の「麵麴」と「砂糖」ですよ。「水」は具合が悪いし、「火」は「光」と親類なので來れなかつたのです。……私達の味方にならないのは「犬」だけです、けれど彼れを來させないやうにはどうしても出来ません。(右手から正面にティルティル、ミティル、「麵麴」、「砂糖」及び「犬」登場。)

猫。(ティルティルの所に飛んで行つて)さあ此方へ、坊ちやん

彼等を喫驚させて強情を張らせないやうにする。ntはwillに付く。
distract their attention = divert or draw away their attention 注意力を散漫にさせる、即ちドギマギさせる。

keep him away 彼を近づけさせぬ、來させぬ。

little master, this way. . . . I have told Night, who is delighted to see you. . . . You must forgive her, she is a little indisposed; that is why she was not able to come to meet you. . . .

Tyltyl. Good-day, Mrs. Night. . . .

Night. (*in an offended voice*) Good-day? . . . I am not used to that. . . . You might say, Good-night, or, at least, Good-evening. . . .

Tyltyl. (*mortified*) I beg your pardon, ma'am. . . . I did not know. . . . (*Pointing to the two Children.*) Are those your two little boys? . . . They are very nice. . . .

Night. This is Sleep. . . .

Tyltyl. Why is he so fat? . . .

Night. That is because he sleeps well. . .

Tyltyl. And the other, hiding himself? . . . Why does he veil his face? . . . Is he ill? . . . What is his name?

Night. That is Sleep's sister. . . . It is better

a little indisposed 少し気分が悪い。

I am not used to that. さういふ事(挨拶)には馴れて居らぬ。さういふ事は聞き付けて居らぬ。

此方へ。……「夜」に話しましたところが、「夜」は坊ちゃんにお會ひするを非常に喜んで居ります。……唯お許し願はなければなりません、彼女は少し気分が悪うございまして、それでお迎へに出られなかつたのでございます。……

ティルティル。今日は、「夜」のおばさん。……

夜。(怒つた聲で)今日はだと?……私はそんな事は聞き付けてゐないよ。夜分に出ましてとか、せめて、今晚はとか言へさうなものなのに。……

ティルティル。……(面目なくなつて)御免下さい、奥さん。……僕は知らなかつたんですから。……(二人の子供を指して)あの二人は貴女の御子さんなんですか?……大へん綺麗ですね。……

夜。此方のは「眠」だよ、……

ティルティル。どうしてあんなに肥つてゐるの?

夜。よく眠るからさ。

ティルティル。それからあの隠れてゐるのは?……どうして顔にヴェールを掛けるの?……病氣?……何ていふ名?……

夜。あれは「眠」の妹さ。……名前は言はない方が好いよ。

You might say...=You could easily say...と言へさうなものだけに。

at least 少くとも、せめては。

mortified=feeling humiliated 面目なくなつて。

THE BLUE BIRD

not to mention her name. . . .

Tyltyl. Why? . . .

Night. Because her name is not pleasant to hear. . . . But let us talk of something else. . . . The Cat tells me that you have come here to look for the Blue Bird. . . .

Tyltyl. Yes, ma'am, if you will allow me. . . . Will you tell me where he is? . . .

Night. I don't know, dear. . . . All I can say is that he is not here. . . . I have never seen him. . . .

Tyltyl. Yes, yes. . . . Light told me that he was here; and Light knows what she is saying. . . . Will you hand me your keys? . . .

Night. But you must understand, dear, that I cannot give my keys like that to the first comer. . . . I have the keeping of all Nature's secrets and I am absolutely forbidden to deliver them to anybody, especially to a child. . . .

Tyltyl. You have no right to refuse them to

if you will allow me お差支なければ、構はなければ。

THE BLUE BIRD

ティルティル。 何故?

夜。 聞いて気持ちの悪くなる名前だから、. だが、何か他の話しにしようよ。 「猫」が言うて居るが、お前方は青い鳥を探しに此處に來たのださうぢやの。

ティルティル。 え、奥さん、構はなければ。 青い鳥は何處に居るか教へて貰へませんか?

夜。 私は知らないよ、お前。 此處に居ないことだけは私に言へるが。 私は見たことがないよ。

ティルティル。 いえ、いえ、「光」が此處に居ると言ひましたよ、「光」は確な事しか言ひません。 鍵を貸して貰へませんか?

夜。 お前、初めて來た者に私の鍵などそんなに遣れないといふことはお前も解らなけりや可けない。 私は「自然」の秘密をすつかり預つてゐるのだよ、そしてそれを誰にでも渡すことは固く禁じられてゐるのだよ、殊に子供に渡すことなどは

ティルティル。 ^{あなた}貴女には「人間」がくれと頼む時にはそれを斷

Light knows what she is saying 彼女の言ふだけの事は知つてゐる、即ち彼女は知つてゐることを言ふので、他は言はぬ。

like that そんなに。

I have the keeping of... 私が...を預つて(保管して)ゐる。

THE BLUE BIRD

Man when he asks you for them. . . . I know that. . . .

Night. Who told you? . . .

Tyltyl. Light. . . .

Night. Light again! Always Light! . . . How dare she interfere, how dare she? . . .

The Dog. Shall I take them from her by force, my little god? . . .

Tyltyl. Hold your tongue, keep quiet and try to behave. . . . (*To Night*) Come, madam, give me your keys, please. . . .

Night. Have you the sign, at least? . . . Where is it? . . .

Tyltyl. (*touching his hat*) Behold the Diamond! . . .

Night. (*resigning herself to the inevitable*) Well, then. . . . Here is the key that opens all the doors of the hall. . . . Look to yourself if you meet with a misfortune. . . . I will not be responsible. . . .

Bread. (*very anxiously*) Is it dangerous? . . .

How dare she interfere? 彼女はどんなに干渉して見る気が、どこまで差出がましいのだ? dare は Interrogative (疑問) の時も後に來

THE BLUE BIRD

る権利はないんです。……僕は知ってるんです。……

夜。誰がさう言つた?……

ティルティル。「光」が。……

夜。また、「光」か!何時も「光」だ!どこまで差出がましいんだ、どこまで?……

犬。私が力づくで取つてやりませうか、坊ちゃん?……

ティルティル。黙つておゐで、静かに行儀よくしろよ。……(「夜に) さあ、奥さん、僕に鍵を下さい、どうか。……

夜。せめて印しは持つておゐでちやらう?……何處にあるかの?……

ティルティル。(帽子に手をやつて)、このダイヤモンドを見て下さい!……

夜。(どうも仕方ないと諦めて)あゝ、それでは。これが廣間の扉をみんな開ける鍵だよ。……若し不幸な目に會ひでもしたら自分で氣をお付け。……私は知らないよ。……

麵包。(非常に心配さうに)危険なんですか?……

る動詞の to を省く。前参照。

behave (は be av: yoursef = conduct yourself with propriety (行儀よくしなさい) と使はれる語で、主に大人が子供に言ふ言葉。

at least 前出。

resigning herself to the inevitable = submitting herself to a necessity 罷むを得ざる事は仕方ないと諦めて。

Look to yourself にお前自身に注意せよ、お前自分で氣をお付け。

Night. Dangerous? . . . I will go so far as to say that I myself do not know what I shall do when certain of those bronze doors open upon the abyss. . . . All around the hall, in each of those basalt caves, are all the evils, all the plagues, all the sicknesses, all the terrors, all the catastrophes, all the mysteries that have afflicted life since the beginning of the world. . . . I have had trouble enough to imprison them there with the aid of Destiny; and it is not without difficulty; I assure you, that I keep some little order among those undisciplined characters. . . . You have seen what happens when one of them escapes and shows itself on earth. . . .

Bread. My great age, my experience and my devotion make me the natural protector of these two children; therefore, Mrs. Night, permit me to ask you a question. . . .

go so far as to... 第二幕註参照。
catastrophes 急變、大災害等。

夜。危険ですかつて?……あの青銅の扉のどれかど開いて底無し穴が見える時には、この私でもどうしてよいか分らないといふことだけは言つて置かうよ。この廣間の周圍にはこの玄武岩の洞穴の一つ一つには、世界の開けるとから人を悩ませてゐる禍ひといふ禍、疫病といふ疫病、病といふ病、恐れといふ恐れ、災難といふ災難、不思議といふ不思議があるんだよ。……私は「運命」の助けを借りて漸く彼處にさういふ者を皆押込めたのだ。さういふ始末に行かない者共の間を少しでもきまりを付けてやるのは、ほんとに一通りではないのだよ。……その中の一人でも抜け出して地の上に現れる時にはどんな事が始まるか、お前も見て来たことだ。……

麵包。私は年を取つてゐますし、経験もあり、一生懸命でもありますから、自然この二人のお子さん達の保護者になれますよ。……そこで、「夜」の奥さん、一つ伺ひたいことがあるんですが。……

keep some little order 幾らかでもきまりを付ける。
undisciplined characters 規律なき輩、仕末にいかぬ者共。
show it self = is seen in public 現はれる。
My...make me the natural protector of ...が私を...の自然の保護者とする、即ち私は自分の...で自然...の保護者になる。

THE BLUE BIRD

Night. Certainly. . . .

Bread. In case of danger, which is the way of escape? . . .

Night. There is no way of escape.

Tyltyl. (*taking the key and climbing the first steps*) Let us begin here. . . . What is behind this bronze door? . . .

Night. I think it is the Ghosts. . . . It is long since I opened the door and since they came out. . . .

Tyltyl. (*placing the key in the lock*) I will see. . . . (*To Bread*) Have you the cage for the Blue Bird? . . .

Bread. (*with chattering teeth*) I'm not frightened, but don't you think it would be better not to open the door, but to peep through the keyhole? . . .

Tyltyl. I don't want your advice. . . .

Mytyl. (*suddenly beginning to cry*) I am frightened! . . . Where is Sugar? . . . I want to go home! . . .

Sugar. (*eagerly, obsequiously*) Here I am,

THE BLUE BIRD

夜。 好いとも。

麵包。 危険な場合には、何方が^{どっち}逃路です?

夜。 逃路なんぞないよ。

ティルティル。 (鍵を取つて初の階段を登りかけて) 此處から出
掛けよう。 この青銅の扉の後ろは何だらう?

夜。 其處は「幽霊」だらうよ。 私が扉を開けて「幽霊」
共が出てからもう久しいものだよ。

ティルティル。 (鍵を錠に當てがつて) 見てやらう。 (「麵
麴」に) お前青い鳥を入れる籠を持つてるか?

麵包。 (齒をガタガタ震はせて) 私は怖かないんです、けれど
扉は開けないで鍵孔から覗く方が好かありませんか?

ティルティル。 そんな事言つて貰はないでも好いよ。

ミティル。 (急に泣き出して) 私怖いわ! 「お砂糖」は何
處? 私家に歸りたいわ!

砂糖。 (一生懸命に、諛ふやうに) 此處です、嬢ちゃん、此處

It is long since I...前出。

miss, here I am. . . . Don't cry, I will break off one of my fingers so that you may have a sugar-stick. . . .

Tyltyl. Enough of this! . . .

(*He turns the key and cautiously opens the door. Forthwith five or six Ghosts of strange and different forms escape and disperse on every side. Mytyl gives a scream of affright. Bread, terrified, throws away the cage and goes and hides at the back of the hall, while Night, running after the Ghosts, cries out to Tyltyl.*)

Night. Quick! Quick! . . . Shut the door! . . . They will all escape and we should never be able to catch them again! . . . They have felt bored in there, ever since Man ceased to take them seriously. . . .
(*She runs after the Ghosts and endeavours, with the aid of a whip formed of snakes, to drive them back to the door of their prison.*)

so that you may..., あなたが...するやうに。

ですよ。……泣いちゃ可けません、私は指を一本折つて上げます、砂糖棒を召上るやうに。……

ティルティル。これで好いぞ!……

(彼は鍵を廻し、用心して扉を開ける。と見る間に、奇妙な種々の姿の五六人の「幽霊」が抜け出して来て、四方八方に散らばる。ミティルは驚き怖れてキツと叫ぶ。「麵包」も恐れて籠を投出し、廣間の後ろに逃げ隠れる、其間に「夜」は「幽霊」共を追掛けて行つてティルティルに大聲で叫ぶ。)
夜。早く!早く!……扉をお締め!……みんな逃げ出して行つて、復どうしても捕まへられなくなるよ!……「人間」が「幽霊」といふ者を眞面目に考へなくなつてから、あれ達は彼處に入つて退屈してゐたのだ。……(「夜」は「幽霊」共を追掛けて、一生懸命に蛇で出来た鞭の助けを借りて、彼等を牢獄の扉の方に追戻さうと努める。)

running after..., ...を追かけて。

have felt bored 退屈してゐる。bored は bore (退屈させる) の過去分詞から形容詞に轉形したもの。

in there 中にゐて、その反對として out there (外にゐて) 等使はれる。

take them seriously の take は「考へる」。

formed of snakes 數多の蛇で作られた。

THE BLUE BIRD

Help me! . . . Here! Here! . . .

Tyltyl. (to the Dog) Help her, Tylô, at them!

. . .

The Dog. (leaping up and barking). Yes, yes, yes! . . .

Tyltyl. And Bread, where's Bread? . . .

Bread. (at the back of the hall) Here. . . . I am near the door to prevent them from going out. . . .

(One of the Ghosts moves in that direction and he rushes away at full speed, uttering yells of terror.)

Night. (to three Ghosts whom she has seized by the neck) This way, you! . . . (To Tyltyl)

Open the door a little. . . . (She pushes the Ghosts into the cave.) There, that's it.

. . . (The Dog brings up two more.) And these two. . . . Come, quick, in with you!

. . . You know you're only allowed out on All-hallows. . . . (She closes the door.)

at them (は flying at them (彼等に飛付いて) の意。

prevent them from going out 彼等が出て行かぬやうに妨げ

THE BLUE BIRD

ておくれ! . . . それ! . . . それ! . . .

ティルティル。(「犬」に) 助太刀してやれ、ティロー、^{あいつら}彼奴等に飛び付いてさ! . . .

犬。(跳び立つて吠えながら) はい、はい、はい、. . .

ティルティル。それから「麵包」は、「麵包」は何處だ? . . .

麵包。(廣間の後ろで) 此處です。 . . . 私は扉の傍で彼奴等の出て行くのを喰止めておます。 . . .

(「幽霊」共の一人は「麵包」のゐる方に進んで行く。すると「麵包」は恐怖の叫びを上げて全速力で走り去る。)

夜。(三人の「幽霊」共の襟首を押へて) 此方だ、これ! . . .

(ティルティルに) 少し扉をお開け。 . . . (彼女は「幽霊」共を洞穴に押入れる。) それ、其處だ。 . . . (「犬」が猶二人捕へて来る。) それからこの二つも。 . . . さあ、早く、入つてしまへ! . . . お前達は萬聖節にしか出るのを許されてゐないのは知つてゐるだらう。 . . . (彼女は扉を閉ぢる。)

る、出て行くのを喰止める。

whom she has seized by the neck その頭を捕へたといふ言方。第一幕註参照。

Come, quick, in with you! 早く入つてしまへ。此の with you は屢々亂暴な命令の場合に使はれる。例:— Be off with you! (行つてしまへ)。

you're only allowed out は out の前に to be を補つて見る。

All-hallows 第二幕第二場参照。

Tyltyl. (*going to another door*) What's behind this one? . . .

Night. What is the good? . . . I have already told you the Blue Bird has never been here. . . . However, as you please. . . . Open the door, if you like. . . . It's the Sicknesses. . . .

Tyltyl. (*with the key in the lock.*) Must I be careful in opening? . . .

Night. No, it is not worth while. . . . They are very quiet, the poor little things. . . . They are not happy. . . . Man, for some time, has been waging such a determined war upon them! . . . Especially since the discovery of the microbes. . . . Open, you will see. . . .

(*Tyltyl opens the door quite wide. Nothing appears.*)

Tyltyl. Don't they come out?

Night. I told you they are almost all poorly and very much d'scouraged. . . . The doctors

as you please は前に do を補つて見る。即ち、お前の勝手におし。

ティルティル。(別の扉に行つて)この後ろは何? . . .

夜。何だね? . . . 青い鳥は此處には決してゐないともう言つて置いたぢやないか。 . . . だが、勝手におし。 . . . 開けたければ、その扉をお開けよ。 . . . 其處にゐるのは「病氣」共だよ。 . . .

ティルティル。(鍵を錠に差して)氣を付けて開けないと可けないの?

夜。なに、それ程のことはないよ。 . . . 大へんおとなしい可愛さうな小さな者共だよ。 . . . あれ達は幸福でないのぢや。人間が、此頃は、あれ達に随分手ひどい戦争を仕掛けてゐるのでね! . . . 殊に、病菌が発見されてからは尙更だよ。開けてご覽、見えるだらうよ。 . . .

(ティルティルは扉を廣く開ける。何物も出て來ない。)

ティルティル。「病氣」達は出て來ないの?

夜。あれ達は殆どみんな具合が悪くて、大へん意氣地がなくなつてゐると言つたらう。 . . . お醫者様もあれ達には随分

it is not worth while は次に to be careful を補つて、「氣を付ける程のことではない」の意。 *worth while* は第二幕初の註参照。

the poor little things は主格の they と同格。

for some time こと暫く。

waging = carrying on war 戦争を仕掛けて。

determined 斷乎たる、一步も退かぬ等。

microbes 微生物、病菌。

THE BLUE BIRD

are so unkind to them. . . . Go in for a moment and see for yourself. . . .

(Tyltyl enters the cavern and comes out again immediately.)

Tyltyl. The Blue Bird is not there. . . . They look very ill, those Sicknesses of yours. . . . They did not even lift their heads. . . . *(One little Sickness in slippers, a dressing-gown and a cotton nightcap escapes from the cavern and begins to frisk about the hall.)* Look! . . . There's a little one escaping. . . . Which one is it? . . .

Night. It's nothing, one of the smallest; it's Cold-in-the-Head. . . . It is one of those which are least persecuted and which enjoy the best health. . . . *(Calling to Cold-in-the-Head.)* Come here, dear. . . . It's too soon yet; you must wait for the winter. . . . *(Cold-in-the-Head sneezing, coughing and blowing its nose, returns to the cavern and Tyltyl shuts the door.)*

for yourself 第一幕註参照。

THE BLUE BIRD

不親切だからね。一寸入つて獨りで見てください。……

(ティルティルは洞穴に入り、復直に出て来る。)

ティルティル。 青い鳥は彼處にはゐないや。……大へん具合が悪さうだよ、あの「病氣」達は。……頭さへ上げなかつたよ。……(スリッパを穿き、寝衣を着、木綿の帽子を被つた一人の小さな「病氣」が洞穴から拔出して来て廣間を跳び廻り始める。)あら!……一人小さいのが逃げ出してゐるよ。……あれはどれ?……

夜。 何でもない、一番小さいのだよ、あれは「鼻風邪」だよ、一番苛められない、一番達者な中の一人だよ。……(「鼻風邪」に聲をかけて)此處へお出で、これ。……まだ早過ぎるよ、冬になるのを待つてゐなけりや可けない。……(「鼻風邪」は噴嚏をしたり、咳をしたり、鼻をかむだりして、洞穴に戻つて行く、ティルティルは扉を閉ぢる。)

those Sicknesses of yours お前のあの「病氣達」は。 t'is earth of ours (我々のこの地球)等と同じ言方。 they と同格である。

dressing-gown 寝衣。

nightcap 老人、病人等が就眠の時被る頭巾。 夜帽。

nothing 何でも無い物、つまらぬ物。

Cold-in-the-Head 所謂「鼻風邪」。

It's too soon yet まだ早過ぎる。

blowing its nose 鼻をかむで。

THE BLUE BIRD

Tyltyl. (*going to the next door*). Let us look at this one. . . . What is in here? . . .

Night. Take care! . . . It is the Wars. . . . They are more terrible and powerful than ever. . . . Heaven knows what would happen if one of them escaped! . . . Fortunately, they are rather heavy and slow-moving. . . . But we must stand ready to push back the door, all of us together, while you take a rapid glance into the cavern. . . .

(*Tyltyl, with a thousand precautions, opens the door ajar so that there is only a little gap to which he can put his eye. He at once doubles his back against the door, shouting.*)

Tyltyl. Quick! Quick! . . . Push with all your might! . . . They have seen me! . . . They are all coming! . . . They are breaking down the door! . . .

Night. Come, all together! . . . Push hard! . . . Bread, what are you doing? . . . Push,

Heaven knows=I don't know 知つてゐるのは天だけで、自分な

THE BLUE BIRD

ティルティル。(次の扉の所に行つて)此度はこれを見よう。

……此處には何がゐるの?……

夜。 氣をお付け!……其處にゐるのは「戦争」達だよ。……それ達は今までよりずつと恐ろしく強くなつてゐるのだよ、その中の一人が抜け出したらほんとにどんな事が始まるかわからないよ!……幸ひなことに、あれ達はどつちかと言ふと體が重くて動くことも遅いのさ。……だが私達皆して扉を押へ付けるやうにしてゐなけりや可けない、その間にお前は洞穴の中を一寸のぞくのだよ。……

(ティルティルは用心に用心して、扉を細目に開ける、随つて漸く眼を遣れる位の小さな隙目がある丈けである。彼は直に脊を二重に曲げて扉を押へて叫ぶ。)

ティルティル。 早く!早く!……カーばいに押すんだよ!……

^{あいつら}彼奴等は僕を見たんだ!……彼奴等はみんなやつて來るところだ!……扉を壊さうとしてゐるんだ!……

夜。 さあ、みんな一緒にさ!……一生懸命に押すんだよ!

「麵包」 お前は何をしてる?……押すんだよ、みんなで!

どは分らないの意、即ち結果の豫想も出來ない場合などに云ふ。

so that それ故、従つて、等結果をあらはす句。

doubles his back 背を二重に屈める。

THE BLUE BIRD

all of you! . . . How strong they are! . . .
Ah, that's it! . . . They are giving way!
. . . It was high time! . . . Did you see
them? . . .

Tyltyl. Yes, yes! . . . They are huge and
awful! . . . I don't think that they have the
Blue Bird. . . .

Night. You may be sure they haven't. . . . If
they had, they would eat him at once. . . .
Well, have you had enough of it? . . . You
see there is nothing to be done. . . .

Tyltyl. I must see everything. . . . Light said
so. . . .

Night. Light said so! . . . It's an easy thing
to say when one's afraid and stays at home. . . .

Tyltyl. Let us go to the next. . . . What is
in here? . . .

Night. This is where I lock up the Shades and
the Terrors. . . .

Tyltyl. Can I open the door? . . .

Night. Certainly. . . . They are pretty quiet;

They are giving way 彼等は負けかゝつてゐる。

THE BLUE BIRD

何て強いんだらう! . . . あゝ、さうさう! . . . 彼奴等もう
負けかけたよ! . . . 危いところだつた! . . . お前彼奴等を
見たかえ? . . .

ティルティル。 えゝ、えゝ! . . . 大きくて恐ろしかつた! . . .
彼奴等が青い鳥なんぞ持つてやしない。 . . .

夜。 持つてなぞゐるものかね。 . . . 若し持つてたら、直ぐに
食べてしまふだらうよ。 . . . さあ、これでもう好いだらう?
. . . . この上仕様もないものね。 . . .

ティルティル。 僕は何もかも見なけりやならないんだ。 . . .
「光」がさう言つたもの。 . . .

夜。「光」がさう言つたつて! . . . 自分は怖がつて家にゐて、
口で言ふのは何でもないことさ。 . . .

ティルティル。 次の扉に行かうよ。 . . . 此處には何がゐるの?

夜。 其處には私が「蔭」と「恐怖」を押込めてあるのだよ。 . . .

ティルティル。 扉を開けて好い? . . .

夜。 好いとも。 . . . それ達は可成りおとなしいよ、「病氣」

high time 丁度よい時。 此處では It was...であるから、あれが丁
度よい時であつた、も少しで危いところであつた、の心持ち。

you may be sure they haven't 彼等は持つてゐないと思つてよ
ろしい、持つてなんぞゐるものかれ。

they are like the Sicknesses. . . .

Tyltyl. (*half-opening the door, with a certain mistrustfulness, and taking a look into the cavern*). Are they not there? . . .

Night. (*looking into the cavern in her turn*)
Well, Shades, what are you doing? . . .
Come out for a moment and stretch your legs; it will do you good. . . . And the Terrors also. . . . There is nothing to be afraid of. . . . (*A few Shades and a few Terrors, in the shape of women, shrouded, the former in black veils and the latter in greenish veils, piteously venture to take a few steps outside the cavern; and then, upon a movement of Tyltyl's, hastily run back again.*) Come, don't be afraid. . . . It's only a child; he won't hurt you. . . . (*To Tyltyl*) They have become extremely timid, except the great ones, those whom you see at the back. . . .

Tyltyl! (*looking into the depths of the cave*)

a certain...=some though perhaps not much 幾分、何となく。

共のやうだよ。

ティルティル。(何だか疑はしいといふ風で扉を半ば開け、洞穴を一寸覗きながら)居ないのかな?.....

夜。(此度は自分で洞穴を覗いて)これ、「蔭」達や、お前達何をしてゐるだえ?.....一寸出て来て散歩でもおし。體の爲めになるよ。.....それから「恐怖」達もさ。何も怖いことはないよ。.....(全身薄衣を纏うた女の姿の「蔭」と「恐怖」が二三人——「蔭」の方は黒いヴェール、「恐怖」の方は綠色掛つたヴェールを纏うて——洞穴の外に二三歩見るも哀れげに出て来る。が、ティルティルが一寸身動きしたばかりに、復慌だしく走り戻る。)さあ、怖がらないでさ。.....高が子供ぢやないか、お前達に何もしやしないよ。.....

(ティルティルに)あれ達はひどく臆病になつたよ、後ろの方にゐるあの大きいのは別だがね。.....

stretch your legs 散歩にでも出よ。

do you good お前の爲めになる、藥になる。good は名詞。

shrouded 主として死人が屍衣に包まれることに使ふが、此處ではヴェールに包まれて。

venture to...=dare to...。

THE BLUE BIRD

Oh, how terrifying they are! . . .

Night. They are chained up. . . . They are the only ones that are not afraid of Man. . . . But shut the door, lest they should grow angry. . . .

Tyltyl. (going to the next door) I say! . . . This is a darker one. . . . What is here?

Night. There are several Mysteries behind this one. . . . If you are absolutely bent upon it, you may open it too. . . . But don't go in. . . . Be very cautious and let us get ready to push back the door, as we did with the Wars. . . .

Tyltyl. (half-opening the door; with unparalleled precautions and passing his head fearsomely through the aperture). Oh! . . . How cold! . . . My eyes are smarting! . . . Shut it quickly! . . . Push, oh, push! They are pushing against us! . . . (*Night, the Dog, the Cat and Sugar push back the door.*) Oh, I saw! . . .

terrifying 人を怖れさせるやうな、即ち恐ろしい。
lest they should grow angry 怒り出すといけないから。例:-

THE BLUE BIRD

ティルティル。(洞穴の奥を覗き込んで)あゝ、あれ達を見ると
ゾツとするやうだ。……

夜。あれ達は鎖で繋いであるよ。……あれ達だけが「人間」
を恐れない連中なのだ。……だが、扉をお締め、怒り出す
と可けないから。……

ティルティル。(次の扉の所に行つて)こりや!……此處はまだ
暗いぞ。……此處には何がゐるの?……

夜。此の扉の後ろには何人も「不思議」がゐるのだよ。
お前どうしても其處を開けたければ、それも開けても好
い。……だが入つては可けないよ。……充分用心して、あ
の「戦争」にしたやうに、みんなで扉を押へ付けるやうに
しようよ。

ティルティル。(扉を半ば開け、此上ない用心の仕様で怖々隙
間から頭を出して)、おゝ!馬鹿に寒い!……眼がヒリヒリ
する!……早く締めておくれ!……押してよ、よう、押し
てよ!……向うが押し返してゐるんだよ。

(「夜」、「犬」、「猫」と「砂糖」一緒になつて扉を押し返す。)
あゝ、見たよ!……

Take care lest you should hurt yourself. 怪我をされるといけないから
氣を付けよ。

are...bent upon it. その方に心を傾ける、その方に熱心である。

unparalleled 類ふもの無き。

fearsomely 怖々。

smarting 薬などがしみてヒリヒリ痛む。

Night. What? . . .

Tyltyl. (upset) I don't know, it was awful! . . .

They were all seated like monsters without eyes. . . Who was the giant who tried to seize me? . . .

Night. It was probably Silence; he has charge of this door. . . . It appears to have been alarming? . . . You are quite pale still and trembling all over. . .

Tyltyl. Yes, I would never have believed. . . . I had never seen. . . . And my hands are frozen. . . .

Night. It will be worse presently if you go on. . . .

Tyltyl. (going to the next door) And this one? . . . Is this terrible also? . . .

Night. No, there is a little of everything here. . . . It is where I keep the unemployed Stars, my personal Perfumes, a few Glimmers that belong to me, such as Will-o'-the-

has charge of...=be in charge of..., ...を預つてゐる、...の番をしてゐる。

all over 全身。

夜。何をね?.....

ティルティル。(ドキマギして)僕にや分らないが、恐ろしいよ!.....みんな眼無しの怪物みたいに座つてゐるのさ。.....僕を掴まうとした大男は誰だつたの?.....

夜。多分それは「沈黙」だつたらう、彼れはこの扉の番をしてゐるのだよ。.....怖いやうだつたかね?.....お前はまだ眞蒼な顔をして體中慄へてゐるよ。.....

ティルティル。え、まさかあんなものとは。.....僕は見たことがなかつた。.....これ手が凍つてしまつてゐる。.....

夜。まだやれば、直きにえらいことになるだらうよ。.....

ティルティル。(次の扉の所に行つて)それからこの扉は?.....これも怖いの?.....

夜。いや、其處にはいろんなものが少しばかりある。.....

其處に私が使はない「星」だの、私の身に付ける「香氣」だの、私に付いてゐる少しばかりの「閃き」だの、「鬼火」

I would never have believed (は後に if I had seen him を補つて見る。たとひ見たとしても、私は信じなかつただらう。即ち裏に、「まさかあんなものがあらはれるとは」の意がある。

It will be worse 前よりは事が悪くなるだらう、一層大變な事にならう。

a little of everything どんなものでも少しづつ。

personal 身に付けてゐる。

THE BLUE BIRD

Wisps, Glowworms and Fireflies, also the Dew, the Song of the Nightingales and so on. . . .

Tyltyl. Just so, the Stars, the Song of the Nightingales. . . . This must be the door. . . .
Night. Open it, if you like; there is nothing very bad inside. . . .

(Tyltyl throws the door wide open. The Stars, in the shape of beautiful young girls veiled in many-coloured radiancy, escape from their prison, disperse over the hall and form graceful groups on the steps and around the columns, bathed in a sort of luminous penumbra. The Perfumes of the Night, who are almost invisible, the Will-o'-the-Wisps, the Fireflies and the transparent Dew join them, while the Song of the Nightingales streams from the cavern and floods the Palace of Night.)

Mytyl. (*clapping her hands with delight*). Oh, what pretty ladies! . . .

Tyltyl. And how well they dance! . . .

Will-o'-the-Wisps 鬼火、狐火。 *Nightingales* 夜でも好い聲で歌ふ

THE BLUE BIRD

のやうなものや、「土螢」や「螢」や、それから「露」や「夜鶯の歌」や、まあそんなものを入れてあるのだよ。

ティルティル。 どうも然うだ、「星」だの、「夜鶯の歌」だのつて。これがその扉に違ひない。……

夜。開けたけりや、開けてご覽。中に悪い者は何もゐやしないよ。……

(*ティルティル*扉を廣く開ける。種々の色の光輝に覆はれた美しい少女の姿をした「星」達が牢獄から脱け出て廣間一ぱいに散り擴がり、階段の上や圓柱の周圍に明るい半陰影らしいものを浴びて、美しい幾つもの群になる。殆ど眼には見えない「夜の香」や「鬼火」や「螢」や透通つた「露」がその仲間に加はる。その間に「夜鶯の歌」が洞穴から流れ出て、夜の宮殿に充ち溢れる。

ミティル。 (嬉しがつて手を拍いて) まあ、綺麗な女の方だと！……

ティルティル。 上手に踊るね！……

と云ふ筈に似た鳥。

a sort of...=something like..., ...らしいもの。

penumbra 不透明な物體の蔭の周圍に出来る稍蔭つた部分。半陰影。